

<平成26年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	5
2. 評価の体系	5
III 事業別評価	
<平成25年度実施事業>	
1. 第35回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）	6
<平成26年度実施事業>	
1. 第5回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課）	8
2. 第53回鳥取県合唱フェスティバル（全日本合唱コンクール鳥取県大会）（鳥取県合唱連盟）	12
3. 第58回鳥取県美術展覧会（鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課）	14
4. 第5回能楽鑑賞の夕べ（鳥取県能楽連合会）	16
5. 音楽日和ライブフェスティバル鳥取2014 vol.16（鳥取音楽座）	18
6. 鳥取和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響2014」（鳥取県和太鼓連盟）	20
7. 民踊のつどい～つどい 咲かそう おどりの輪～（鳥取県民踊指導者連盟）	22
8. 第38回鳥取県川柳大会（鳥取県川柳作家協会）	24
9. 第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014 西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	26
10. 第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014 中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	32
11. 第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	36
12. 県民による第九倉吉公演（県民による第九公演実行委員会）	40
13. 第43回鳥取県民短歌大会（鳥取県歌人会）	42
14. 第41回鳥取県演劇連盟合同公演「倉吉里見物語」（鳥取県演劇連盟）	44
15. ヤングピアニストコンサート2014（鳥取県ピアノ指導者協会）	48
16. 第19回鳥取県美術家協会作品展（鳥取県美術家協会）	50
17. 第19回鳥取県俳句大会（鳥取県俳句協会）	52
18. 第36回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）	56
19. 吉月をどり（鳥取県日本舞踊連合会）	58
20. 第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014 メイン事業 創作ミュージカル「アオイ」（とりアートミュージカル公演実行委員会）	60
IV 専門家評価	64
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	67
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告執筆担当一覧	68
○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	69
○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	70

I 総合評価

1. 今年度の評価方法

評価方法は、前年度と同様である。大項目、中項目を達成するための小項目の目標は、各事業の実施者に設定してもらった。

評価の客観性を確保するため、各事業とも原則として複数名の評価委員が検証することとした。ただし事情により1名しか検証できない事業が2件あった。

実施者が設定した目標に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、参加検証した委員それぞれが評価レポートを作った。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当が総合的にまとめたものを委員会で議論。意見交換し、検討した上で各事業の評価原案を作成した。

実施者との認識の相違や事実関係の間違い防止のため、事業実施者を対象に評価報告会を開いて評価原案を提示。実施者から意見や指摘をいただいた上で、より適正な内容や表現となるよう原案を修正し、評価報告書としてまとめた。評価報告会は、報告書をよりよいものにするというだけでなく、実施者と評価委員との相互理解の場として、必要なものである。

達成度は、昨年同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。なお「未評価」については、達成度のパーセンテージから除外している。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。写真も組み入れ、事業の様子を分かりやすくした。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

2. 今年度の事業評価

評価対象とした事業は、次の通り、合わせて20事業である。

- ① とりアート・メイン事業（1事業）
- ② とりアート・東、中、西部の各地区事業（3事業）
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業）
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業および基本型事業（14事業）

（1）とりアートメイン事業「創作ミュージカル『アオイ』」

「宝物」をテーマに全国から募集した原案の優秀賞受賞作品をベースに、プロが脚本化したオリジナルのミュージカル作品で、出演者はオーディションで選ばれた一般県民である。演出は文学座の西川信廣氏、脚本も文学座の瀬戸口郁氏とプロが担当。舞台監督なども西川氏に連なるプロが担ったほか、照明デザインや音響スタッフは県内のプロ業者が担当した。これらスタッフにプロを起用することにより、一般県民が出演するミュージカルとしては質の高い舞台に仕上がっていた。公演当日に出演者の1人が急病で出られなくなるというアクシデントがあったようだが、別の役の出演者が一人二役でしのいだ。これは日頃から熱心に稽古に取り組んでいた県民出演者の努力の賜物でもある。優秀なプロの仕事を感じることのできた県民出演者や関係者には大きな財産になったであろう。

また、日頃から訓練されたダンス活動者の質の高いダンスが加わることで作品を引き締めていたほか、子どもたちのダンスもほほ笑ましいものであった。

脚本は、分かりやすいストーリーで年齢を問わず楽しめる作品であった。時代を遡って自分探しをするという設定は、普遍的な手法でありテーマでもあるが、それゆえにありがちな展開になり、独自性の面ではいま一步となったのはやや残念だった。もう少し鑑賞者に多様な受け止め方ができる余地があればなお良かった。

当日の会場運営については、県内のミュージカル団体などの協力も得られていたほか、随所に観客に対する配慮が行き届いていた。中でも特筆したいのはアンケートの回収率。65.9%と極めて高く、事業実施者の取り組み姿勢が感じられる。

大きな成果があった一方で、課題として挙げられるのは観客の少なさだ。メイン事業の予算は2500万円規模。多額の県費を使う事業で2回公演合わせての観客数が675人とどまったのはなぜか。広報については、前年度のメイン事業より露出が多く、マスメディアのほか特に会場となる県西部では地元のコミュニティFMなどでもPRに努めており、積極的な広報展開は評価できるが、それらが具体的に集客に結びつかなかった。幅広い年齢層の集客を目指した反面、ターゲットの絞込みができなかったのも一因ではないか。県からの補助が、2500万円のわずか8%以下の県文化団体連合会加盟団体主催事

業の基本型モデル事業で903人（演劇連盟）、855人（第九）の鑑賞者を集める努力をした公演がある中で、メイン事業ではチケットの積極的な販売など集客の方法や努力にもっと工夫があってもよかったと思われる。

もう一つの課題は、今公演の成果を、今後どのように地元に戻していくかである。作品中に生演奏されていた音楽については、今後とりアート西部地区事業などで演奏するなどして活かしたいという事業実施者の思いもあるようだ。過去のメイン事業のほとんどは単発の打ち上げ花火で終わっており、規模を縮小した再演や地域での同様な事業の取り組みが成されたのは1事業だけである。今公演の事業実施者である委員会は事業が終了すれば解散してしまう。メイン事業の成果を県民の「宝物」にするにはどうすればよいか、とりアート全体としても考えていくことが求められる。

（2）とりアート各地区事業

今年度の地区事業においては、過去において大きな課題とされてきた来場者増に大きな成果がみられた。特に中・西部に比べて少ないといわれてきた東部地区でも大いににぎわいをみせた。これらは、各地区企画運営委員会や事務方の知恵と努力の積み重ねが結実したものであろう。

開催時期について、近年、西部地区事業は冬場の2月に開催されていたが、今年度は10月25、26日の西部を皮切りに、中部、東部と3週連続で開かれた。

西部地区事業は、会場をこれまでの米子コンベンションセンターから、「とっとり花回廊」に設定するという大胆な変更挑戦された。米子市の中心部から西伯郡の屋外施設であり、当日の天候が集客に大いに影響する会場へという、一種の賭けともいえるチャレンジだったが、当日は好天に恵まれたことで目論見が成功を収めた。花回廊とともに楽しめることで敷居が低くなり、普段ならとりアートに訪れない層も来場者として取り込むことができていた。一方で、会場については課題もみられた。広いために同時多発的にあちこちでさまざまな催しがあり、文化芸術の催しというよりは学園祭的になってしまった面もあり、「いつものまちで文化する」というコンセプトとは異なるニュアンスとなっていた。しかし西部は常に新たな試みに挑戦する姿勢があり好感が持てる。今回得られた会場面での課題を分析し、次につなげられることを期待している。

中部地区事業では、開幕イベントに園児のマーチングバンドや太鼓演奏などを設定。多くの保護者が来場し活気のあるオープニングとなった。ワークショップの設定なども奏功したためか、昨年に続いて親子連れの姿が多く見られ、裾野の拡大に寄与していた。催しの数は50企画と過去最多でにぎやかだった反面、たくさんのジャンルの幅広い企画があるため、実施者の立場でのプログラム設定となってしまう、参加したい企画と見たい催しが重なることも多かった。この点は鑑賞者目線でプログラムを設定する工夫が求められよう。小ホールでのプロレス開催も大胆な発想でプロレスファンの来場者が多かったが、遅い時刻からの開催であり、プロレスの入場者がほかの催しの周遊に結びつかなかったのは残念。評価委員の中には「人気企画があるのは全体の集客数を増やす上では大切だが、他にもやっているものでなく、とりアートだからこそできる質の高い文化芸術を応援してくれる支援者（鑑賞者）を増やしていくことが大切である」という意見もある。なお、アンケート回収率や満足度は3地区中、中部が最も高いことやファミリー層のリピーターの多さは大いに評価したい。

東部地区事業は、昨年度の評価において「内容・集客においてややもの足りないところがあった」との指摘があったが、今年度は会場レイアウトを変更するなどさまざまな工夫をし、集客やにぎわいの面で前進していた。智頭町や鳥取市内の企業などとの連携も評価したい。

一般的に事業実施者は、制作努力の背景から、実施した内容を肯定的にとらえてしまい、ともすれば自己満足に陥りがちだが、東部地区企画運営委員会は自己評価における反省点や課題の抽出が積極的になされており、客観的な視点から事業をより良くしようという姿勢が顕著といえる。残念なことにその分、アンケート回収率の低さが際立つ。鑑賞者の声を反省や課題解決に活かすためにも、さらなる回収率向上の努力をしてほしい。

共通の課題として、来場者数のカウント方法が企画参加の「のべ人数」となっており、実際に来場した人数そのものではないことが挙げられる。これだと企画数が増えれば、それに比例して人数が増えていく。評価を受ける立場となると、来場者数を増やすことに意識が向いてしまう傾向があるのは理解できるが、数字のマジックで数が増えても意味はない。中部では実数に近づけるため、倉吉未来中心の各出入口での人数カウント案も出ているといい、地区委員も実数把握を求めているようだ。より実数に近い数字でなければ、本当に効果のある広報のあり方や企画内容を検討しにくい。

例えば、本当に興味を持って来場した方はパンフレットを必要とされるため、総合案内および各企画（催し）で、パンフレットを持っていない来場者に渡すなどし、その配布数を基準にするなど、より実

際の人数に近いカウントとなるよう統一的な基準を設ける必要がある。もちろんこの場合、やみくもにパンフレットを誰彼かまわず配布しまくらない、というのが前提ではある。

また、今回いずれの会場でも評価委員から「学園祭的」という声があった。とりアートを夏祭りのような、にぎやかなお祭りイベントにしていくのか、文化芸術に触れる機会と向上を目指すのか、方向性をきちんと定めていくことが必要だろう。

(3) 舞台系事業

舞台系事業は、伝統芸能まつり、合唱、能楽、音楽ライブ、和太鼓、民踊、第九、演劇、ヤングピアノ、日本舞踊と多彩な催しがあった。

伝統系の催しでは能楽が 500 人の鑑賞者を集められていたのは集客努力の成果である。観客数のみをみれば県主催の伝統芸能まつりが 956 人と最多だが、途中で帰られる高齢者団体も多くあり、催し全部を鑑賞された人数ではない。しかしアンケート回収率や満足度は高い結果を収め、高校生ボランティアの効果的な活用など良い点も目立った。音楽系では、第九が今回初めて、県外で活躍する県出身の若手のプロ演奏者を招聘。県内活動者への刺激となったことや 1 曲目の指揮者に県内で活動する若手指揮者を起用するなど、新たな試みに取り組みされた点が注目される。演劇では、ドラマリーディングと音楽による質の高い作品で地域の歴史財産にスポットを当て、次世代を担う子どもたちの太鼓やバレエも盛り込むという意欲的なコラボにチャレンジし、目標達成度、集客数、満足度などいずれも高い結果を収めた。これは、とりアートメイン事業の「倉吉ダブルストーリー」、「八賢伝」の成果を打ち上げ花火におおらせまいと、地域の団体が地道な活動を続けてきたことが結実したものであろう。

舞台系はいずれも、来場者数が多い中においても満足度が高い傾向にあり、鑑賞者ニーズをとらえた公演となるように努力していることがうかがえる。アンケート回収率が 10% 台の事業については、より鑑賞者ニーズを把握するためにも回収率向上に取り組み、鑑賞者の声を事業に反映させてほしい。

昨年度課題に挙がっていた鑑賞者マナーの向上については、各事業者とも工夫をされているが特効薬はないのが現状である。舞台系に共通の課題であり、地道に鑑賞者のマナー向上に向けた努力を続けてもらいたい。

(4) 展示系事業

県主催の第 58 回県展をはじめ、書道、美術の団体による展示系についてだが、まず県展では、ギャラリートークが各会場で開催され、釈文の設置など鑑賞者の立場での改善がなされていた。課題は、出品数が増えたのに入館者が昨年を下回ったことと、アンケート回収率の低さである。書道においては、回収率を昨年度の 7.9% から今年度は 40.2% と飛躍的に伸ばされており、事業実施者の積極的な姿勢と並々ならぬ努力がうかがえる。一方で展示系のフラッグシップである県展のアンケート回収率は、昨年度が 9.2% と低かったため、評価委員会としても向上を求めたのに対し、今年度はさらに下回る 8.3% にとどまった。原因分析と回収率向上が必須である。入館者増に向けては前例踏襲ではなく効果的な広報にチャレンジしてほしい。

美術は、来場者数が過去最高の 976 人を記録されたことを大いに評価したい。これまでの実績と地道な広報の成果であろう。「私の一言」には賛否両論あるようだが、作品への理解を深める上での効果はある。作品に並べることで絵への集中力が削がれるなら、来場者に配布する展示作品一覧に記すことなども方法として考えられる。アンケート回収率は向上に取り組みしてほしい。

書道は、オープニングでの合唱団みおによる唱歌と特別展示「童謡・唱歌を書く」のコラボなど意欲的な取り組みに好感が持てる。先にも書いた通りアンケート回収率向上の取り組みは素晴らしい。また、127 ページもの立派な図録を作られており、これは後々への記録にもなる。開幕式は来賓あいさつなどが多く、長すぎると感じる。来場者にとっては、主役は作品であり来賓ではない。スリム化できる点はないか検討してほしい。

(5) 文芸系事業

川柳・短歌・俳句の文芸系団体は、昨年度指摘させていただいた点について前向きに受け止められ、運営面の円滑化などに大きな改善がみられた。

川柳では、昨年度、新たな挑戦として映像による歴史紹介に取り組みされたが、段取り面の問題で上手くいかなかった。今年度は、昨年度の評価アドバイスも加えて再挑戦され、見事に成功を収められた。例年通りの催しだけにとどまらず、新たなことに取り組み姿勢は大いに評価したい。短歌は、例年安定

した運営であるが、今年度は会場を慣れ親しんだ「まなびタウンとうはく」から倉吉未来中心に変更。来場者数は昨年の73人から120人と増えており、短歌の一般公募も90人近い増加をみせている。俳句では、表彰式の段取りが大いに改善されており、スムーズな運営に向けて尽力されていたことが分かる。

活動者の高齢化がこのジャンルの抱える課題ではあるが、各会とも児童、生徒からの作品募集と表彰を通じて子どもたちへの文芸の普及、育成に取り組まれている。今後とも継続してほしい。

短い「言の葉」に織り込まれた世界の深さに触れることで、担当した評価委員からは「面白い。もっと多くの人の参加があれば」との声が例年あるなど、魅力的な事業であることは間違いない。各事業とも現在100～150人規模の来場者数ではあるが、自信を持ってPRに努められ、一般の文芸ファンを増やされることに期待する。

3 今後の評価に向けて

現在の評価は、多種多様な企画や催しを展開するとりアート地区事業、予算規模の大きなメイン事業、県主催の大規模な予算の事業、県文化団体連合会加盟団体のさまざまなジャンルの事業という、それぞれ性格の異なるものと同じシステムで行っている。文化芸術というくくりでは同一のものではあるが、各事業には大きな違いが存在する。予算規模や事業の性格に応じて評価の方法を変えていくことなども各事業をよりよくしていく上で必要であり、評価委員会としても適切な評価方法について模索を続けている。

とりアートメイン事業については、公演年度の前年度にも一定の予算がついており、プレ事業や広報などの取り組みがなされるケースもあるが、これらの評価をどのように行うかなど、大規模な事業についてはさまざまな視点での評価が求められる。

近年、県文化団体連合会加盟団体の主催事業においては、評価結果などを参考に、各事業実施者が改善や工夫に取り組まれており大きな成果が出ている。これまでの評価やアドバイスを元に各事業実施者が把握しておられる課題やその解決方法について、各団体で十分に対応していける土壌ができあがってきたのではないか。これらは評価を真摯に受け止めてくださった成果だとありがたく感じている。

少子高齢化と人口減が進む中で、今後、文化芸術分野の活動者も鑑賞者も比例して少なくなってくる。ジャンルによっては将来、団体を維持できなくなることも可能性として否定できない。これまでの事業の評価が、各団体が自ら課題を見つけて、その解決に向けて取り組むきっかけになったのなら幸いである。

また、県文化団体連合会は鳥取環境大学の文化芸術活動研究会と、県の文化芸術活動の活性化についてアンケートやヒアリングを元に分析、課題を探っておられる。それらによって各ジャンルの抱える課題や共通の課題が示されている。この研究成果も今後の活動にぜひ生かしてほしい。

平成27年4月

鳥取県文化芸術事業評価委員会

会長 尾上 明

II 実施結果概要

1. 実施事業一覧

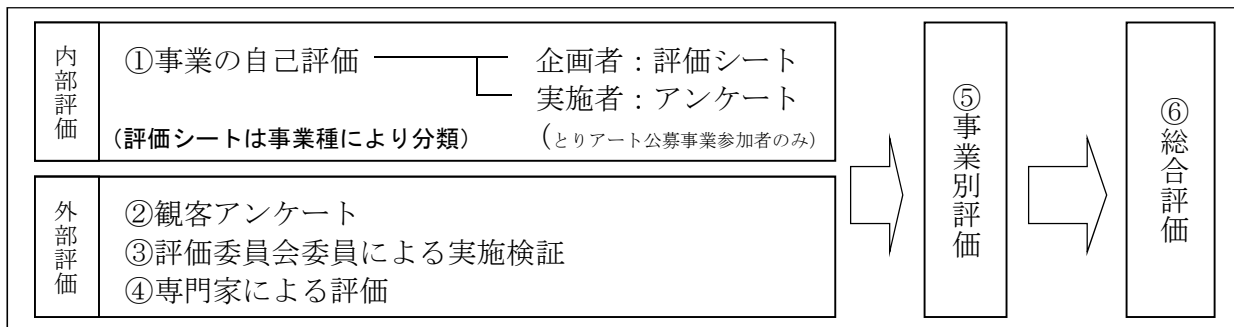
<平成25年度> (平成26年1月～3月に実施された事業)

番号	主体	団体名	期日	事業名	実績(目標)				
					入場者数 (人)	アンケート配布 枚数(枚)	アンケート回収 枚数(枚)	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道連合会	26年2月21日(金) ～25日(火)	第35回鳥取県書道連合会展	1,191(600)	1,191	94	7.9%(20.0%)	93.6%(80%)

<平成26年度> (平成26年4月～平成27年2月に実施された事業)

番号	主体	団体名	期日	事業名	実績(目標)				
					入場者数 (人)	アンケート配布 枚数(枚)	アンケート回収 枚数(枚)	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県	文化観光スポーツ 局文化政策課	6月15日(日)	第5回とっとり伝統芸能まつり	956(900)	956	422	44.1%(40%)	97.9%(95%)
2	鳥取県文化 団体 連合会	鳥取県合唱連盟	8月17日(日)	第53回鳥取県合唱フェスティバル(全日本合唱コンクール鳥取県大会)	409(450)	409	63	15.4%(80%)	100.0%(80%)
3	鳥取県	文化観光スポーツ 局文化政策課	9月20日(土)～ 11月24日(月祝)	第58回鳥取県美術展覧会	9,127(10,000)	9,127	756	8.3%(20%)	87.4%(95%)
4	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県能楽連合会	9月23日(火祝)	第5回能楽鑑賞のタベ	502(500)	502	217	43.2%(60%)	82.5%(70%)
5		鳥取音楽座	9月28日(日)	音楽日和ライブフェスティバル 鳥取2014 vol.16	224(300)	224	88	39.2%(60%)	89.8%(80%)
6		鳥取県和太鼓連盟	9月28日(日)	鳥取和太鼓連盟コンサート 「和太鼓ふるさとの響2014」	250(300)	250	29	11.6%(30%)	96.6%(80%)
7		鳥取県民踊指導者 連盟	10月11日(土)	民謡のつどい ～つどい 咲かそう おどりの輪～	400(200)	400	217	54.3%(40%)	86.2%(85%)
8		鳥取県川柳 作家協会	10月26日(日)	第38回鳥取県川柳大会	104(130)	104	63	60.6%(70%)	100%(90%)
9	とりアート 実行委員会	西部地区企画 運営委員会	10月25日(土)・ 26日(日)	第12回鳥取県総合芸術文化祭 とりアート2014 西部地区事業	7,856(5,250)	3,300	640	19.4%(30%)	95.5%(81%)
10		中部地区企画 運営委員会	11月1日(土)・2日 (日)・3日(月祝)	第12回鳥取県総合芸術文化祭 とりアート2014 中部地区事業	11,032(8,000)	1,056	708	67.0%(25%)	98.7%(90%)
11		東部地区企画 運営委員会	11月8日(土)・9日 (日)	第12回鳥取県総合芸術文化祭 とりアート2014 東部地区事業	6,864(6,000)	1,678	289	17.2%(20%)	79.9%(90%)
12	鳥取県文化 団体連合会	県民による第九公 演実行委員会	11月3日(月祝)	県民による第九倉吉公演	855(800)	855	266	31.1%(30%)	88.0%(90%)
13		鳥取県歌人会	11月16日(日)	第43回鳥取県民短歌大会	120(150)	120	49	40.8%(50%)	73.5%(70%)
14		鳥取県演劇連盟	11月16日(日)	第41回鳥取県演劇連盟 合同公演「倉吉里見物語」	903(870)	903	340	37.7%(35%)	97.6%(80%)
15		鳥取県ピアノ指導者 協会	11月22日(土)	ヤングピアニストコンサート201 4	304(350)	304	54	17.8%(20%)	87.0%(85%)
16		鳥取県美術家協会	11月23日(日) ～30日(日)	第19回鳥取県美術家協会作品 展	976(1,000)	976	155	15.9%(30%)	71.6%(90%)
17		鳥取県俳句協会	11月30日(日)	第19回鳥取県俳句大会	123(100)	123	91	74.0%(73%)	92.3%(90%)
18		鳥取県書道連合会	12月10日(水) ～14日(日)	第36回鳥取県書道連合会展	550(500)	550	221	40.2%(10%)	89.6%(80%)
19		鳥取県日本舞踊連 合会	11月30日(日)	吉月をどり	450(750)	450	126	28.0%(25%)	79.4%(90%)
20		とりアート 実行委員会	鳥取県総合芸術文 化祭実行委員会	27年2月21日 (土)・22日(日)	第12回鳥取県総合芸術文化祭 とりアート2014 メイン事業 創作ミュージカル公演「アオイ」	675(1800)	675	445	65.9%(30%)

2. 評価の体系



Ⅲ 事業別評価

<平成25年度事業>

第35回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)

平成26年2月21日(金)～25日(火) 米子市美術館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	日本人の文化に関する多様性の進化に伴い、伝統的な日本文化への関心が薄まる中、書文化の復興・再発見につながる現代人にとって魅力ある展覧会の開催により、後世へと継承していくべく努める。	一部達成 この項目は、設定目標が高く、加えて多くの鑑賞者に発信していく必要がある。鑑賞者の数は目標を大きく超えており、まずまずの成果であるが、書本来の魅力をどこまで展覧会に込められたかはまだまだという感もある。	一部達成 展示には工夫がなされており、オープニングコンサートなどの試みもあって、意欲の高さは十分だった。鑑賞者も目標を大きく上回った。現代人にとって魅力ある展覧会という高い目標は評価できる。問題は、そのためにどのように考え、企画したかである。展覧会をみた限りでは、「童謡・唱歌を書く」とオープニングのフルートアンサンブル演奏かと思われる。昨年も同様なものが企画され一定の評価を得ている。今回はその上に何が積み上げられたか。次回への期待を込めて一部達成とした。
		出品者のすべてが県民である会員による展覧会とし、作品制作によって切磋琢磨する中で、我が国でもトップレベルの鳥取書道の確立を目指す。	概ね達成 この項目は、設定目標が高く、加えて多くの鑑賞者に発信していく必要がある。鑑賞者の数は目標を大きく超えており、まずまずの成果であるが、書本来の魅力をどこまで展覧会に込められたかはまだまだという感もある。	概ね達成 わが国でもトップレベルかどうかは判断が難しい。切磋琢磨されている様子は、作品からも伝わり、高い目標を掲げている点も評価したい。鑑賞者が目標の倍近くあったこと、パンフレットも広告協賛を得て作成配布されているが、中央展入賞者などの紹介などがあればもっと良い。
	役員による特別展示「童謡・唱歌を書く」を併催し、童謡・唱歌のふるさと鳥取との文化コラボレーションを図る。	概ね達成 役員33名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく詠みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選ばれて方々の大きな理由となっている。また、オープニングセレモニーのフルートアンサンブルによる童謡・唱歌の演奏も好評を博した。	達成 「童謡・唱歌を書く」は、作品が親しみやすく、文字から広がる世界を楽しむことができ、素人にも鑑賞しやすくて、書を身近なものとして感じる事ができた。オープニングセレモニーのフルートアンサンブルによる童謡・唱歌演奏も文化コラボレーションとして良かった。	
創造	質の高い文化芸術活動	約700名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	概ね達成 会員151(顧問1名を含む)による選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいただき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が課題。	概ね達成 県民の書道愛好家の研鑽の場となっていることは、評価できる。選抜展、各賞の設定などは出展者への励みとなりよいことだと思われる。しかし、これらは既に一定の評価を受けており、企画面での更なる工夫をされることを期待したい。
拡大	県民の文化活動支援	オープニングに、フルート四重奏をゲストとして招き、唱歌を演奏していただくことによって、特別展示「童謡・唱歌を書く」とのコラボレーションを図る。	達成 オープニングセレモニーに、フルートアンサンブルによる童謡・唱歌の演奏も取り入れ、音楽とともに開会した。開会式参加者に大変好評であった。	達成 フルートアンサンブルの開会時の童謡・唱歌の演奏は、特別展示「童謡・唱歌を書く」と連動しており良かった。こうした企画は、今後も続けてほしいし、他の展示イベントの参考になる。

拡 大	県民への鑑 機会の拡大	「童謡・唱歌を書く」 の特別展示により、 ややもすれば難しい イメージのある書道 について、読みやす く、親しみやすい作 品を鑑賞していただ くことで、楽しんでい ただく。	達成 役員33名が特別展示「童謡・唱歌を 書く」に出品。 鑑賞者には大変好評であった。また、 オープニングセレモニーに、フルートア ンサンブルによる童謡・唱歌の演奏も 取り入れ、音楽とともに開会した。これ も開会式参加者に大変好評であった。	達成 「童謡・唱歌を書く」やフルートコンサ ートなどの親しみやすさもあり、目標 の倍近い鑑賞者があった。鑑賞者の アンケート感想でも好感をもって受け 入れられている。今後も更に工夫し て欲しい。
		新聞広告をはじめ、 新聞記事掲載の働 きかけ、及びポスタ ー・チラシ・DM・益 への立て看板によっ て、広く広報する。	概ね達成 ポスター、DM、チラシはもとより、米子 駅に看板を設置、9号線沿いの美術館 案内に大型のポスターを設置、また、 日本海新聞に広告をだすとともに、一 週間前には開催記事を掲載。結果、 大幅アップの来場者達成。	達成 さまざまな広報手段を使った。とくに 新聞掲載の効果は大きかったの ではないか。結果として、目標の二倍 近い鑑賞者が訪れた。大きな目に付 く看板もわかりやすかった。
		受付に出品者を中 心に作品を説明でき る会員を常時2名以 上配置し、鑑賞者の 鑑賞の手助けを行 う。	概ね達成 2展示室にそれぞれ受付を設置し、会 員(出品者が中心)2名以上が受け付 け業務を担当。	概ね達成 試みとしてはとてもよいと思う。説明 することをわかるようにすればもっと 良かった。アンケートの回収率は良く ない。アンケートの設置場所や声か けが必要ではなかったか。
育 成	人材育成(指 導者、後継 者等)	約700名の会員の 中から、150人を選 抜し、展示会の質の 確保を図るとともに、 知事賞他の賞を設 け、競い合う中で、 書道技術の向上を 目指す。	概ね達成 会員151(顧問1名を含む)による選 抜展として、ある程度の室の確保は図 ることができた。知事賞、県議会議 長賞、県教育長賞を各機関からいただ き、出品者のモチベーションアップは 図れたものと思われる。 賞対象外の無鑑査出品者のモチベ ーション維持が課題。	概ね達成 選抜展、各賞設定は競い合いを生み 緊張感をもって出展することとなる ので評価できる。 テーマをもうけて学生などの作品を 募集し良い作品を展示するコーナー をつくるなど若い世代への取り組み は考えられないだろうか。
		図録を発行すること で、記録していくと ともに、出品者の歴史 に残るというプレッ シャーから作品制作 への高いモチベ ーションにつなげ、一方 で、会員及び書愛好 者の書上達への縁 (よすが)とする。	概ね達成 図録を発行。 どこまで、モチベーションアップに繋が ったのかは、少々図りづらいところ。 会員諸氏が今後の作品作りに当図録を 参考にされることを期待。	概ね達成 こうした展示会で図録を発行するこ とは、これまであまりなかったと思う。 その意欲を評価したい。図録発行が どのような良い結果をもたらしたか今 後に期待したい。
総括		70.0%	76.7%	

【成果】

- ・「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく、かつ新鮮な企画で、鑑賞者からも好評だった。これとコラボレーションしたオープニングコンサートも好評で、これまでどちらかというと愛好者に偏りがちだった書道展を、多くの人に鑑賞してもらえることにつながった。同時に、県内書道家のモチベーションを高めようとする試みがなされていた。
- ・鑑賞者が目標の倍近くあったことは良かった。その要因はなんであったか十分に総括し今後活かして欲しい。
- ・全ての書に釈文がありわかりやすかった。
- ・出展者による鑑賞者への解説は良い試み。時間などを決めて解説する試みもあると良いのかもしれない。

【課題】

- ・アンケートの回収率の悪さを考えると、記入台が出入り口ではなかったのも影響しているように思う。
- ・書の展示会としては一定の成果を得ていると思えることもあり、展示会場での書を書くパフォーマンスや他ジャンルとのコラボによる書をはじめ、鑑賞者が体験できる書など、書の新しい展示会のための創意工夫に是非取り組んで欲しい。
- ・パンフレットの中や展示のコーナーとして書の歴史や書法の解説などがあればより親しみや興味を持つことができるのではないだろうか。

第5回とっとり伝統芸能まつり(鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課)

平成26年6月15日(日) 鳥取市民会館大ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	伝統芸能活動団体の意欲向上につなげるため、功労団体の表彰を行うとともに、県内伝統芸能活動団体の発表の場を設けます。	概ね達成 今回は子供の太鼓が2団体あり、特に打吹童子ばやしは35人の子供とは思えないような技量も高くストーリーももしっかりした公演だった。いかに団体の大人の指導とコミュニケーションがなされているかが汲み取れる。以西おどりは表彰団体となったこともあり地域の意欲向上のきっかけとなり、今回は前回よりも大幅に公演参加人数が増えた。また、他団体の公演を見ることにより意欲向上につながっていた。	達成 大舞台をいくつも経験し、子ども太鼓の中では全国的に見てもクオリティの高い打吹童子ばやしの演奏で、最初に観客を引き付けたのは、うまい上演プログラムの組み方だった。
		若い世代に広く伝統芸能を鑑賞いただき、興味をもってもらうような工夫を行います。	一部達成 当日のMCはよくテレビなどに露出している司会を使い、CMにも起用して若い世代にアピールした。また、高校生のボランティアに関係者として伝統芸能を鑑賞していただき制作の苦労を体験してもらいながら興味を持っていただくことが出来た。来場者は若い世代もおられたが、まだまだ年配の方が多かった。	一部達成 MCはプロということもあり上手につないでいたが、若い世代へアピールできたかとなると疑問。来場者はほとんどが年配者であり、若い世代の観客は少なかった。特に高齢者施設の利用者と思われる観客がまとめて途中退場してしまうと、前方にぼっかりと大きな空席の空間ができてしまっていた。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	ホームページ上で表彰・出演団体の活動状況を紹介するなど、県内伝統芸能の情報発信に努めます。	概ね達成 広報手段の1つとしてホームページに伝統芸能まつりの独自のホームページを設けPRするとともに、県内の伝統芸能の活動を紹介するデータベースともリンクし、理解を深められるように努めた。	一部達成 観客の年齢層を考えると、ホームページへのアクセスを日常的に行っている層は少ないのではないかと。逆に若い世代には、観客層から考えると、そもそも伝統芸能に興味を持たれておらず、ホームページだけでは情報発信は不十分であろう。

創造	質の高い文化芸術活動	演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努めます。	<p>達成 特に県内の団体には演目のコンパクト化に協力していただき内容の濃い、見ていて飽きない公演となった。県外・国外の公演は両団体ほぼプロの方なので質の高い公演を行い来場者を魅了していた。また、プロの司会を2名公演の合間に入れることにより、待ち時間を飽きさせず、終わった公演の余韻と次の公演の期待を持たすことが出来、公演に入りやすいように舞台が温まっていた。</p>	<p>概ね達成 ハイライトシーンをまとめるというアイデアは評価したいが、演目によって質にはおおいにばらつきがあった。広島県の神楽は実に質が高く、自治体が全面的にバックアップして伝統芸能である神楽による地域振興に成功している良い例だと感じた。それに比べると、本県自治体の伝統芸能への注力は残念ながらまだまだであることが分かった。質の高い県外や国外の伝統芸能を招聘し上演することは、観客の伝統芸能への興味を高めるのに効果的だった。</p>
拡大	県民の文化活動支援	高校生ボランティアを広く公募し、県民に文化活動に触れる機会を提供します。	<p>達成 6/14. 15の前日・当日に地元4つの高校(城北・湖陵・鳥取東・青谷)よりボランティア延べ62人と引率教員にきていただき、生徒の指導と生徒と一緒にボランティアをしてもらった。業務の内容は、前日の準備は街頭での広報・会場設営・配布資料作り・本番での対応のシュミレーション。当日は舞台の裏方(出演者のコントロールと舞台セットの手伝い)・受付・会場内管理・撮影補助・来場者へのおもてなしなど両日にわたって普段では体験できない業務を体験した。最初は「めんどくさそう」にしていた高校生が段々と「返事」「笑顔」が出てきて、楽しそうに各ポジションの業務にかかわった。特に裏方のボランティアの中には広島県の神楽の最終舞台の真ん中において進行を手伝うこともあった。随時、高校生に「大丈夫?」「きつくないか?」と聞いたりしたが、「平気です」「他に何かすることありますか」「ここは***の様にした方が良いと思いますが・・・」など終了して解散するまで元気よく楽しんでくれたようだった。そのような中で、ボランティアには公演を見る時間を交代で設けていたが、その後、友人や我々に「***が迫力があった」「***は昔見たことがある」など色々を見て、感じてもらえたようだった。また、多くの来場者からも高校生ボランティアに好感を持っていただけだった。</p>	<p>達成 高校生ボランティアはよく頑張っており、企画運営者からの指導もよくなされていたように感じた。ただ、会場内でマニュアル想定外の場面に出くわすと、高校生では対処しきれなくて困惑している様子もあった。大人のスタッフによるフォローもできる体制は整えていたようであった。</p>

拡 大	県民への鑑賞機会の拡大	<p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努めます。</p>	<p>達成 学校・公共施設・将棋用施設・老人施設・県内全ての保存会等へのDM実施をはじめ、街頭でのチンドン屋とボランティアの広報活動や CM 告知・新聞折り込み・ポスター・チラシ配布など、様々な媒体を活用した、効果的な広報の実施によって誘客にも繋がった。</p>	<p>達成 積極的な広報をされたことが集客につながった。 老人施設へのPRは、大いに集客に貢献していたが、全体の時間が長すぎるためか、施設の高齢者が途中退場してしまうと、客席が寂しくなったのは残念だった。</p>
		<p>県外・海外の芸能団体を招聘し、地元の芸能団体と交流を図ることで、鑑賞機会の拡大と、文化芸術活動の裾野拡大を図ります。</p>	<p>概ね達成 ゲストのモンゴルと広島県の神楽は見せ方を知っている演じ方をしていたことと、鳥取では普段見られないものなので大いに盛り上がった。広島県の神楽団は広島市より部長・課長・担当者が付いてきて広島のPRをするとともに鳥取との交流を強くアピールした。各芸能団体は公演当日も時間の許す限りお互いに交流をしていた。</p>	<p>達成 あれだけの質の高い作品を鑑賞すれば、もっと見たいという気持ちになる。招聘団体上演中の観客のどよめきや大きな拍手は、感動の大きさを物語っていた。伝統芸能への鑑賞機会の拡大につながる成果だと思ふ。</p>
育 成	人材育成（指導者、後継者等）	<p>高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらうことにより、芸術文化活動の後継者育成に努めます。</p>	<p>概ね達成 上記、「県民の文化活動支援」の中に記す。</p>	<p>一部達成 ボランティアとして関わることイコール文化芸術分野での後継者育成と言い切るのは少し難がある。ボランティア参加者の中から、実際に伝統芸能の団体に加入し、活動する高校生が多く出たのなら達成ではあるが、それは難しいのではないか。 後継者育成には別の目標を設けるほうが適切。</p>
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	<p>小学生に参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図ります。</p>	<p>一部達成 子供が参加する伝統芸能を見ることにより伝統芸能への興味を持つようになり、「自分も参加したい」、「子供にさせてみたい」という意識になり、発展することが期待される。今日は「がいな太鼓子供連」「打吹童子ばやし」の2団体の子供参加だったが、どちらも指導する大人のシステムが確立されており、良い公演と出番以外もきちんとしていた。特に「打吹童子ばやし」の完成度は高く、35人の人数でいながら、そろっていて、ストーリーもしっかりしており、かなりの技量だった。ただし、子供の来場者数は少なかった。</p>	<p>概ね達成 小学生の参加により、県内の子どもでもあれだけのことができる、ということを観客に観てもらえたことは成果。 子どもの来場者が少ないのは、この目標とは別の問題であろう。</p>
総括			70.4%	70.4%

【成果】

- ・アンケート回収率、満足度、入場者数のいずれも定量目標を上回る結果となった。ただ、入場者は開演当初は多かったものの、時間とともに少なくなっていくのは残念。
- ・打吹童子ばやしなど、質の高い子ども団体の上演も良かった。
- ・ロビーでの伝統芸能団体を紹介するパネル展示紹介は来場者が団体を理解するのに効果的だった。

【課題】

- ・自治体が力を入れている安芸高田の神楽は、十分に訓練されており、衣装・道具類も本格的で行政の手厚い支援（資金）が、伝統芸能（神楽）を支え、結果、市民の意識を高め、地域で守り育てているのを感じた。地域の文化（ここでは伝統芸能）を、地域振興や観光に生かしているよい例である。一方で、県内団体の上演は公民館まつりレベルのものも多くあり、県内には安芸高田のような視点を持った自治体がないのを残念に思った。その意味では、当事業を「県」が主催しているのがひとつの救いでもある。
- ・伝統芸能の振興については、発表の場を設けるだけでなく、今後は県内団体の質の向上にも力を入れていく必要がある。
- ・「伝統芸能功労団体賞知事表彰」で、パンフレットに記載されている受賞団体「以西おどり保存会」（琴浦町）の写真が「旧・赤碕町時代」のものであった。合併から10年となるのに、あまりに写真が古すぎる。表彰されるのは活発に活動されている団体であり、直近の写真を使用してほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・運営のNPOハレの手際は良かった。高校生ボランティアへの事前指導も行き届いていた。
- ・開場時刻まで建物内に入れず、ロビーも狭いという鳥取市民会館の特性をとらえ、玄関外にテントとイスを設置していたのは、鑑賞者に高齢者が多く予想される同事業について適切な対応だった。
ただ、これが可能なのは予算面での対応が可能な県主催事業ならではの。県文化団体連合会主催事業の場合は予算的に難しいかもしれない。
- ・上演時間が長すぎるのではないかと感じた。



第53回鳥取県合唱フェスティバル(全日本合唱コンクール鳥取県大会)(鳥取県合唱連盟)

平成26年8月17日(日) 米子市文化ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	1年に1回ではあるが、県内で活動している他団体と交流することにより、お互いの質の向上を図る機会とする。 また、コンクールの部においては、他県の活動内容等も踏まえ、お互い切磋琢磨の上、刺激を受け、より質の向上を図っていきたい。	一部達成 “コンクールの部”に中学校、高等学校がもう少し参加してほしい。参加することによって、合唱への集中力が増し、第1段としてのレベルも上がってくる。来年度は特に中学校への呼びかけを行いたい。 (方法については今後検討するが、まず会場に来てもらうことから取り組む) “中国大会”へ出場がきまった団体に他県の団体の演奏をしっかりと聞くよう呼びかけていく。	一部達成 全体の流れの中で就学児童から一般までの幅広い年代の合唱を聴くことが出来て交流が図れていた。 他の団体のより質の高いレベルの演奏を聴くことは自分達のレベルアップに繋がるので、コンクール参加の団体が少なかったことは残念だった。 今後多くの団体の参加を期待したい。 総勢75名の合唱団の演奏は、他の団体がない音量と迫力ある演奏で多くの観客の気を引いたのではないだろうか。この団体に急遽特別賞を授与するという柔軟な対応は高評価したい。
		自由に参加できる「フェスティバル部門」に、少しでも多くの団体に参加してもらい、歌うことの楽しさを実感してもらおう機会とする。	概ね達成 自由参加の部門(コンクールC部門として開催)を、今年“フェスティバル部門～フリーの部～”として開催することにより、出場する団体も参加目的がはっきりして、より楽しめる合唱を目指していけるようになったと思う。 (7団体230名の参加)	一部達成 「合唱コンクールの部」と自由参加の「フェスティバルの部」の区別が分かりにくかった。 「フェスティバルの部」の参加7団体は少し寂しく感じた。 「合唱コンクールの部」のダンスと合唱を披露した高専の演奏は、合唱コンクールのジャンルとしては審査委員の方々は音楽のプロなので、ダンスに関しての金・銀・銅賞の審査はしにくいのではないかと。近年若者間ではこのようなダンスが流行しているので、今後ダンスパフォーマンスの団体が増えることへの不安を感じる。あくまでも合唱主体で行ったほうが良いのでは。フリー部門の参加に受け付ける方向も一つの考えかと思う。
拡大	県民の文化活動支援	今回開催地である米子市内から参加する米子北斗中学校・高校及び米子東高校に協力を依頼し、保護者やその他生徒を巻き込むことにより、より多くの方に聞きに来ていただけるよう呼びかけに努める。	一部達成 今回、西部地区からの参加団体の内、米子東高校と、翔英学園米子北斗中学・高校の父兄においていただくよう出演の生徒を通じてよびかけたところ、思ったよりたくさん父兄に協力いただいた。 米子東高:配布数60、ご来場者数54名……90% 米子北斗中・高校:配布数50、ご来場者数47……94%	一部達成 西部地区での開催にも関わらず西部地区の参加校が中学25校の内1校、高校12校の内2校というのは参加できない理由を知りたい。 中学・高校生の学生団体の参加は保護者を通じて観客の動員にも繋がるので、是非とも学生参加を増やしていただきたい。 午前の開会式では、一階席客席にはほとんど観客がおらずまるでリハーサルのようなようだった。午後からは観客も増えてきたが一般の方の入場というより出場者の観客が増えた様子であった。 参加団体以外の保護者や地域への広報活動を工夫されると良いと感じた。
		県民への鑑賞機会の拡大		
総括			44.4%	33.3%

【成果】

- ・中学生は高校生の、高校生は一般の合唱を聴き質の高い演奏を聞くことで切磋琢磨するいい機会となった。
- ・「少年少女合唱の集い」とフィナーレの出演者と観客の大合唱は十分楽しむことが出来た。ただ会場に聴きに來られる一般の観客が少ないことは残念だった。もっと多くの方に聴いていただきたい演奏だった。
- ・演奏最中に客席に入場することのないように、各ドア入口にて学生が入場者のチェックを担当していたため、演奏を妨げることなく進行でき良かった。(一部の)学生の礼儀の良さが印象的だった。

【課題】

- ・午前中の一階席に空席が目立たないように来客には受付にて一階席への誘導をしていただいた方が良いのではないか。
- ・コンクールの部では同級生や保護者の応援人数がもう少し欲しかった。
- ・無伴奏の演奏が多いのでピアノの位置は最初から下手にあったほうがよいのではないか。合唱コンクールなのでピアノを中央に置く必要があるのだろうか。時間と労力のスリム化に繋がる検討をしていただきたい。
- ・ロビーでは運営側の人数が多いせいかととも騒々しくて一般客への配慮が気になった。
- ・長丁場の演奏で午前中の進行はほぼ時間通り進行出来たことは良かったが、後半が30分延びた為、遠方より参加の学生にとっては配慮が必要だったのではないかと。帰りの列車やバスの時間を気にかけている学生が気になった。
- ・午後からの演奏中に客席から携帯電話の呼び出し音や、持ち物の鈴の音が聴こえた。休憩を挟む場合はこのような事が起こりやすいので休憩後の携帯電話の注意放送があったらよかったですのではないかと。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・補助金の条件の「アンケートの配布」がなかったことで当日の観客からの意見が聞き取れなく残念である。アンケートの回収はかなり一生懸命にお願いしないと回収は難しいと思う。
- ・1年に1回のコンクールなので、出場回数の少ない学生にとっては貴重な大会ではないだろうか。多くの参加を希望する。
- ・もっと多くの参加団体を求める場合、目的の異なるコンクールとフェスティバルを1日で行うのには時間的に無理を感じる。しかし合唱コンクールだけでは集客が期待出来ないことも想像される。
- ・事業者側の取り組み目的がファジーでもっと具体的な指標を示して欲しい。



第58回鳥取県美術展覧会(鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課)

平成26年9月20日(土)～11月24日(月祝) 鳥取県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	審査の透明性を確保し、優秀作品に県展賞を授与します。	達成 事前に審査基準を定めるとともに、審査見学者希望者への審査の公開、また、出品者への審査結果通知書の送付など、審査の透明化に努め、公平、平等に優秀作品に県展賞を授与した。	概ね達成 審査の透明性については、万人が完全に納得する方法は無いと思う。公開審査は一定の評価は出来るが、周知の方法に改善の余地がある。また、審査員の選出や審査自体の質を高める、審査員の毅然とした姿勢も重要。今後も議論を重ね、信頼される審査への努力を期待したい。
		アンケートコーナーに昨年度からの改善事項を掲示し、アンケートの反映状況を周知することにより、アンケートの回収率を向上し、県展の運営に県民の意見を積極的に取り入れます。	一部達成 アンケート結果を運営改善(釈文票展示、チラシの増版など)に繋げることができた。また、アンケートコーナーに昨年度からの改善事項を掲示し、アンケートの反映状況を周知することができた。アンケート回収率を向上する策を講じたが、アンケート回収率の向上に繋がらなかった。特にアンケート回収率が低かった開催館については、改善の余地があるので、来年度、開催館と協議しながら改善していきたい。 【回収率】県博 10.4%、米子市美 4.9%、倉博、10.0%、日南町美 7.4%	一部達成 釈文の設置等の改善事項に繋げることができたのは評価出来る。アンケートの回収率は低いと言わざるを得ない。記入を求める案内も会場によって、あるいは案内係によって、出ている所と無い所があるようである。会場によって、各場所に問題があったようで案内と合わせ検証が必要。アンケートの内容に、個人的不平不満に過ぎないものも見受けられるが、傾聴に値する意見も少なくなく、謙虚に検証すべきである。
		本展以外の巡回展会場においても、ギャラリートークを行うことにより、受賞作品に対する理解を深めます。	一部達成 今年度から初めて、巡回展開催館においてもギャラリートークを実施した。ギャラリートークに参加した方には、大変好評であったが、事前広報が十分にできていなかったため、「ギャラリートークがあることを知らせて欲しかった」という声が多く挙がった。	一部達成 作品鑑賞は個人の感じたことがすべてという意見もあるが、解説を聞き気付くことも多いと思う。さらに県民の新たな興味を喚起することに繋がる。この意味でギャラリートークが各地で実施されたことは評価に値する。しかしながら広報が出来ていなければ、せっかくの機会を奪うこととなる。改善が必須である。
拡大	県民の文化活動支援	書道部門において、今回から作品と一緒に釈文を展示することによって、県民の作品鑑賞を支援します。	達成 以前から、要望は多かったが、今年度から初めて釈文票展示を実施した。今年度のアンケート設問6で、書道部門の釈文票の必要性について聞いたところ、「何が書いてあるかわかってよい」「あった方がよい」という回答が78%あった。	達成 以前から要望の多かった釈文の展示は作品の理解を深めるのに役立ち、書道の敷居を下げ、鑑賞者の拡大に繋がるものと評価する。アンケートの結果にも多くの評価があり、大変良かったと思う。
		各会場のオープニングにあわせて、とりネットによる広報(動画配信など)を行い、より多くの方への周知に努めます。	一部達成 とりネット、チラシ・ポスター、新聞掲載による広報を行ったが、来場者数の増加に繋がっておらず、充分ではなかった。県展の来場者が増えるよう魅力的な広報戦略を考えるべきである。	未達成 昨年の入場者数を下回るということで、十分な広報ができていたとは言えない。主催者の自己評価にある「魅力的な広報戦略」をぜひ検討いただき、来年度に期待したい。
総括			60.0%	46.7%

【成果】

- ・鳥取県在住の美術愛好家にとって最大の作品発表の場であり目標となる美術展。発表の場があることは重要で、長年継続されていることは最大の成果であり、関係者の努力は敬意を表したい。
- ・毎年いわれている透明性の確保について、努力が少しずつ理解されており、今年のアンケート結果では不審がる声が少なくなったようだ。
- ・出品点数も僅かながら増えており、この10年で最多となった。
- ・ギャラリートークの各会場開催や釈文設置など、鑑賞者の立場に立った改善がなされていた。
- ・年内4会場での展示は、県民に広く鑑賞の機会を与えるという意味で大変意味があり、堅持してほしい。

【課題】

- ・審査については、正当な意見かどうかはさておき、厳しい意見が少なからずあるのは事実である。透明性の確保については、あらゆる角度から更なる努力がもとめられる。
- ・展示スペースに対して総じて窮屈な展示に感じられる。部門の区切りも昨年同様に課題が残る。質の高い展覧会は、作品の質だけでなく会場構成も大切である。作品点数の問題は難しい課題であるが議論が必要である。写真部門と書道部門にこのような声が多かったように思う。入選率は全体で60%を越えており、レベルの高いものを目指すのであれば一度検証すべきことと思う。また、審査員や運営委員、無鑑査作家の展示のあり方についても一度議論されたし。
- ・アンケートの回収について、特に米子会場の回収率の低さは問題。一度に解決出来る程簡単ではないと思うが、改善にむけ工夫が求められる。
- ・出品者が増えているにもかかわらず、入館者が昨年を下回っている。従来通りの広報では、おそらく増えることは難しいと思われる。口コミの力はばかにならないもので、出展者の更なる努力も必要かと思う。ギャラリートークだけではなく、ワークショップなど参加体験企画やトークセッションなど、他の展覧会を研究し、新たな試みも検討してはどうだろうか。
- ・目録の文字の色が薄く、見えづらいという声が多かった。

【その他事業に関する意見、感想など】

長年にわたる継続については、改めて敬意を表したい。一方で、展覧会自体のマンネリ化という印象も拭えない。会場の問題、審査の問題、出品者の固定化、今後の高齢化など様々な要因があると思う。また、入館者数の推移を見ると、ほぼ横ばいで微減であり、来場者が固定化し新たな鑑賞者を獲得出来ていないと読むことができるのではないか。今後10年先の県展を見据え、長期計画でそのあり方を議論する時期に来ているように思う。美術の表現方法も多様になり、展覧会についてもその方法は様々である。伝統を重んじつつも次の世代に引き継ぐべく考えていただきたいと思う。



【要改善事項】

- ・さらなる入館者確保に努めてほしい。
- ・アンケートの回収率向上に努めること。(10%以上)

第5回能楽鑑賞のタベ(鳥取県能楽連合会)

平成26年9月23日(火祝) とりぎん文化会館梨花ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	地域の愛好者が永年稽古を重ねた今、滅多に見聞き出来ない三流儀の能楽の謡曲・仕舞・舞囃子を2時間にわたって鑑賞することにより、我が国の古典芸能文化の良さを再発見してもらえる。また、「あらすじ」や詞章を掲載して演目の理解に役立つようにする。	概ね達成 芳名録に記入いただいた方が、172に及び、記入漏れの人を足せば200名以上の鑑賞を戴いたと思われる。40%以上の方に満足頂いているのは、演目のあらすじと詞章をプログラムに載せ、プロのアナウンサーにあらすじを紹介してもらったことも良かったと思う。	一部達成 第一部の受付に於いて、観客に配布されたのは、番組紹介(A3紙)だけであった。 「プロのアナウンサーがあらすじを紹介」とあるが、一般客が能を古典芸能文化として、より具体的に鑑賞する為には、第二部受付時に配布されたプログラムの中の、あらすじ解説の部分の資料が欲しかった。
創造	質の高い文化芸術活動	14名のプロ能楽師(県外から招致)の内、8名が「国総合指定重要無形文化財」保持者が出演する地方での公演は、滅多にないことであり、その高い芸術に感動していただきたい。それが鑑賞者の心の洗練になる。	概ね達成 アンケートで多くの方から「満足」の表示や有り難い、嬉しいコメントを戴いた。	達成 第二部では、高いレベルで真剣さに引き込まれた。
拡大	県民の文化活動支援	プログラムの末尾に「あなたも謡曲・仕舞を楽しみませんか」として三流儀の団体名や稽古日・稽古場所などを記載して、興味・関心のある人に情報提供する。 プログラムには、能楽の歴史や鳥取池田藩の能との関わりなどを掲載して能への知識浸透に心掛ける。	一部達成 小項目の上の項は、これからの反響を待つことである。二つ目の項は、アンケートに入れなかったもので、1名のコメントがあったのみであるが、多くの人には見ていただいた。	一部達成 『あなたも謡曲・仕舞を楽しみませんか』との事で、情報提供があっても、なかなか、入門まで至らないと思う。能は、総合芸術として、舞台=大道具は、洗練された立体的造形物として、【心地よい空間の創造】に、衣装は=個性的ファッションの模範として。などなど、能舞台上で演じられる、能・狂言・連吟・仕舞・舞囃子の洗練された美しさはもとより、数多い能の魅力を紹介して欲しい。
	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民といっても、東部地方を中心に広報活動を行った。様々な媒体としては、各種会館・図書館・公民館・鳥取大学・鳥取環境大学・国際交流会館・高校にはポスターとチラシを、小・中学校はポスターを、立て看板、掲示板、メディア、そして三流儀の愛好者宅にもポスターを貼り、入場券販売所とする。	一部達成 多くの人目に触れる機会として、左記の公共施設にお願いしたが、例えば公民館は、様々な掲示物が依頼されて来るが、ポスターの掲示板は小さく、チラシを置かせて戴く場所も限られているので、校区民にどれだけ触れているのか、寂しい思いをした。結局、現実には愛好者会員が自らの手の届く人へ販売するしかないのでは、鑑賞機会の拡大の方法は極めて厳しい。	一部達成 広報活動は継続して欲しい。

育 成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	<p>東部地区の高校へは、直接出向いてポスター・チラシの依頼を、小・中学校へは市教育委員会を通してポスター依頼を行う。</p> <p>若者に環境機会を提供するため、大学生以下を無料とする。但し、小・中学生については保護者同伴を明記する。</p>	<p>未達成</p> <p>高校生以下の子供たちに鑑賞してもらうには、学校教育の一つとして別個の機会を作ってもらえないと考える。</p>	<p>未達成</p> <p>鳥取市立中ノ郷小学校では、「芸術鑑賞教室」(県文化振興財団)の招きで、青少年「狂言」鑑賞会が開かれた。一流の役者のせりふ、しぐさを耳・目で体験した。</p> <p>また、9名の「6年生が舞台上で歩き方や発声の仕方を教わる」など、少ない回数であるが、「伝統芸能を肌で感じる」活動が続いている。</p> <p>高校ばかりでなく、小・中学校にも直接ポスター、チラシの依頼をしては？</p>
		総括	40%	40%

【成果】

- ・第一部では、それぞれの演目を、三流派が共演していた。流派を超えた交流が深まり、基盤が広がると思われる。
- ・第二部で、松井 彬氏（重要無形文化財総合保持者）の能を鑑賞できた事は、観客は幸運であり、また、関係者・主催者には、今後の励みになる。
- ・第一部・第二部 共に会場は静かで十分鑑賞できた。

【課題】

- ・一般の鑑賞者を増やす努力をしてほしい。それが能楽ファンを増やすことにもつながる。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・ロビーでは、能面等の展示があり、幕間時間にかなりの人数が興味を持って鑑賞していて良かった。
- ・第一部前にはアンケート用紙が配布されなかった。第一部だけで帰る客にも、専用のアンケートを取って欲しい。



音楽日和ライブフェスティバル鳥取2014 vol.16(鳥取音楽座)

平成26年9月28日(日) とりぎん文化会館小ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県内で活動するアマチュアミュージシャンが、県外へ情報発信する場所とする(YouTube等のITの活用による)。	一部達成 オリジナル曲を演奏するバンドが、以前に比べるとかなり増えた。しかしながら情報発信に関しては、バンド毎の発信に頼っていて、団体としては達成できなかった。	未達成 オリジナル曲を演奏するバンド云々はこの項目には無関係であり、県外へ情報発信と言う観点から見れば何もなされていないと思う。
		Uターン、Iターンしてきた若者が、県内で活動を継続する機会を提供する。	概ね達成 出演者の中には、過去にヤングミュージックフェスティバルに出演したものが増えてきている。	一部達成 演奏の場所を提供する事の意味はあったが、UターンIターンの団体はどの団体であったのか観客からは判らない。
創造	質の高い文化芸術活動	各出演者が、事前にそれぞれでライブ活動を行い、イベントの周知とともに、質の向上を目指す。	達成 各バンドが精力的に、事前のライブ活動を行い演奏技術を高めるとともにイベントの周知を行った。	概ね達成 事前ライブは有ったようだが、それが今回のイベントの観客誘導にどの程度貢献しているのか疑問が残る。
		高校生バンドには、プロによるクリニックを受講してもらう。	達成 出演した2バンドには、高校生バンドクリニックへの参加を義務付け、プロによる技術指導を例年より時間をかけて行った。	達成 プロの指導が有ったのであれば、いづどなたの指導を受けたのか発表すべきと思う。レベルは確かにアップしている。
	各バンドの代表者が集まり合同演奏することで、お互いの技術を向上させる。	達成 ジャンルの違う出演者が、クインビージャズオーケストラを母体とするセッションに参加し、また事前の練習を複数回行った。	概ね達成 ジャンルの異なる団体のセッションは、親睦・仲間意識の向上、技術の向上にもつながるが、今後もさらなる技術の向上に努めてほしい。	
	県民の参画支援	出演者、スタッフを公募することで参画の機会を増やす。	一部達成 スタッフに関してはボランティアが集まったが、出演者に関しては、出演枠が少なく、新規の公募が出来ない状況であった。	一部達成 スタッフが単なるお手伝いボランティアにならないように心がけて行けば未来につながると思う。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	事前にイベント告知のためのミニイベントを商業施設で行う。	達成 鳥取市の商業施設(イオン北店)で、音楽日和の広報イベントを2回行った。また、別イベントへの出演などにより広報を行った。	達成 商業施設でのアウトリーチ広報に取り組んだ。
		若者世代では最も重要なツールである、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルネットワークを最大限に活用し告知に努める。	一部達成 フェイスブックにより知ったというアンケート回答が増えてきたが、ほとんどが知り合いの紹介などで、実質的なソーシャルネットワーク活用による一般的な周知には至らなかった。	一部達成 フェイスブックによる周知では単なる身内の集まりに過ぎない。他の方法を企画すべきである。
		HPを活用することで、低コストの周知を行う。	一部達成 HPの更新が遅れて、フェイスブックを活用した。	未達成 ホームページは何も更新されていなかった。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	高校生バンドに対するクリニックを併催する。	達成 (上記、記載済み)	評価せず 大項目「創造」の小項目『質の高い文化芸術活動』と内容が重複するため。
		出演者が演奏だけでなく、企画運営に携わることで、次世代の文化活動後継者を育てる。	概ね達成 大学生、高校生にも事前ミーティングに参加してもらい、企画、運営に携わってもらえた。	概ね達成 次世代スタッフを育てるには大変重要な項目。 来年以後も続けられるよう工夫が必要。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	中学生以下の入場料を無料とする。	一部達成 親に連れてこられる児童はいたが、自発的に参加した中学生以下の観客はほとんどいなかった。	一部達成 子供も鑑賞対象としたイベントならば子供に興味のある選曲が必要。無料の必要性は無し。
	総括		66. 7%	48. 5%

【成果】

- ・普段発表機会の少ないアマチュア団体に発表の場を与える事は地域文化に貢献する事と思う。
演奏者のみで終わらずそれを支えるスタッフも同時に育てようとしている企画は立派。

【課題】

- ・広報に関しては課題が残る。
 - 1、フェイスブックの活用等はどうしても身内だけのイベント告知に終わる。
 - 2、ホームページも更新がほとんどされておらず、広報の役目をはたしていない。
 - 3、プロの指導とはどなたの指導を頂いたのか公表の必要性を感じる。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・各団体のイベント前のライブ活動はせっかく開催されているのに、集客につなげていないようで残念。
- ・ライブ活動の時『音楽日和』の割引券を発行するとか、クイズをやって正解者には『音楽日和』の招待券を発行する等、工夫されてみてはどうか？



鳥取県和太鼓連盟コンサート「和太鼓ふるさとの響2014」(鳥取県和太鼓連盟)

平成26年9月28日(日) 伯耆町岸本体育館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	地域の伝統芸能として継承すべく若手を育成し、事業を推進します。	概ね達成 出演団体のメンバー構成をみれば若者(20歳前後)も数名加わっており、老若男女が一生懸命太鼓演奏を披露することで、若手育成の一助としている。	概ね達成 各団体に2~3割の若者(10~30代)がいる。ステージ上でも高いパフォーマンスをされていた。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	地域の歴史や文化を題材として取り上げた、事業(太鼓演奏)をします。	概ね達成 出演団体のそれぞれが地域の歴史や文化を題材(イメージ)とした曲で力強く太鼓演奏を披露した。	概ね達成 講談の地域伝記から太鼓に繋げる順序など曲目にも地域性が表現されていた。
	鳥取の文化アイデンティティの確立	それぞれの出演団体が、地域の風土に根差した題材を取り上げ、それをイメージした演奏をします。	概ね達成 出演団体のそれぞれが地域の風土をイメージした曲で力強く太鼓演奏を披露した。	達成 曲に入る前、演目説明などその曲の謂われなどが明記されているとより伝わりやすい様に感じた。
創造	質の高い文化芸術活動	連盟に加盟していない異なる芸能団体(ゲストの出演団体)との連携等を通じ、質の高い作品の提供を目指します。	概ね達成 芸風の違った鳥取荒神神楽研究会の舞と多人数出演による淀江さんこ節は、ともに素朴で柔らかな感じの演出で、鑑賞者の期待に応えていた。	達成 太鼓は芸能、舞台などにかかせないものであり、他の芸能とも調和がとれる。
		初の試みとして、演奏前にエピローグとして「講談(真相溝口鬼伝説)」を導入とし、公演全体にストーリー性を持たせます。公演の最後には、連盟の合同演奏曲「わかとり」を全会員参加で演奏します。	達成 今回初めて、「講談」で始まりその後鬼の面を被った奏者による太鼓演奏に入った。導入時の講談「真相溝口鬼伝説」に続く鬼面太鼓振興会の太鼓演奏の流れは、評判がよかった。また、最後の合同演奏「わかとり」は、出演者一同(ゲストも含む)が参加し楽しく演奏ができ、会場から温かな拍手をいただいた。	達成 申し分ない演目、講談であった。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	異なる芸能団体との連携等を通じ、県民の鑑賞機会の拡充を図ります。	概ね達成 県下東部、中部、西部から出演団体が集結し、また、ゲスト2団体とで楽しくコンサートが開催できた。	未達成 表現は申し分ないが入場者数の伸び悩みと30~40代の入場者が少ない。今後の文化継承や興味を持つ若手への働きかけが必要。
		広く県民への周知を図るため、ポスター・チラシを作成し公共施設への掲示や、地元自治会へチラシ配布と新聞折り込みなど、効果的な広報に努めます。	概ね達成 会場周辺の公共施設へポスター・チラシを掲示し、また地元自治会へチラシ配布と各戸へ新聞折り込みでチラシを配布した。	達成 ポスター・チラシ折り込みのような従来のやり方とあわせてSNS、インターネット、ラジオ、TVなど広く周知を図ることをお勧めする。
		町の体育館を、太鼓演奏会場として会員自ら手づくりで設営し、地域の住民が気軽に鑑賞できるような場を設定します。	達成 体育館の会場準備は前日から地元太鼓団体のメンバーを中心として手づくりで会場設営し、演奏会場の雰囲気をつくることができた。	達成 和太鼓などの芸風とは異なる芸能活動拠点を利用する。例えば体育館を借りるのではなく普段から文化発信している公共、民間の場所を利用することで新たなニーズや発見が県民に生まれるのではと感じた。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	より多くの方に参加していただく為、無料で鑑賞できるような企業等の広告料や寄付金の獲得に努力します。	達成 多くの地元企業等に広告料をいただきプログラムに掲載した。また、当日の鑑賞費は、無料とした。	達成 目標は達成している。
育成	人材育成（指導者、後継者等）	事業全体をコーディネートする指導者の育成を行います。	達成 演奏全体の進行やコーディネート等は、地元団体の若手（女性）が行った。	達成 若手が全体を把握することで視野を広げることに繋がる。
		公演当日は適切にスタッフを配置するとともに、県連団体が一致協力して、円滑な会場運営を行うように工夫します。	概ね達成 傾斜のついた舞台への太鼓の搬出入がスムーズに行えるなど、各団体が一致協力して会場運営を行った。	達成 若手が全体を把握することで視野を広げることに繋がる。会場の設営申請準備、前段階で必要な準備や配置、人員数はとても適切であった。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	子どもが鑑賞しやすいような料金（無料）設定を行います。	達成 鑑賞料金は、無料設定した。	達成 目標は達成している。
		総括	80.6%	86.1%

【成果】

- ・男性的な和太鼓演奏が女性の華やかな円舞とコラボして観客の興味を引くステージであった。
- ・観客の空席が気になったが演奏者が少人数でも力強く壮大な演奏が出来ることは見ていて素晴らしいものであった。
- ・これまで知らなかった地域の歴史を講談で聴くことができその後の演奏が最後まで興味深いコンサートになった。
- ・全員参加のエンディングではステージだけでなく客席での演奏は間近に太鼓の響きを感じ感動的であった。
- ・全体としては大きな成果を残したと思う。伝統芸能の発展の基礎はしっかりしていることを痛感した。和太鼓の持つ独特のエネルギーは聴く人の心と体を一体化させる力を持っている。そのエネルギーは何とも言えない、「明日への希望」「生きる勇気」そういったぐいを呼び起こしてくれる。質の高さに感動を覚えた。また、演奏者の連帯感を感じこれまた感動した。

【課題】

- ・入場者の実績が250名とあるが、実際に用意された250席の椅子にはかなり空席が目立っていた。
- ・アンケートの回収が少ないのは会場で回収ボックスが一箇所目立たなかったのではないかと。数箇所に設けてスタッフからの声かけがあった方がよかったのではないかと。
- ・自己研鑽を更に積むことの大切さと、和太鼓の練習が人生だと感じさせる粋をもっと受け止めたい。また、特殊性から大衆化への路線がもっと進むことを期待する。キーポイントは小学生と幼児。本来はこれらの伝統芸能が子供たちの潜在意識の中で育まれていかねばならないと思う。幼児教育、小学生の教育にもっと浸透して欲しい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・好天に恵まれたせいかとても会場が暑かったので、開催の時期をもう少しずらした方が観客にとっては鑑賞しやすかったのではないかと。
- ・連盟加入団体が6団体であるとしたら寂しいが他にも加盟団体がいたら紹介して欲しい。鳥取県の貴重な伝統を引き継ぐ為にも今後の活躍を楽しみにしている。
- ・和太鼓だけでなく、笑いを取れる芸能がミックスされていたのは鑑賞しやすかった。「講談」「大国主の縁結び神楽」「淀江さんご節、淀江浜唄」面白い組み合わせだった。「白鷺の舞」は粋な色気を感じた。
- ・この催しに限ったことではないが、入場料を設定することで県民の文化に対する意義変容を図ることができるのではないかと。



民踊のつどい ~つどい 咲かそう おどりの輪~(鳥取県民踊指導者連盟)

平成26年10月11日(土) 鳥取県産業体育館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	地域の伝統芸能(逢東おどり)保存会の継承者と連携し、逢東おどりを参加者と共に踊ります。	概ね達成 保存会の協力のもとに、歴史ある逢東踊りを来場者に知って頂いたこと。一緒に踊れたことは成功だった。ただ郷土性豊かなこの踊りは難しかったのではないかと。時間を長くすれば良かったとの思いもある。	達成 地域の保存会の継承者の方々との連携もすばらしく、全体として23団体のサークルをみごとにまとめ観客も踊りの輪に最初から引き込み、活気のあるステージで観客への声掛けをする司会者の努力の成果が出ている。 踊りの所作を一つ一つ詳しく説明しながら行っており分かりやすく、参加者も楽しそうに踊っているのが伺えたのも良かった。
		古くから伝承されている日本民踊(三朝小唄)を継承する事業を行います。	達成 温泉王国鳥取県を代表する民謡三朝小唄は有名である。踊りも機会あるごとに県民に披露し今回踊りの輪が出来踊れたことへの満足感を体験して頂けた。アンケート結果からうかがえた。	達成 民謡三朝小唄は県民に紹介することを取り上げて披露されたことは意味深く、その地域の保存会の方々が一緒になって達成された民踊は1回に終わらず、これからも続けて頂きたい。 カーテンコールにもう一度皆で踊ることで、参加者に、より印象づけることが出来たと思われる。
創造	質の高い文化芸術活動	外国から県内に在住する外国人の方が民俗舞踊を提供することによって、文化の違いに触れる機会に努めます。	達成 異国の地に留学し、自国の民俗舞踊を披露した姿は観客に感動与えた。3カ国の民俗舞踊を通して文化の違いに触れて頂けたと思う ロシアの踊りを一緒に会場いっぱい踊ったことも良かった。	概ね達成 ベトナム・中国・ロシアなどの留学生や鳥取在住の方の踊りが日本舞踊の中に取り入れられることにより、ステージの空気が一変した。 普段は触れることのないお互いの民族舞踊を知ることで良い刺激になったと思われる。最後にロシアの民族舞踊を全員で踊るようにしていたのは良かった。交流の場として踊りだけでなく民族衣装の体験コーナーなどがあっても良かったのではないかと。
		踊りの輪に入る事によって、日本民踊の素晴らしさ、楽しさ等を体験し、生涯学習の一環としてとらえて貰うような事業を行います。	概ね達成 日本民踊は生活の中から生まれ伝えられてきた踊りであり、自分の体力で楽しめるもの。体に浸みこまれている民謡・唄曲に合せ踊りの楽しさを充分体験してもらえた。踊りの輪に入ってもらえなかった参加者の誘導は今後の課題である。	概ね達成 人によっては何度も踊りに参加している人もおり生き生きとした姿が伺えた。ただ踊りにはある程度踊れる人ばかりが参加していたように見え、初めて訪れた人には参加しづらい所があったのではないかと。 曲が多すぎて少し減らしても良いのではとみている人は考える。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民への周知を図るため、事前に民踊普及講習会実施。また様々な媒体(新聞・テレビ・公民館等)を利用した効果的な広報に努めます。	達成 6月西部・中部地区において民踊普及講習会を実施した。また日本海新聞への掲載、日本海テレビお知らせ報道・NHKお知らせ報道・びよんびよんネットお知らせ報道と広報は達成できた。環境大学・鳥取大学・倉吉短大に案内した。20代30代と若年層の参加者があり良かった。	概ね達成 詳しい内容や参加状況は分からないが民踊普及講習会を行われたことやその他新聞やテレビ、大学などへの多くの広報活動を行っていた。講習会に参加したどの程度の人が民踊のつどいに参加したのかが知りたいと思う。 チラシ・ポスターに関しては色んな所で目にすることが出来たが、テレビなどでの広報があまり目立たなかったのが残念。イベントの内容をもっとイメージした伝達があれば観客がもっと多かったかもしれない。このイベントに踊りたい人が多く参加していることを思うと、まだまだ広報を広げれば沢山踊りにこられるはず。
		総括	86.7%	80.0%

【成果】

- ・どのサークルも日頃の練習成果を発揮し日本民踊の継承に努力しておられる、民踊がいに沢山あるか、そして皆さんが踊り踊り継承されていることがすばらしい。
- ・様々な民踊や外国の民族舞踊を見て、体験することができる良い場を提供できたと思う。
- ・踊りへの参加の声掛けをよく行っており、多くの人に参加し、楽しそうに踊っていた。
- ・踊りだけでなく、入り口に販売コーナーを設けているのも良かった。
- ・県東部の人のみでなく中部、西部、県外からと多くの参加者がいた。

【課題】

- ・若年層の参加者がいたとはいえまだ少ないので若年層への取り組みが必要。
- ・踊りへの参加は女性が多く男性は見ての人の人が多かったので、男性が踊りやすい曲を選ぶなど参加しやすい場を作ってみるのはどうだろうか。
- ・当日の会場の入り口に看板が一つだけだったので、もっと看板を出すなりアピールをしても良いのではないだろうか。



第38回鳥取県川柳大会(鳥取県川柳作家協会)

平成26年10月26日(日) 米子コンベンションセンター

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	発足以来50年になろうかという県川協の歴史を説明して、その存在意義を再確認して頂きます。	達成 この試みは昨年に続き2回目ですが、会員でも知らない人が多く、内容もより充実した物とし、また、50年程前の句を紹介して、当時の世相を想い出して頂く等、十分に理解して頂けたと思います。	達成 歴史の説明とは只々歴代会長を紹介しただけのイメージがあった。しかし、地味だが着実に発展していることは理解できた。50年の歴史の深さをもう少し工夫して歴史の重みを感じさせて欲しかった。
創造	質の高い文化芸術活動	全国的に有名な各柳社から著名な選者を招き、披講により優秀句を味わって貰う事で、質の高い事業を展開します。	概ね達成 選者は川柳界では著名な方々であり、披講のやり方というのも、選者の大事な技量です。披講された句をじっくり味わう事により、川柳の楽しさ面白さを再認識して頂けたものと思います。	概ね達成 選者を皆に披露することにウエートが置かれていた感はあるが、披講は感動するものがあった。声の抑揚など耳に心地よく、優秀句の選考は納得のいくものだった。ただ選者の中には、披講し、楽しみ味わう精神がやや弱いものがあったかと思われる。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	大会チラシを解りやすい物とし、又、昨年の受賞句を載せて、初めての人にも川柳に対する認識を持って頂きます。	概ね達成 チラシは、可能な範囲で地区の公民館に配布したりして、鑑賞者の拡大を図りました。今回初めて昨年の受賞句を掲載して、一般の方にも理解して頂けるよう努めました。	概ね達成 見やすいチラシであり効果はあったと思う。ただチラシを見ていないの話も耳に入った。口コミ等もう少しの地道な宣伝活動を期待する。
		見学希望者は無料で入場して頂きます。(チラシにその旨掲載)	概ね達成 見学者が5名あり、大会の雰囲気を感じて頂けたと思います。ただ、住所氏名の記入はしていません。	概ね達成 川柳の団体のどこにも属していない一般の見学者が入場するには、まだまだその環境を呈していないのが実情だと思う。それでも数名あったというのは今後の光として特筆すべきと考える。次回のイベント企画に工夫を期待する。
育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	参加料無料のジュニア部門を設け、気軽に参加出来る環境を設定します。又、小中学校にチラシを送り、参加をお願いします。	達成 ジュニアの応募は県内外から685句あり、これは昨年より26句減少したが、満足できる数字であると思っています。表彰式には、対象3名中2名に出席して貰い、大会を盛り上げて頂きました。	達成 子供たちに興味を持って頂く事は何よりの繁栄につながると思う。人材育成の起爆剤として期待している。
		大会誌を発行して作品に触れて頂きます。	概ね達成 全ての参加学校に大会誌を送り、作品に触れていただく機会を作りました。	概ね達成 参加校のみさんの作品が載っており、思い出として将来に向けての自信となったと思う。今後継続してほしい案件。
総括			77.8%	77.8%

【成果】

- ・マイナーな世界を抜け出しメジャーなより大衆化された世界への足がかりは出来たと思う。ジュニアの部門は魁になると思う。
- ・映像での説明は成功だった。

【課題】

- ・一般の方の参加が少なかった。どこかの川柳の会に属している方々ばかりだったかと思う(一部学生さんを除いて)。川柳をしている人たちの集まりとプラスして、より一般に窓口を広げる努力が課題。そのことが、逆に川柳を発展させる原動力ともなる。「川柳を創るコツを伝授します」とかいう講演を前座で行ってはどうか？

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・初めて見させてもらい感激した。この仕事をしていないと見ていなかった。そういった、評価委員の感想がある。専門性が高く、これを一般化するには、小学生の頃からの教育に資するところが大きいと思う。学校教育に力を入れていけたらと期待する。また、退職後の趣味の世界としても大きな力を川柳は持っていると思う。また、一般の方を対象に川柳を作っていたら、その場で批評し、指導をする企画なども面白いと思う。
- ・また、知事賞は良かった。「居酒屋を出ると知らない街だった」※確かにこういう経験はありますね。ひどく酔った時なんかはそうですね。昔の記憶が蘇ってきました。



第12回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2014 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

平成26年10月25日(土)・26日(日) とっとり花回廊ほか

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	「とリアート」全体像の定着を図り、イメージづくりや統一テーマの設定を継続して行い、テーマにちなんだ企画を実施します。	達成 西部地区事業コンセプト「いつものまちで文化する」を継承し「とリアート」全体の定着を図りながらも、「いつもまち」を新たな場所に変え、テーマ「Loop 合縁・奇縁・それもご縁」の「様々つながり」が事業全体を通して実践された。	概ね達成 観光地であり、距離や入場料などの制限のある花回廊を会場に「いつものまちで文化する」というコンセプトは若干の違和感を感じる。花回廊もいつものまちの一つだと言いたいのはわからないでもないが、盛り沢山な企画が参加する県民の多様な趣向に効果的だった。敷居が高くなく誰でも参加出来る雰囲気は良かった。
		会場を文化施設から地域の主要観光施設とすることで、普段から文化芸術へ触れることの少ない県民の参加の機会をつくります。	達成 県の観光施設「とっとり花回廊」を会場に実施し、会場との広報・運営面などの連携を図った。文化芸術と観光のコラボレーションによりとリアートを県内外へ発信できたとともに、相互に良い経験と新たな来場者を促す機会となった。	概ね達成 今回新たな試みとして花回廊を会場にしたことに関しては評価できる。花回廊とのコラボにより、とリアートイベントの新たな方向性を示すことができたのではないかと。ただ会場が広く、今ひとつ統一性がなかった。パンフレットには詳しく書かれていたが、入場して、一目でわかる配置の方が良かったと思う。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	実際に触れて体験できる機会、鑑賞できる機会を提供します。また、会期後も参加できるような機会を案内する工夫を盛り込みます。	概ね達成 公募企画・自主企画事業共に多彩な内容の体験・鑑賞機会が提供できた。また、内容ごとに会場(エリア)を分けそれぞれに集中できる環境を整えることができた。会期後の参加を促す取り組みはパンフレットに連絡先やインフォメーションを入れるなど工夫したが、主に各団体の個別のPR(チラシ・アナウンス)にとどまり一部課題が残った。	一部達成 ワークショップはヤン・アート展など珍しいものもあり興味を持った。他の地区にも言えることだが特に鑑賞の部分は弱いように感じる。花回廊は屋外をメインとした会場であり、屋内の環境が必要な展示が難しいことは理解できるが、場所もわかりにくく隅に追いやられているようにも感じられた。会期後の参加を促すような試みはあまり感じられなかった。
		年齢問わず誰もが気軽に体験できる機会を提供することにより、多世代の繋がりを深める企画を実施し参加者層の幅を広げます。なお、実施者と参加者とのコミュニケーションを充実し、事業の意図が伝わるように努力します。	概ね達成 会場の設定上、市街地から離れ例年にくらべ誰でも気軽に自由な参加にはやや制約があったが、子どもから大人まで楽しめる幅広い企画を提供でき、例年より幅広い層の参加があった。また、各企画の事業意図の伝達力については各実施団体で差があり、単に実施するだけに留まらないようアドバイスしていく必要がある。	概ね達成 会場へのアクセスや入場料などの制限により、誰もが参加できるという要素は若干薄れてしまったが、ワークショップ、展示、ライブ&ステージパフォーマンスは世代を問わず楽しめる構成で良かった。「田植唄とおどり」はお年寄りが喜んでみていた。事業の意図の伝達は今ひとつかも知れない。

裾野の 拡大	県民誰もが 気軽に文化 芸術に触れ る機会の特 供	西部地区全体としてのイベントである意識付けをするために、新たな場所(前回実施とは違う地域の市町村)での実施を行うことで、地区全体のイベントとしての理解を促し、文化芸術に触れる機会を地区内広域に提供します。	達成 地区全体のイベントという認識醸成にはさらに工夫が必要であり今後継続して検討する必要があるが、コンセプトである「いつものまちで文化する」の「いつものまち」を「とっとり花回廊」に移し実施したことにより、相互に新たな鑑賞者・参加者の来場があり、新たに文化芸術に触れる機会が提供できた。	達成 花回廊を会場としたことに関しては賛否あると思うが、新たな試みに挑戦する姿勢は評価したい。アンケートの中にも会場についての意見があり、今回出てきた課題を改善し、次の機会に活かしてほしい。今回は境港市あたりが面白い。
		県内の文化団体と積極的に連携(出演者の相互交流)し、繋がりを深めます。	概ね達成 自主企画事業に優れた地元の活動団体を選出するとともに、公募企画事業募集をとおして積極的に連携を図った。また今年度は「大山アニメーションプロジェクト」、「NPO法人こども未来ネットワーク」など県内活動団体の実施する「鳥取藝住祭」、「暮らしとアートとコノサキ計画」事業の招聘アーティストの出演もあり良質な作品の提供と交流ができた。	達成 県内にも多くの文化団体が存在しており、今後も様々な団体との交流を図り、お互いのレベルアップにつなげてほしい。
頂点の 伸張	県内の文化 芸術の質の 向上	実施団体との内容確認・実施準備のための意見交換の機会を複数回設け、実施者全体での事業内容の更なる周知を図り、事業テーマ、コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。	概ね達成 参加者説明会の実施により事業意図の周知、相互理解を図る機会を設けるとともに、新たな会場での実施にともない、会場へ直接足を運んでの事前説明会を実施した。テーマや会場に合わせた内容確認・実施準備が十分にできるよう意見交換の機会を設けたことにより事業全体の統一が図れた。	概ね達成 会場での説明会は距離的、時間的にも大変な作業だったと推察するが、この会合により事業内容の共有化はできたはず。意見交換があつて、実施し、反省会があつて、次回の発展は期待できる。「文化芸術の発展」はコア的なところが熟成してこそ可能だと思うが、努力のあとは感じた。
		公募企画者に対し事前説明会、選考会、参加者説明会(相談会)等を行い、応募者の企画内容を事業に沿ったものへとブラッシュアップを試み、質の高い事業となるよう工夫を行います。	概ね達成 選考会では、審査だけにとどまらず質の高い事業となるよう事業内容に新たな提案を行った。また、参加者説明会(相談会)においては委員会と実施者がともに企画内容について検討する機会を設けることにより、質の向上に努めた。	概ね達成 実施者に対しての説明会について、アンケートには必ずしも肯定的な意見ばかりではなかったこともあり、内容に関してもさらに詰めてお互いの理解が深まるように努めてほしい。
	県民ニーズの把握	プレ・ワークショップを西部地区全体の複数の場所で開催することで、地域ごとでのニーズや、会期中には難しい、参加者からの直接の意見を積極的に聞き出し、事業への反映を図ります。	一部達成 県民ニーズを捉えるのは難しく、ニーズを把握し事業に反映できたとは言い難い。今後ニーズの把握に努めるよう方法の検討が必要であるが、新たな試みとして会場を変え複数回実施したことにより広報、メディアに取り上げてもらう機会となった。	概ね達成 展示に「郷土歴史散歩、冊子、展示、販売」というのがあった。昨今郷土の歴史にスポットがあてられ、地域の活性化に寄与する動きがあるが、上手くニーズを捉えている。

頂点の伸張	県民ニーズの把握	Facebook等SNSやホームページを利用して、気軽に意見を頂く機会をつくります。	概ね達成 SNSを活用しネットでの情報発信の場を作り、運営の様子やワークショップ、当日イベントの告知などを行い積極的に事業の周知を図った。SNSで積極的な意見をいただき参加にいたった団体もあり有効な情報発信ツールであり、今後はより双方向性のある交流となるような情報発信方法に工夫していくことが課題である。	概ね達成 こういったツールを使用している参加者は、現時点でそれほど多くはないかもしれないが、新たな層にPRできる良い機会でもありさらに積極的に活用してほしい。
	良質な作品の提供	過去に高い評価を残す実績のある企画を再演化し、テーマや事業意図に沿った更なるクオリティの向上を目的とした創造作品に取り組みます。	概ね達成 「西部地区中学校選抜バンド」の再演を基点に、保育園児、小学生のパフォーマンスを組み合わせた企画を実施し、観客だけにとどまらず実施者の世代を超えたつながりを創出した。 また、昨年度のとりにアート賞受賞団体の「happy unbirthday」を起用しテーマ・会場に合わせレベルアップしたパフォーマンス・展示企画を実施した。 例年実施していた「米子八景と他ジャンルのコラボ企画」を「落ち着いた雰囲気ではないため成果が薄れている」という指摘も踏まえ、集客面に課題が残ったものの地元出身アーティストによる「とりにアートスペシャルコンサート in 花回廊」を開催し質の高い演奏に触れる機会を提供できた。	達成 文化活動においては過去の作品の反復や再現といった点も重要な意義を持っている。そういった意味では、新しい試みだけでなく、更なるクオリティの向上を伴う再演は、意義深いものだと思う。また会場が代わるだけでも印象は異なるものと思われる。中学生の選抜吹奏楽はレベルが高く実績のある企画と評価した。
		県内外で活躍するアーティストを登用した自主企画を実施します。本年度は、県民の方に身近に感じて頂くため、県内出身者・県内活動者を基本とします。	概ね達成 県内出身者・県内活動者の中から「モンスターズをつくろう」「hUb*おかしなプロジェクト」「折紙和傘作り」などのワークショップやパフォーマンス、「とりにアートスペシャルコンサート in 花回廊」の演奏など県内外で質の高い活動を広く行う活動者を起用した企画を実施し県民の皆さまにより身近に感じていただけた。	概ね達成 鳥取県総合芸術文化祭という名のもとに行っているイベントとして、県内の活動者を積極的に取り上げることが正しい姿勢と思われる。幼稚園から一般まで地元の方々を主流にしている路線は満足した。また、年々向上する姿は「計画、実行、反省」が上手くサイクルしていると思う。ただ毎年同じような顔ぶれになっている感もあり、新しい活動者の参加を促すような試みも行ってほしい。
育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	鑑賞者の芸術文化活動につながるようなワークショップを実施し、会期後にも活動に参加できる・したくなるような工夫を盛り込み、鑑賞者から活動者になる機会を提供します。	概ね達成 実施団体ごとに声掛けや丁寧な説明、個別のPR(チラシ・アナウンス)を積極的に行った。事業全体としてはパンフレットに連絡先やインフォメーションを入れるなど工夫したが、さらに工夫が必要であり継続的な課題である。	一部達成 取り込む対象は、「幼児から小学生」と「定年退職者」と「主婦」が効果的かと思う。そういった意味での「ワークショップ」は魅力あるものが多かった。声掛けに関しては団体間で温度差があったように感じた。

育成	活動者（指導者、後継者、担い手）の育成	実施者との運営委員会を立ち上げ、事業のブラッシュアップ、当日運営の方法などを協働することで、活動者の育成を図ります。	概ね達成 会場が変わったことにより事前調整・当日運営についてはより効率的な運営をするためには一部課題が残ったが、事前説明会、参加者説明会、PR会、懇親会などの開催また会場準備・撤収・当日運営を実施者と委員会が協同することによってイベント企画・運営の一端を知る機会となった。	概ね達成 会場を考えると調整等は難しかったと思われるが、アンケート等の意見を活かし更なる円滑な事業の運営につなげてほしい。当日の運営のスタッフが不足していると感じた。
	鑑賞者の育成	質の高い公演・ワークショップ等を行い、鑑賞者のレベルアップを目指します。	概ね達成 自主企画事業として県内出身・県内活動の優れた団体を選出した公演・ワークショップの質の高い事業を実施するとともに、公募企画事業ではPR会を行い選考し、助成を行うAコースと書類審査を行うBコースを設け質の担保に努めた。	概ね達成 全体的にレベルは高く、鑑賞者のレベルアップに寄与したと思う。展示部分にもさらに力をいれてほしい。
		幼児期における鑑賞・体験機会の提供など、若年層の鑑賞機会の幅を広げるため、プレ・ワークショップや事前の参加募集などを整える等の工夫をします。	概ね達成 米子市児童文化センター、米子子ども劇場 9 月例会に協力を仰ぎ、子ども向けにプレワークショップを実施することができた。また、幅広い年齢層に向けたワークショップ・公演を計画し、当日パンフレットの配布を西部地区の全小・中学校に行い周知を行った。	概ね達成 子供とかかわりの深い環境でのプレワークショップを行ったことは意義があると思う。県内の保育所、幼稚園をくまなく網羅できる体制を期待する。今回子供を連れての参加であったがあまり参加できる場所がなく、あっても声かけ等がなく参加しづらかった。
		会場を広く回遊する工夫を設け、ステージパフォーマンス風景、ワークショップの実施状況や、作品制作過程を参加者に見せることにより、育成を図ります。	達成 プレワークショップで作成した会場マップを使用し、会場周遊企画（オノマトペみつけラリー）を実施した結果、多くの来場者が楽しみながら会場を周遊し、結果的にとりアートの様々な企画に触れる機会を提供できた。 また、会場の広さから全てを網羅できず一部会場案内には課題は残ったが、一般来場者の導線や、会場の特性を考慮した会場案内サインが有効に機能していた。	概ね達成 会場を広く活用したいという意図における会場周遊企画は理解できるが、やはり少し広すぎたように思う。全ての人に十分な滞在時間があるわけではなく、少ない滞在時間でも見られるようにある程度の見どころをまとめるなど、会場の使い方についてはさらに詰めてほしい。またこの企画自体が少し難解（説明不足により？）で子供が参加するには少しハードルが高かったかもしれない（自身はスタッフの方に尋ねて理解した）。会場のスタッフの人数も少なかった。
アートマネージャーの育成	昨年度の未達成事項を再確認し、実施内容の質の向上を目的に実施者との意見交換の場（事前説明会、参加者説明会（相談会）等）を設け、アートマネージャーによる実施者へのアドバイスを機会を多く設けることでアートマネジメントのスキルアップを図ります。	概ね達成 事前説明会、参加者説明会、PR会を設け、アートマネージャー、コーディネーターを中心に、質の向上及び事業意図を相互理解することを目的に意見交換及び委員会からの提案を行う機会を設けたことにより、質の向上にはまだ課題が残るものの全体的な事業の統一が図れた。 また、昨年度の課題より開催時期の変更、ステージイベントとワークショップ実施場所の棲み分け、総合司会の設定など改善を行った。	概ね達成 意見交換会、昨年度の課題の改善などにより質の向上への努力が見られる。	

育成	アートマネージャーの育成	<p>部門ごとのコーディネーターと、次期アートマネージャー候補をサブアートマネージャーに配置し、小回りのきく運営体制を組立、意見交換の機会をさらに充実するなどして育成を図ります。</p>	<p>概ね達成 次期アートマネージャー候補をサブアートマネージャーとして配置するとともに、各部門のコーディネーターとして各分野の経験者を配置した運営体制を整えたことで、業務による負担が偏るなど一部課題は残ったが、充実した事業推進ができた。</p>	<p>概ね達成 経験者と新規参加者との間でうまく連携をとりながら、スムーズな運営への体制を整え、また今後の後進の育成に努めてほしい。</p>
		<p>実施者によるプレ・ワークショップを企画し、協働する機会を本番以外にも複数回設け、アーティストと共にアートマネジメントのスキルアップを図ります。</p>	<p>概ね達成 実施者である「happy unbirthday」と協働し告知方法、集客面などに課題は残るが、西部地区で広く周知を目的とし米子市児童文化センター(米子市)、カフェマルマス(境港市)、米子子ども劇場9月例会、まぶや(大山町)に協力を仰ぎ、プレワークショップを5回実施し事業PRを行った。</p>	<p>概ね達成 実施者との協働による告知はお互いにとって意義深いものと思われる。</p>
	技術者の育成	<p>過年度までの各部門長を改め、ステージ・展示・広報にワークショップを含めたコーディネーターを配置し、さらに小回りのきく運営体制を基本に、技術者との会場作りでの交流を充実させ、参加者の技術力の向上に努めます。</p>	<p>概ね達成 経験ある技術者を各部門のコーディネーターとして配置し、スムーズかつ安全な運営体制を確立すると共に、事前説明会、参加者説明会において会場設営など専門的アドバイスを参加者に提供した。また、当日運営の参加によってイベント企画・運営の一端を知る機会となった。</p>	<p>概ね達成 この度コーディネーターの配置という新たな体制をとったとのことだが、技術者の育成にうまくつなげ全体のレベルアップに寄与してほしい。会場運営はスムーズだった。</p>
	支援者の育成	<p>参加者による運営への参加の機会を通して、お互いに技術的な部分でのスキルアップを図りつつ、文化芸術に親しみを持つ人を増やす工夫を行います。</p>	<p>概ね達成 参加者スタッフや普段から文化活動を行っている米子高専ボランティアスタッフ等が協力し運営に携わることで、互いの文化活動に興味を持つと同時に、文化事業の企画・運営について知る機会となった。</p>	<p>概ね達成 地元の教育機関との連携は今後の若手育成の面においても重要であり、積極的に行ってほしい。スタッフの数は少ないと感じた。この辺が課題だと思う。</p>
育成した人材を活用する場の提供	<p>実施者との運営委員会を立ち上げるなど、参加者同士が横のつながりを築ける場を提供します。</p>	<p>概ね達成 実施者参加の事前説明会、PR会、相談会、懇親会を実施し、テーマにそって「縁」を考慮した運営を行った事によって、とりアートを通じて西部地区の文化芸術実施者の新たな横のつながりを築く場を提供できた。今後の実施者の活動の広がりが期待される。</p>	<p>達成 実施者との運営委員会を実施する中で、横のつながりが築けたように見えた。</p>	
	<p>次年度にまたがる企画など、中長期的プランを検討します。</p>	<p>一部達成 西部事業コンセプト「いつものまちで文化する」の「いつものまち」が限定された場所だけでなく西部地区全体であることを意識づけ、より広がりのある事業となるよう実施した。具体的プランについては今後継続検討が必要であるが、第一歩として「とっとり花回廊」で実施したことは成果である。</p>	<p>一部達成 今回の会場の変更が、今後へとつながるプランの一端のようさらなる新しい切り口を期待する。また花回廊の会場については、来年でなくともまた何年か後に今回の課題を改善したうえで開催をしてほしい。</p>	
総括		69.4%	68.1%	

【成果】

・新たな会場として西部の観光の拠点とも言える「とっとり花回廊」で行うことで、花回廊及びとりアートイベントの相互の魅力を高め、また新たな方向性を示すことができたと思う。天気も応援してくれて、成功だったと思う。

【課題】

・会場についてはいくつかの課題もでてきたと考えられる。広すぎる会場をいかに効率よく使用するか、距離や入場料などの制限による集客率への影響、会場を活かした企画の必要性など少し考えただけでもいくつか思いつく。これらの課題を改善したうえで同会場でのイベントへ参加してみたい。その他鑑賞のための環境づくりや休憩場所の確保なども屋外の広い会場に伴う課題と言える。

【その他事業に関する意見、感想など】

・今回で西部とりアートは4年連続での参加になるが、常に新しい試みに挑戦する姿勢が見られ好感が持てる。ただ何年も参加していると実施者の顔ぶれが重なってくることもあり、新しい実施者の参加を期待したい。これは実施者の所在地によるものが関わっていると思われるが、思い切って東・中・西の実施者をシャッフルするなどの試みをおこなってみてはどうだろうか。これによってなかなか他地区までは足が向かない鑑賞者にとっては新たな文化に触れる機会が増え、新鮮な気持ちで鑑賞でき、また実施者にとってもそれぞれの活動の場を広げ、参加者を募る機会にもつながるのではないか。



第12回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2014 中部地区事業(中部地区企画運営委員会)

平成26年11月1日(土)・2日(日)・3日(月祝)倉吉未来中心ほか

文化芸術事業評価シート(とリアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化 芸術の裾野 の拡大	幅広い文化芸術分野の事業を実施します。	概ね達成 楽器演奏、歌、劇、映画、ダンス、着物ショー、プロレスまで幅広いジャンルのステージ27企画、物づくりから体験型まで様々な種類のワークショップ19企画、全館を使った絵画コンクールの展示を始めとする展示4企画と、企画数も過去最多であるとともに幅広いジャンルの事業を実施できた。	達成 たくさんのジャンル幅広い企画があったためか、ごちゃごちゃした印象で統一感がなく煩雑さが目立た。しかし幅広い年齢層の来場者を楽しんでいたように感じられた。
		子どもでも楽しめる企画を積極的に実施し、親子・家族で楽しめるイベントにします。	達成 「キッズのものづくり道場」「クリスマス飾りを作ろう」「お面をつくろう」「バルーンアート」「アロマ de クラフト」など、親子・子ども向けのワークショップを多く取り入れたおかげで、当日は家族連れ姿が多く見られた。また、オープニング、バレエ、DANCE TUBE、合唱団MIRAI、絵画コンクールなどの子どもが出演・参加する企画も積極的に実施した。	概ね達成 子供を惹き付けるには工夫された事業展開であったと思うが、文化芸術の視点、文化の継承の観点から考えるとアトリウムでのものづくり体験はいつも開かれているイベントとなんら変わりがない感じがした。 似通った企画が同じ空間、同じ時間に組まれていると優劣がついてしまうこともあるので内容を把握しタイムスケジュールの調整にも配慮が必要。(バルーンアート、大道芸等)
		身近な生活や歴史のテーマを取り上げる等の工夫により、文化芸術裾野の拡大を目指します。	概ね達成 誰でも気軽に参加できるペットボトルや紙コップなどの身近な道具、松ぼっくりや流木など自然の素材を用いたワークショップ・展示企画を複数実施した。また、絵画コンクールの募集テーマの一つに「私の住む町」という身近なテーマを組み込み、多数の応募があった。歴史的な物語をテーマとした紙芝居、朗読、劇等のステージを実施したが、まだ印象が薄い。	概ね達成 年長者の皆さんが取り組まれていた科学体験コーナーは子供たちにとって有意義だと思った。しかし直ぐ終了してしまうのでそのあとに続く振りかえりができるワークショップに構築していけるとなりたいと思う。 歴史的なテーマは感じられなかったが今後も歴史的な物語をテーマとした企画の継続を期待します。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	誰でも気軽に鑑賞できる、オープンスペース(アトリウム)での企画を充実させます。	達成 限られた空間をフルに活用するため、配置にも工夫を凝らし、アトリウム内でステージイベント20企画、ワークショップ8企画、展示3企画を実施した。ステージイベントは出来るだけ空き時間がないよう調整し、二階や階段からも観覧できるステージ配置とした。また、アトリウムだけでなく階段や通路などの開かれた空間に作品を展示することで、歩きながらも気軽にアートを楽しんでいただける環境をつくった。	概ね達成 そろそろ、いくらで何かを作って持って帰るものづくりをワークショップとせず子供たちの想像力や発想を深めていけるワークショップを企画されるともっと良かったと思う。ステージイベントは多種であったが、観賞しやすい環境整備がされていた。しかし司会進行については若者を起用したまではよかったが、素人さんであればもう少しスムーズな進行になるよう前もっての準備が必要だったように感じる。展示はすべてのグレードが同じ場所で、埋没してしまう作品も出てしまう。展示レイアウトの工夫も必要。

裾野の 拡大	県民誰もが 気軽に文化 芸術に触れ る機会の特 供	周遊企画やフードコート等の実施など、来場者がより長く、より楽しく、より気軽に事業を満喫できるよう工夫します。	達成 館内数カ所に設置されたクイズに回答すると抽選会に参加できる周遊企画を実施した。クイズの内容も、子どもでも分かる簡単なものにしたことで会場内を周遊する多くの家族連れの様子が見られた。また、今年はフードコートの店舗数を増やし、特にご飯系を充実させたことで、企画と企画の合間に館内で昼食を取りつつ、1日中事業を満喫できる環境づくりに努めた。	概ね達成 周遊企画は見つけられなかった人もあったようでもう少し周知が必要。人通りの少ない展示会場への誘導ができるような周遊企画になっていれば、しかけてももっと良かったと思う。フードコートは昨年より分かりやすかったが、早仕舞いの店もあり、またコストパフォーマンスにもバラつきが見られた。
	県内の文化 芸術の質の 向上	鑑賞だけでなく、来場者が実際に参加・体験できるよう、体験型ワークショップの充実を努めます。	達成 今年ワークショップ企画数を昨年の1.6倍に増やし、充実を図った。雑貨、クリスマス飾り、手づくり楽器、和菓子、お手玉、和紙ランプなどを作る物づくりワークショップから、初心者向けのバレエ、日本舞踊、和楽器、ダンス、フラメンコ、きもの着付けなどを実際に体験できるワークショップまで、幅広い内容で実施した。	概ね達成 参加者のバラつきがあるのは、もともととりアートでなくても集客できるようなものがあるためと感じられる、とりアートでなかなか参加できないようなワークショップで参加者が動員できるようになることが望ましいと思うが、セミナールームでのワークショップなどは、時間が重なっていて残念だった。
事業テーマ・コンセプト等を明確にし、事業内容の充実を図ります。		概ね達成 昨年までは複数のテーマを設定していたが、より明確化を図るため、今年にはテーマを「次世代育成」一本に絞り、子ども・若者が出演する企画、親子向け企画を多数実施した。また、対象年齢に関わらず初心者向けの体験ワークショップを充実させたことで、「次世代＝若年層」の育成だけでなく、これまで文化芸術に触れる機会の少なかった層の育成も図った。公募事業においては、今年初めてプレゼンテーション会を開催し、実施者(応募者)にテーマに合致した内容での事業実施を依頼した。	概ね達成 テーマに沿った実施内容を検討されたことはよかった。誰もが気軽にということ、質の高い文化芸術の両立は容易ではないが、実施者自体の向上がなければお祭り騒ぎで終わりがち。ゆっくりとでも次世代育成を見据えた質の向上、それに向かうプロセスを見せていけるようなものが継続して公募事業となっていけばいいと思う。	
大ホール、小ホール、セミナールームなどの会場施設を活用し、大規模、中規模、小規模と様々な規模の企画を実施・提供します。		概ね達成 敷居が高いと言われがちな文化芸術において、来場者が自分のレベルに合わせて参加・鑑賞企画を選択できるよう、大ホール、小ホール、アトリウム、セミナールーム、リハーサル室、屋外など館内全域を使用し、様々な規模の企画を実施した。	一部達成 レベルに合わせて参加・鑑賞と言われればそうだった、自分でやってもいいようなものを同じ会場に集めましたというような感じを受けた。さらにはタイムスケジュールが鑑賞者目線ではなく組まれていたため参加したいものの重なりが多く残念であった。	
頂点の 伸張	県民ニーズ の把握	昨年のアンケート結果、評価等を見直すことで、来場者の意見に応え、より良い事業となるよう努めます。	概ね達成 より良い事業を実施するため、昨年アンケート等の指摘事項を再度振り返った。絵画入賞作品の展示場所の見直しや、審査員コメントの提示などを取り入れ、幼児でも参加できる企画やフードコートを増やしてほしいとの声にも応えられるよう努めた。また、来年度以降に活かせるよう、今年のアンケート項目にも工夫を凝らした。	概ね達成 絵画展示などは工夫されていたと思う。しかしフードコートは増えたとはいえ早仕舞い、また、昨年事業評価で課題として出していた「ごみ箱がわかりにくかったようなので、ごみ箱も会場演出の一つとしてアーティスティックなものを作るなど工夫することによって衛生面と環境が同時にクリアできるのではないか」という意見は見落とされていたようだ。

頂点の伸張	良質な作品の提供	委員自らが実施または推薦する企画を多く取り入れ、高質な事業実施に努めます。	概ね達成 大ホールで実施した「The DANCE TUBE」、小ホールの「鳥取だらずプロレス」を始め、「オープニング」「合唱団 MIRAI」「和菓子づくり体験」など委員が実施・推薦する企画を計29企画実施した。アンケート結果からも人気の企画ばかりであったことがわかる。	概ね達成 推薦企画は多かったようだが質に関してはどれが推薦企画なのかと思うものもあり基準が曖昧だった。公募企画に惹かれる企画もあった。
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	次世代を担う子どもたちや若年層の発表の場を提供します。	概ね達成 園児から小・中・高・専門・短大生までの若年層が出演・参加する企画を計11企画実施した。各団体が日頃の練習の成果や作品を思う存分発表する場を提供することができた。	達成 若い世代の出演者も多く次世代育成としては今後も期待されるが、発表会の場そのものだった。
	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	地域の活動者、職人、伝統文化の継承者などと連携し、昔ながらの遊びや伝統芸能等の文化を次世代へ継承します。	一部達成 和太鼓、尺八、箏、民話、着物、お手玉、日本舞踊、お茶席など、伝統芸能や昔ながらの遊びに関する企画、ダンス、バレエ、フラメンコなど初心者向けの体験を多く取り入れた。また、和菓子職人による和菓子づくりも実施した。ただ、今回の体験者の中から次世代の後継者が生まれれば良いが、二日間の事業では育成するところまでは難しいというのが現状である。	概ね達成 このような会場でワークショップを後継者の育成と考えるには無理があると思う。それより体験することで参加者が何を得られるかのきっかけ作りが重要。そのためには指導者のグレードアップにつながるアドバイスも必要。他者を受け入れ同じ時間を共有することでコミュニケーション能力の高い人材の育成。高校生などを中心にファシリテーターの技量育成も必要だと思う。同じ時間に重なるものが多くほとんど参加できなかったが、最後に振りかえりの時間を取られたワークショップはあったのだろうか。
	鑑賞者の育成	アトリウムにおける企画の公演時間を短くし、企画数を多くすることで、来場者が普段興味を持たないジャンルのステージも鑑賞しやすくなるような環境をつくります。	概ね達成 オープンスペースである特設ステージイベントの公演時間を基本30分間に設定し、ジャンル・企画数を多くした。また、来場者の離席を最小限に防ぐため、企画と企画の間が空かないよう調整した。アトリウム内にフードコートやワークショップスペースを設け、人が集まりやすい環境づくりにも努めた。	一部達成 お祭りと考えれば賑わいがあってよかったと思うが、演目によっては鑑賞者数にばらつきがあり、鑑賞者の育成にはつながらなかったと感じた。出演者もせめて自分の出演には事前に呼びかける努力も必要。
アートマネージャーの育成	昨年に引き続き、アートマネージャー1名とサブアートマネージャー2名を配置し、次期アートマネジメント人材の育成を図ります。また、アートマネージャーを主体とした委員会体制をつくることで、アートマネジメント力の更なる向上を狙います。	一部達成 アートマネージャー・サブアートマネージャーが委員会の中心となって事業を企画・運営し、事業を進めて行くこと自体がアートマネジメント力の向上に繋がった。しかし、他に仕事をもち、制限がある中でのアートマネジメント業務は容易ではなく、指導者や育成プログラムがない現在の体制ではアートマネージャーの育成は非常に困難であるというのが委員会の総意である。アートマネージャーを設置するという体制から見直す必要があるのではないか。	一部達成 このような大規模な事業のアートマネジメントを、専門性を持たずにやるには無理があり、若い人材を育成していくには何年か継続して関わっていただかなければならない。特殊なアートだけに特化している事より、ある程度鑑賞者側にも立ってコーディネートできる力量が必要とされる アートマネージャーを本気で育成するのならば学問的な勉強、適切なセミナーなどの必要性を感じる。	

人材育成	支援者の育成	人気企画は継続し、リピーター育成を目指します。また、更に新たな企画も取り入れることで、これまでとリアートに足を運んだことのない層の来場を狙います。	概ね達成 人気企画である和菓子づくり、アロマ、てづくり雑貨、お茶席などの継続に加え、過去に人気だったクリスマス飾り、和紙灯りなどを復活させ、リピーター育成を図った。毎年常連となっている方々からの来場者アンケートも多く、リピーターが増えてきていると言える。また、今年初めてとなる企画は計25企画実施した。その中でも特に「鳥取だらずプロレス」では、普段会場に足を運ぶことのない男性や新たな層の方にご来場いただくことが出来た。	一部達成 人気企画があることは集客としては大切な事だが、どこでもやっているものではなく、とリアートだからこそできる質の高いものを応援してくれる支援者を増やしていかなければとリアートの意味がないように感じる。またプロレスに関しては入場者の多さに驚いたが時間がほかの企画が終了してからの設定でとリアートへ来た人ではなくプロレスに来た人たちだったのではという疑問が残る。
		総括	71.1%	62.2%

【成果】

- ・親子の来場者が多く会場も賑わい参加者が増えていることは評価に値する。
- ・企画もたくさんで出演者、関係者の来場も増え、その来場者が会場を周遊、ワークショップにも参加して賑わいに拍車がかかった。
- ・気軽に参加できるワークショップなどがありアンケートにも反映されている。

【課題】

- ・アトリウムのごちゃごちゃ感を解消するためのレイアウトにもう少し工夫が欲しい。
- ・タイムテーブルに重なりが多く鑑賞者の立場に立ったタイムテーブルを考えていただきたい。
- ・オープニング等人が多い時の会場整理のスタッフ配備。
- ・受付及びスタッフの共通認識事前研修。
- ・来場者が少ないものについての広報の工夫。
- ・継続と質の向上のためには地域活動者、団体の発掘、連携が必要。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・来場者のカウントが延べ人数になっているのか、来場者数に比べアンケートの回収数が悪いように感じる。
- ・多種多様な催しが同時進行でおこなわれて、賑わいはあったが「大学の学園祭」のようだった。
- ・プロレスの開催は、賛否両論あるがあこの時間帯ではほかの催しの入場者アップには直接関係しなかったのではないかとと思われる。とリアートが何を指す事業なのか主催者はしっかりと方向を示すべきである。
- ・プロレス会場のチケットについては連絡の行き違いもあり入場できなかった。しかし鑑賞できなかったことより、そのことに対するスタッフの対応の悪さに驚きを覚えた。
- ・アートマネジメントには直接関係していなくてもクレーム処理、リスクマネジメント、チケット枚数把握、お客様対応などもふくまれていると思う。
- ・少なくとも対応の仕方で受け取り手の印象は変わる。質を高めるにはそんな学習から必要ではないかと感じたとリアートだった。
- ・また、総合受付が分かりにくく会場案内図や当日パンフレットも見にくいと思った。
- ・文化祭のようなお祭りにするのか文化芸術に触れる機会と向上を目指すのかで方向性は変わっていく。さらには両方を求めるとどちらも中途半端になる。どちらも大事なら、企画の棲み分けが必要



第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)

平成26年11月8日(土)・9日(日) とりぎん文化会館ほか

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	古いものから新しいものまで、地域の文化・特色を活かした企画やその魅力を再発見する企画を実施します。	概ね達成 受け継がれている地域の伝統芸能から小学校での取組、そして現代の様々なアートパフォーマンスや体験企画を実施することが出来た。全体的にもう少し地域色溢れる企画が実施できたのではないかな。	概ね達成 前回からオープニングは賑やかで盛り上がる。次回に向かって地域ならではの文化を掘り起こして人々に伝えられたらと思う。
		多彩なジャンルの鑑賞・体験の機会を提供し、裾野の拡大を目指します。	概ね達成 ステージでは、これまでより多彩なジャンルの企画を実施し、ワークショップでは、会場レイアウトの工夫(一階に集約)により、気軽に体験しやすい環境を整えた。 ステージでは新しい企画が多々あったが、公募でのワークショップでは新規のものが少ない。新規応募をどう広げていくかが課題である。	概ね達成 前回までのスタイルからフリースペースに集中させ、枠がなく効率よく体験できる環境が整った。継続して参加している部門が弱い感じ。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	多彩な企画を実施することで、本事業が障がい者と健常者の交流の場となることを目指します。	概ね達成 ステージ出演に加え、新たにインスタレーションにおいても東部地区8カ所の障がい児通所支援事業所の皆様にご協力いただき、昨年以上に連携を図った。 障がい者と健常者がともに何かを創り出すという企画はなく、「交流の場」とまでは至っていない。	概ね達成 全国障がい者文化芸術祭の一環で参加者はよく練習された様子が見える。もっと大きく扱ってもよかったのでは。健常者とのつながりができたかはわからない。
		商業施設と連携したイベントを行い、気軽に地域文化に触れることの出来る機会を提供します。	達成 昨年に続きイオンモールでのイベントを開催した。今年は、実施時期を本編(11月)とずらしたことにより委員会全体で取り組むことができ、それが質の高さに繋がり、昨年を大きく上回る方に鑑賞いただけた。 内容によって、観客の足の止めた方に差があった。とりぎん文化会館会場と来場目的が異なる商業施設でのイベントは、「見て欲しいもの」と「見たいもの」のバランスの取り方が課題である。	達成 商業施設でのイベントを行うことで、気軽に文化に触れる、鑑賞機会を提供した。

裾野の 拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	会場レイアウトを工夫し、来場者が会場にゆったりと滞在しやすい環境を整えます。	概ね達成 会場レイアウトをこれまでと大きく変更した。これにより、メインステージ(展示室)では、じっくりとステージ企画を鑑賞いただき、フリースペースでは、ワークショップ・食のブースを楽しんでいた。また、休憩スペースも広く取ったことにより、ほぼ終日人の流れが途切れなかった。 ワンフロア化したことにより、各出展ブースが狭くなってしまった。	概ね達成 メインステージを展示室に設置されフリースペースより反響しなく音響がよくなり、落ち着いて鑑賞する環境が整った。 展示が弱いので2階を展示スペースにしては。
		事業全体に統一のテーマ性を持たせ、事業内容の充実を図ります。	概ね達成 「アートの森」というテーマの下、インスタレーション・広報物デザイン等で事業イメージの統一化を図った。 企画内容においてテーマに沿ったものもあったが、一方でそうではないものもあり、事業全体の統一化までは至らなかった。	概ね達成 印刷物、ディスプレイで「アートの森」のテーマ性が感じられたが、イメージの統一感は今少し。パンフレットがとても見にくかった。
頂点の 伸張	県内の文化芸術の質の向上	委員会・出演者(参加者)で事業プロセスを共有し、ともに創り上げる事業を目指します。	概ね達成 説明会、会議、事前準備(インスタレーション制作)などを通じ、出演者・実施者とコミュニケーションを図った。 企画により、こちらの趣旨・意向・事業のテーマ・コンセプトの理解度にかなりの差があった。	概ね達成 説明会や会議で全ての人に趣旨を理解してもらうのは難しい。今後もしっかりとコミュニケーションを取るように努めてほしい。
		アンケート回収率を高め、次年度以降の事業改善・レベルアップに努めます。	一部達成 アンケートと周遊企画(賞品付クイズ)を一体化させ、回収率の向上を図った。 工夫は施したが、回収の呼びかけの徹底不足等もあり、大幅な回収率アップには繋がらなかった。	一部達成 アンケート回収に対する声掛けが必要では。
	良質な作品の提供	自主企画においては、専門家に参画いただき、地域の良質で上質なアートの提供を目指します。	概ね達成 自主企画においては「質」にこだわり、ステージ・ワークショップともに、その世界の第一線で活躍されている方の企画を実施することができた。(例:しゃんしゃん創作踊り3連覇・我龍天晴、似顔絵世界チャンピオン・宮本氏他) 特に「似顔絵」企画については受付方法の詰めが甘く、希望者が殺到し、クレームに繋がったところもあった。	概ね達成 ワークショップは好評で賑わっていて、楽しく参加し体験できた。 ただ似顔絵は作成可能な限度があり、希望者全員とはいかないので、人数制限とか整理券を出すなど考慮してほしかった。
		公募事業においては、企画資料の提出をもとめるなど、質の向上に向けた取組を行います。	概ね達成 映像・音源・写真等の資料の提出、説明会の開催などを通じ質の担保を図った。 一定のレベルの質は確保できたと思うが、こちらの意図が上手く伝わっていない参加者もあり、もう少し丁寧な説明が必要であったと感じた。	概ね達成 ただの学芸会にならないようにする為、今後資料提出等による確保が必要。

人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	教育機関と連携し、地域で頑張っている子ども達を取り上げた企画を実施することで、次世代の育成を目指します。	達成 学校行事が多い時期に、2つの特色ある取組(皿回し・金管バンド)をしている小学生に出演いただくことができた。また、食コーナーにおいても鳥取商業高校の出店があるなど、これまで以上に教育機関との連携が図れた。さらに教育機関との連携を図るためにも、事業の実施時期について検討する必要がある。	概ね達成 子ども達と一つの文化発展につながったと思う。鑑賞した子ども達が次に自分達も企画参加して輪が広がってほしい。また、参加方法は出演だけでなく展示といった方法であれば時期が重なっても参加しやすいのでは。
	鑑賞者の育成	鑑賞者の文化芸術活動に繋がるようなワークショップを実施し、鑑賞者から活動者へのきっかけとなる機会を提供します。	概ね達成 会場レイアウトの変更により、様々なアートを気軽に体験していただく環境を整えた。また、その内容も専門的なものが多く、きっかけづくりの場としては一定のものが出来たと感じている。委員会として、体験・参加しやすい環境作りを続けていくことが重要である。	概ね達成 会場設備の環境が整い自主的に参加体験し、鑑賞者から一歩前進。今後は次の活動、文化活動へつながる工夫・アピールをしてほしい。
	アートマネージャーの育成	企画のターゲットを明確にし、世代を問わず楽しめる事業を目指します。	概ね達成 他地区に比べて弱点であった「子ども」に向けた企画を意識して実施した。そしてそれが結果としてファミリー層の来場に繋がった。その成果はアンケート集計の年代構成にも現れている。当初はよりターゲットの明確化や仕組みを考えていたが、実施していく中でその部分が薄れていってしまった。	概ね達成 子ども達が参加しやすい企画を意識した事で家族での参加につながった。クイズラリーは子どもには少し難しかった。
	支援者の育成	新しいアートマネージャーを選出し、委員会がバックアップしながらその育成に努めます。	達成 新任AM1名、新任サブAM1名、そして昨年までのAMがサブAMに入った3人体制を敷いた。それぞれの得意な所・苦手な所をAMチーム及び委員会全体でカバーしながら事業を進めることが出来た。コンセプトがはっきりとしていたので、全体的に事業イメージが伝わりやすかった。来年度も分かりやすいコンセプトでイメージの共有化を図ることが大切である。	概ね達成 集客のためにはものづくり体験は一つの呼びもので、子ども達が体験し時間を共有できる質のよいワークショップを取り入れていけるスタッフを育成してほしい。
	総括		71.1%	68.9%

【成果】

- ・前回までの会場に入った時の雰囲気とは違い少しビックリ、観客で賑わって活気があった。
- ・メインステージを展示室に設置、ワークショップと展示をフリースペースに設置され、以前までと違った雰囲気で落ち着いた会場になった。
- ・「音楽喫茶店」は回を重ねて盛会になってきて東部地区事業の目玉になりつつある。今後は若者育成の企画としては全体のレベルアップが必要(入場料を取るのに必要な事項)。

【課題】

- ・ホームページの東部事業の情報が少ない。
- ・クローゼイベントの盛り上がりが無かったように思えた。参加者、スタッフ、観客と一体感の生まれる終わり方ができれば。
- ・早い時間に完売してしまった出店があったのは残念。出店数を増やしては。(地産地消、高校生の発案された商品、スーパーが開発した食品等)

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・いつでもどこでもやっているものづくり体験会ばかりではとリアートの質の向上は望めないと思う。
- ・子ども達が自発的に動き同じ時間を共有し、感じた事を伝え合うふりかえりの時間を持てる様なワークショップが企画できると素敵だと思う。
- ・会場の所々に置いてあった作品はとても素敵でプロセスを経て作られたのであろうと拝見した。経過を目で見る様なパネル、プリント等あればもっと興味を引いたかなと思う。
- ・音楽喫茶の入場料は飲物等と込みにするのも。入場料を見せれば現金を出す手間がなくスムーズに行くのではないだろうか。



県民による第九倉吉公演(県民による第九公演実行委員会)

平成26年11月3日(月・祝) 倉吉未来中心 大ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	ベートーヴェン作曲の交響曲第九番を昭和60年から30年間にわたって公演しており、すでに県民に広く定着しているこの事業をさらに継続、発展させる。	達成 今回も音楽芸術を担う県民が集い、「交響曲第9番」の演奏を県民に提供することにより本県の音楽芸術を継続、発展させることができた。	達成 30周年記念にあたる中部の担当の「第九公演」は、オープニングから合唱曲「大地讃頌」で緊張感のあるステージになった。長い年月継続していく中で新鮮さのある取り組みをみせた。東部、中部、西部と毎年行われ、地域ごとで特徴を生かし、発展してきた「第九」をこれからさらにレベルアップし、県民が関心をもてるよう期待したい。
		県内の音楽専門家による指導により、出演者のレベルの向上をめざして取り組む。	概ね達成 オーケストラ、合唱ともに音楽指導を受けることでレベルが向上し、より充実した演奏ができた。今後の課題は、管楽器の充実をめざすことである。	概ね達成 オーケストラは長時間の練習が充実した演奏に繋がった。「第九」のドイツ語では、まだ徹底されていないところも見受けられたが、今回は高校生も多く参加し、よく頑張っていた。
創造	質の高い文化芸術活動	県出身である若いプロ奏者の出演を依頼し、豊かな音楽性と高い演奏レベルを公演に生かす。	達成 若いプロ奏者の演奏に県民の出演者が刺激を受け、少ない練習時間であったが充実した演奏ができた。	概ね達成 オーケストラ全体の流れでは、アマチュアの県民の練習の成果が発揮され、県外で活躍する県出身の若いアーティストたちと一緒に演奏できたこと、技術や意識の向上が図られたのではないかと。
		合唱団員には経験者を始め、新規の参加もできるように周知する。	概ね達成 中部地区の合唱団、文化施設、公民館などに合唱団員募集要項を送付し周知に努めた。合唱団の練習日に訪問して勧誘を行った結果、新規参加者が増加した。しかし、男声合唱団員の編成に苦労したため、今後は男声合唱団員の募集を工夫したい。	概ね達成 合唱団員の中には高校生参加が多かったということで発展的な試みでよかった。しかし、中部の男声パートが少ない中、東部、西部の協力で多くの男声パートが支えられ、バランスがとれていた。男性の活動者や鑑賞者を増やすのは他の文化芸術の分野で共通した課題である。今後どのような工夫に取り組まれるか期待したい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	マスコミ、報道への情報提供やとりアート中部地区事業の一つとして位置付けていただき、事業の周知を行う。また、入場料を減額することにより、参加しやすい料金を設定する。	達成 新聞社2紙に練習風景の記事を掲載してもらい、民放テレビ局にCMを7日間にわたり放映してもらった。また、入場料を減額したことで観客入場者数の増加につながった。	達成 マスコミへの情報提供と、積極的なアプローチにより広報できたことは評価したいが、アンケートによると公演を知ったのは「知人・友人」からが67.6%と圧倒的に多い。口コミや関係者による集客努力の方が、入場者増に寄与したと思われる。入場料の減額をされたことで観客入場者数が増加につながったのは関係者からすると大変な努力である。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	指導者にベテランと若い世代を配置する。オーケストラ、合唱団員も同様に配慮しながら進める。	達成 第1曲目の指揮者に合唱指揮者である若い世代を起用し、充実した演奏ができた。オーケストラ、合唱団員に若い世代の参加が増加した。	概ね達成 第1曲目の指揮者は、教育者としても指揮者としても研鑽を積んでいる若い世代を起用したことで、高校生たちの参加にもつながったのではないかと。これから次世代育成の為にもしっかりと起用できる人に光を当てていただきたい。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	高校生以下の児童、生徒の入場無料(自由席のみ)とする取組を試み、参加を促す。	概ね達成 高校生以下の入場者が大幅に増加したが、小学生の入場が少なかったことの対策が今後の課題である。	概ね達成 小学生入場者を増やす取り組みも大切だが、アンケートでは20~30代の若い世代の入場者が1割未満(9.7%)と少ない。この世代の入場者増の取り組みも検討されてはどうか。
総括			85.7%	76.2%

【成果】

- ・今回の成果は1曲目の指揮者の小谷弘幸氏を起用したことが大きい。若い人とこれまでつないでこられた県内の音楽家たちが手を組んでしっかりとステージを盛り上げることが出来た。
- ・県内出身の県外で活躍中のアーティストが鳥取県を忘れず帰ってきて今回頑張ってくれたことが大きな力になったので今後の継続に期待したい。
- ・「第九」公演が県民の音楽鑑賞者の間ではほぼ恒例行事との認識が高く定着していると思う。

【課題】

- ・小学生の鑑賞者を増やすには、いきなりではハードルが高く感じる人もいると思われるし、弦楽器を習っている人達にも「第九」のやさしいとこだけでも少しかじってもらえるようなワークショップを開いてみると弦楽器を習う人も増えるかもしれないし小さな鑑賞者も増えるかもしれないと感じた。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・アンケートの中にはステージング(花束の受け渡し)の確認や、最後のアンコール曲などの演出についても配慮してほしいとの意見もあった。
- ・12月の終りごろ家族で「第九」を聴きにいけるような雰囲気がかれからも必要なのではないかと。



第43回鳥取県民短歌大会(鳥取県歌人会)

平成26年11月16日(日) 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント		
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会	
拡大	県民の文化活動支援	広く県民から短歌作品を募集するとともに優秀作品を表彰し、短歌を通して県民文化の向上と短歌愛好者の拡大を図る。	概ね達成 「鳥取県民短歌大会」を開催し、広く県民から短歌を募集した。応募者及び大会参加者は前年より増加した。 「応募短歌作品集」を刊行し、県内図書館等へ配付した。	概ね達成 応募者数400名。90名近い増加。年々減少傾向にあったのが今回反転した。立派な作品集は、今後の部外者の興味、愛好者の向上を期待できるものだった。知事賞の「親友のイニシャル今はただ空へ軽き水素の元素の記号」親友のイニシャルがHで、親友は茶毘に付され水素のように軽くなって空に舞い上がっていった。この光景が目には浮かぶ。優れた作品だと感じた。	
		大会当日、応募作品の合評会を開催し、短歌愛好者の技能向上を図る。	概ね達成 参加者を3分科会に分け、応募短歌合評会を開催した。活発な意見交換がなされた。	概ね達成 楽しく拝見させていただいた。何班かに分かれての合評会は意見交換がしやすく、作者の今後の成長を助けるものだと感じた。作者の心構えで、いかようにも成長できるシステムかと思う。今後とも続けて欲しい。	
	県民への鑑賞機会の拡大	大会の開催案内、ポスターを作成して県内の学校、各種施設に配付し、広報に努める。	概ね達成 「鳥取県民短歌大会」の開催案内、チラシを作成し、県内各所に配付、掲示して広報に努めた。	概ね達成 チラシ、ポスターは「講演会の題目」を大きく表示し広く一般の目に親しみやすい構成となっていた。ただ、見かけなかったとの声を耳にしたので、より一層広報活動に努められることを希望する。	
		機関誌「歌人会報」に大会記事を掲載し、PRする。	概ね達成 機関誌「歌人会報」に大会記事を掲載して広報に努めた。	概ね達成 鳥取県歌人会報の冒頭に記載され、広告の効果は大きかったかと思う。	
	育成	人材育成(指導者、後継者等)	著名講師による講演会を開催し、自己研鑽を図る機会を提供する。	概ね達成 歌人 小池光氏を招いて講演会を開催し、「短歌のおもしろさ」について講演を行った。	達成 歌人「小池 光」さんの講演はまさに短歌の面白さを知ることができた。身近な事例を出しながらわかりやすいように話される90分間はあっという間に過ぎた。現代短歌は「正岡子規」が先駆者ということを再認識した。貴重な時間だった。
			入場無料とし、来場者の増加を図る。	概ね達成 今回から講演会への入場料は無料とした。入場者は前年より増加した。	概ね達成 講演の始まる頃は目算で100人は聴講していたと思う。
子どもたちへの鑑賞機会の提供		小中高校生から短歌作品を募集し、優秀作品を表彰する。	概ね達成 小中学生から短歌を募集し、優秀作品を表彰した。応募者は前年よりも増加した。「作品集」を小中高校に配付した。	概ね達成 作品集には子供たちの作品もあり表彰などがあることで彼らの興味関心にもつながると感じた。参加者数225名は人気が高い数だと思う。ただ、教師の「短歌」に対する情熱の差だろうか、全ての学校参加には届かなかった。	
総括			66.7%	71.4%	

【成果】

・優秀な作品が多かったと思う。また、少人数の班に分かれての合評会は技能向上に資するものだと思うので、続けて欲しい。講演はわかりやすく短歌に親近感を覚えることができた。

【課題】

・受付などがあまりにも身内感が強く、部外者が入っていいものやら少し戸惑った。会場があちこちに離れていたためしばらくウロウロしてしまっただが、お尋ねした方はとても親切にご案内くださった。
・県民短歌賞作品集の編集後記に、「ファンになった人は毎年作品を応募されています」と記されている。まさにこういったファンを若い世代から捕まえていくことが今後の発展につながると思う。その意味で学校教育の場が大切かと思う。各自治体の教育委員会の指導力を期待したい。教師の方に短歌を好きになってもらうように働きかけていただきたい。鳥取県民は気づかれると思うが、平井知事は挨拶のなかに歌を詠まれるように語られる場面がある。歌の心を介される知事に、時には作品集の中の歌を引用していただくことも大切かと思う。皆で口ずさむことが大切。

【その他事業に関する意見、感想など】

・合評会はとても楽しかった。こどもたちの想像力を促す良い文化で、もっと学校などでも取り入れて楽しめるものになるといいなと改めて感じた。
・また、記念講演会は「短歌を好きになるステップ」だと感じた。現代短歌は「正岡子規」から始まることを再確認した。万葉集もいいが自由がないように感じる。その点、現代短歌は自由で、誰でも表現できる世界だと思う。



第41回鳥取県演劇連盟合同公演「倉吉里見物語」(鳥取県演劇連盟)

平成26年11月16日(日) 倉吉未来中心 大ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	地域の歴史財産である「里見」の物語について、里見忠義と八賢士主従の倉吉入封400年の記念の年に舞台作品にする。	<p>達成</p> <p>ドラマリーディングによる演劇を、音楽やバレエ、和太鼓とコラボした大きな規模の公演で、倉吉にちなんだ里見の物語の舞台化を実現。倉吉市の取り組む里見400年記念事業の一つにも位置づけてもらった。</p> <p>過去のとりアート「倉吉ダブルストーリー」では、安房から倉吉入封直後のみ、「八賢伝」では倉吉入封から家臣の殉死直前まで、という一部分を描いていたが、本公演では安房から国替えの沙汰を受けて倉吉に入封、大家老の死や堀村での忠義の活躍と病没、そして家臣の殉死のシーンも誤魔化さずに描いた。里見主従終焉の地である堀村では殉死した家臣は六人塚として伝わり、墓所のある大岳院では八賢士となっている「6」と「8」の数字の違いを、25年後を舞台に、戒名を元にしたフィクションのストーリーで描くなど、里見の物語を一貫的に表現した。</p>	<p>達成</p> <p>地域に眠る多くの小さな歴史を掘り起こした素晴らしい舞台である。入封400年を記念するにふさわしい目標をたて毎年継続した「里見」関係の取り組みの集大成がこの舞台によく現れている。</p> <p>八賢士にまつわる話の冊子やパネル展を行うことでより理解が深まった。</p> <p>地域に埋もれている歴史財産を多くの人に鑑賞して頂き誇りを感じてもらえた。</p> <p>2011年の舞台も鑑賞したが今回の方が規模もできればずっとよかった。</p> <p>記念の年にふさわしい規模の舞台でありドラマリーディングというなじみの薄い形式にも自然と引き込まれていく魅力があった。</p> <p>倉吉と里見八賢士のつながりを知らない人にも分かり易く、感動した。</p>
創造	県民の参画支援	上演に参加する団体だけでなく、地域の主婦らでつくる「関金夢づくり倶楽部」が協力として参画。普段、文化活動者ではない市民に、公演への協力を通じて文化芸術作品の創作現場や制作、裏方の作業に触れてもらう。	<p>概ね達成</p> <p>文化活動者でない「関金夢づくり倶楽部」の方は、仕込み日の炊き出しやケータリング、前売り券の販売協力や当日券の販売業務などの制作業務に積極的に携わってもらうことができたが、逆に幕の吊り込みなどの仕込み作業は、炊き出しと重なったため、体験してもらうことができなかった。</p>	<p>達成</p> <p>地域の活性化を目指す地域の皆さんの惜しみない協力を得て作られた舞台で、裏方さんの心温まる大きな支援を受け止めた。プログラムの中にもスタッフの一員として紹介され、事業主体者の地域の皆さんへの感謝の気持ちが嬉しいほど理解できた。今回だけでなく今後も継続して欲しい。スケールの大きな公演で観客も満足できるものであった。</p>

<p>拡 大</p>	<p>県民への鑑賞機会の拡大</p>	<p>演劇だけの上演ではなく、ドラマリーディングと音楽のコラボ作品とすることで、音楽関係者の本作品への鑑賞拡大を図る。</p>	<p>達成 4ジャンルのコラボで取り組んだ結果、バレエや太鼓のお客、音楽監督を務めた門脇大輔氏のファンなど、普段、県演劇連盟公演(＝演劇)を親にきたことがない人たちにも多数来場してもらえた。逆に普段、音楽やバレエを鑑賞しない演劇鑑賞者にも他のジャンルを鑑賞してもらうことができた。アンケートのコメント詳細を見る限り「感動した」「素晴らしかった」の声が大変多く、コラボは全体としてみれば成功したと考える。</p>	<p>達成 ドラマリーディングを取り入れた演劇で地元出身ミュージシャンを音楽監督に迎え、作品を十分に盛り上げる音楽効果を創り出していた。この作品のための作曲もあり作品鑑賞機会を多くするアピールが十分あった。 4団体のコラボにより連帯感を持ってたと思う。</p>
		<p>単なるチラシやポスターの配布、ネット広報だけにとどまらず、里見関係の事業(里見甲冑行列、里見まつり、里見講演会)などと連携し、アウトリーチでの広報PR活動にも努める。</p>	<p>達成 チラシは文化ホールなどの施設配架や演劇・音楽等公演の挟み込みだけにとどまらず、倉吉市報で市内に全戸配布した。 アウトリーチの広報として、「未来をひらく鳥取学」歴史・文化講座の講師となった脚本家兼出演者が、文化芸術で地域の歴史財産を発掘と題し里見の歴史を生かした地域振興をテーマに講演。「倉吉里見物語」の意義についても説いた。直後にプレイガイドの倉吉未来中心で前売券が次々と売れた。甲冑姿で倉吉市内を練り歩く里見時代行列に出演者が参加。他の出演者やバレエ出演者が沿道の観衆にチラシを配布して公演をPRした。里見まつり会場では来場者全員にチラシを配布したほか、甲冑姿での寸劇の後、ステージ上で公演告知。平岩弓枝氏の里見講演会でもチラシを配布するなど、里見に関心の高い層への広報に取り組んだ。</p>	<p>達成 この作品の舞台創りは(多分)8ヶ月位前からのようだが、里見関係の事業はここ数年前から取り組まれている。「里見」への市民の関心が広まるような関係者の念入りな読みと実践を通して広報がうまくマッチしていたようだ。関係者全員の努力を賞賛したい。 里見関係の事業と連携し幅広い活動が行われ、ホールはほぼ満席であった。パンフレットの広告が多いのは広報活動の熱心さを感じる。 県内のいろいろな場所(中部以外)でポスターがあり広報に努力された結果である。</p>

<p>育成</p>	<p>人材育成 (指導者、 後継者等)</p>	<p>演劇だけの枠にと られず、県中部 の次代を担う文化 活動者の育成とし て、子ども太鼓や 子どもバレエともコ ラボレーションし、 共に作品づくりを 行う。 地域の子もたち に、地域の歴史財 産である里見の物 語をテーマとした 舞台作品に出演し てもらうことで、地 元への誇りを持っ てもらい、将来の 地元文化活動者 の維持・拡大を図 るひとつのきっか けとする。</p>	<p>達成 リトルバレリーナや童子ばやしの子ど もたちと一体的な舞台を創り上げるこ とができた。中でもリトルバレリーナの 出演者は、今までパレエ公演後に泣い たことなどなかったのに涙が出てきて 止まらなかったという。特に珠姫の心 情を表現したバレリーナは、台本を読 みこんで珠姫の心情を表現するのに 努めたと聞く。これまでは興味を持つこ ともなかった里見の物語の演劇の脚 本を読み、作品のテーマや役について 考えるという、通常のパレエでは行わ ない作業を通じて、活動者としての幅 の広がりにもつながったと聞いた。童 子ばやしの子もたちはこし、安房・ 館山での里見シンポでの太鼓演奏な ど、里見にちなんだ活動にも取り組ん でおり、今作品に出演したことで、里見 への関心が高まったという。単なる太 鼓演奏ではなく他ジャンルとのコラボ で大きな作品に関わったことは、子ど もたちの心に大きな足跡を残すことが できたと確信する。一緒にやることが できて良かったですと言ってくれた児 童の笑顔は忘れられない。</p>	<p>達成 開演直後から壮大な子ども太鼓から始ま り、リトルバレリーナが悲哀やお祭りを表 現する場面では衣装を替えるなど素晴ら しい踊りを披露してくれた。子ども太鼓は 「里見」を意識した活動をしていたようで、 今までの取り組みへの思いがバチー打 一打によく現れていたようだ。太鼓やバ レエに取り組んだ子どもたちは地元で眠 る歴史(今回は「里見」)を学習すること により、これからの文化伝統の掘り起こしと 継続に興味を持って役立ててくれるだろ う。子どもたちの努力と、それをうまく支 えてこられた指導者に賞賛の拍手を送り たい。 多くの地元の人の出演により演劇関係 者にも大きな刺激となり、これからの活 動の継続と拡大に大いに期待したい。 多くの子どもが参加し普段関わること のない人たちと共に舞台を経験すること はよい刺激になっている。 倉吉市出身のヴァイオリニストや子ども たちの出演は若い世代の興味をひき関 心を深めてた。 子どもたちはこれからも大きく活躍して欲 しいし指導者の努力を期待したい。</p>
	<p>総括</p>	<p>93. 3%</p>	<p>100%</p>	

【成果】

- ・上演時間の2時間余りがアツという間に過ぎてしまったと感じるように舞台上に吸い込まれた。オリジナルな音楽作品や音楽にマッチした照明など裏方の大きな支えを感じた。
- ・子ども太鼓やリトルバレリーナの団体は個々にも活動成果を披露しているが、このような大きな舞台経験ができることは素晴らしい。各団体の運営は大変だろうが、子どもたちに多くの舞台を経験させ個性を伸ばしながら文化伝統に興味関心を持ち、ふるさとに感謝の気持ちと大切に作る人間に成長させる機会になったと思う。
- ・地元の人材発掘に諸団体の協力が得られ大きな成果があった。
- ・上演中に観客席に降りて演技をし観客との距離を縮める工夫もあり良かった。
- ・演劇団体の日々の取り組みの成果が十分表現された舞台であった。全てにおいてグレードの高い公演であった。

【課題】

- ・開演が6分遅れた。いろいろな事情でそうなっただろうが場内アナウンスでもあればよかった。(時間を守ることは鑑賞者へのエチケット)
- ・(事前によく話し合われたと思うが)2時間余りの上演は長い。休憩がないことを上演前に来場者へアナウンスで周知して欲しかった。(なるべく途中での出入りはなくすることが大切)
- ・未就学児への対応はどうか。アンケートでは子どもの声になり集中できなかったとのこともあるが。
- ・3階席からはせり出しの人物が見にくかった。事前にチェックを。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・会場の1階2階を指定席(3階は自由席)にしてあり長く並ぶこともなく入場できてよかった。
- ・この公演は記念事業ということだが、これで終わってしまうのは大変残念である。毎年とは言わないが何らかの形で継続した取り組みをしていただけたら地域にとって大きな財産になり、鳥取県の文化財産にもなっていくと思うがどうか。
- ・地元の諸団体(今回は演劇、子ども太鼓・バレエ・音楽の4団体)の協力が得られた。この他にも活動する団体があるので多くの人に参加できるような舞台が多くできるよう望む。(この公演はとりアートではないがとりアートの充実と拡大につなげて欲しい。)



ヤングピアニストコンサート2014(鳥取県ピアノ指導者協会)

平成26年11月22日(土) 米子市文化ホール

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	国内のピアノコンクール優勝者をゲストとして招き、プロ級の質の高い音楽を提供します。	達成 特級グランプリ受賞の山崎亮汰さんをゲストに迎えた。その演奏は大変素晴らしく観客も大満足だった。	概ね達成 グランプリ受賞者をゲストに招いての演奏は素晴らしく、子供達はよい刺激を受けたと思う。ただいつもながら観客が少なく残念。関係者からも同じ悩みを聞く。
		出演者は、コンクールの本選、及び全国大会入線の子供達であり、ハイレベルなコンサートを目指します。	概ね達成 出演の子供達はそれぞれに自分の持ち味を發揮し、楽しく演奏したが、中には、コンクールの時のような精度の高い演奏にならない人もいて、本番の難しさを知るなど、良い勉強の機会になったと思う。	概ね達成 子供達の演奏はレベルアップして楽しんで演奏をしている事が伝わってくる。本番という難しさ、満足な演奏にならなかった人も原因等見直し次のステップの為レッスンに頑張ってもらいたい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	ポスター、チラシ、新聞等で広く県民への広報に努めます。	一部達成 新聞に案内文を掲載してもらい、ポスター・チラシで広報に努めたが、動員には結び付かなかった。	一部達成 今回、東部・中部のイベントでチラシを目にする事があった。広報と動員は結びつきにくく、どんなイベントも同じ感じだが、やはり対策を。SNS、1人1人への口コミを根強く等。
		音楽教室へダイレクトメールを送り、観客の動員に努めます。	一部達成 各教室へダイレクトメールを送り、電話でも勧誘に努めたが、他の行事とも重なり、動員増とはならなかった。	一部達成 先生方から生徒さんに「仲間の良い演奏を聞くよいチャンスなので」等の誘いかけをすることも先生の役割では。(すでに言っておられるかもしれないが)
		出演者へのインタビューを取り入れ、和やかなコンサートとなるようにします。	達成 出演者やゲストへのインタビューを行い、客席とステージをつなぐことができたと思う。	達成 前回からの試みで進行がスムーズになり、インタビューも上手に子供達の話を引き出し、その事で観客もホットになり会場が穏やかになった。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	ピアノに情熱を燃やす子供達に、発表の場を提供し、指揮者共々、更なるレベルアップをはかる良い機会となるようにします。	概ね達成 出演者は、他の出演者やゲストからも良い刺激を受け、貴重な発表の場となった。指導者も互いの指導力を導く良い研修の場となった。	概ね達成 出演者席を設置された事で、出演者、先生共々ゆっくり聞くことで、異なる環境で勉強している人達と交流し刺激を受けるよい機会の場となったと思う。
		会場にスタッフを配置し、よりよい鑑賞環境が保てるよう、努力します。	概ね達成 出演者席を客席前方左に設定し、スタッフを配置して、そこからステージに誘導した。出演者関係の頻繁な出入りはなく、比較的落ち着いたホール環境が保てたと思う。ドア係も各ドアで観客の対応にあたった。	達成 毎年批判を受け前年度「要改善事項」であった「出演者、その関係者のマナーの悪さ」は今回改善されて、会場の雰囲気は今までとは違い観客も落ち着いて演奏が楽しめた。今後も子供達に演奏会マナーの大切さを指導していただきたい。

育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	コンクール参加者を含むピアノ学習者へ、招待券を送付したり、学校へポスター・チラシを持参し、子供達へ鑑賞をすすめてもらうようにします。	一部達成 招待券を送付したり、学校へポスター・チラシを持参したりしたが、動員増には結びつかなかった。	一部達成 難しい問題だが、ピアノ教室でレッスンを受けている子供達が進んで会場に足をはこぶ環境づくりなどに取り組んでほしい。
総括		62.5%	62.5%	

【成果】

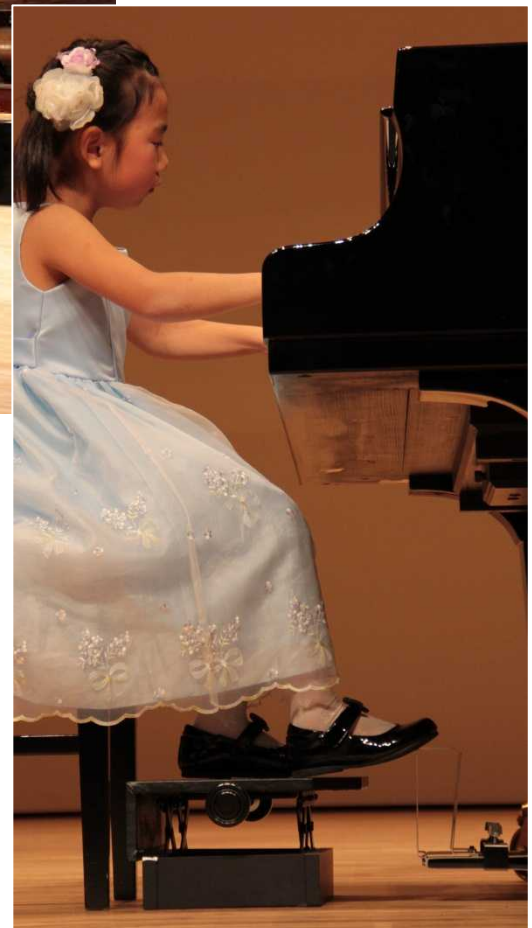
- ・前回までの反省を1つずつ改善され、今回一番の成果は、出演者席を設置され、鑑賞しやすい環境づくりに努められたこと。
- ・アンケートにもはっきり「以前より演奏中客席が静かになり演奏を楽しめた。」と述べられている。本当の演奏会のありかただと思う。

【課題】

- ・県民が気軽に足を運んでもらえる様なコンサートになるよう広報活動に新しい工夫が必要。
- ・内輪ピアノ関係者のみでやっているように感じ、県民への拡大はどうか。
- ・ヤングコンサートの特長、アイデアなど工夫し、一つ一つのきっかけを掴んでほしい。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・演奏中に入場できない人の為にロビーモニターが入っていなかったのは意図してのことだったのだろうか。
- ・演奏中のマナーについて 100%改善されたわけではないが、地道に努力していただき、環境が整えば観客動員の一つのきっかけになるのでは。
- ・県の補助で無料はありがたいが、進んだ取組が必要。現状では後退につながるのでは。関係者の進化を望む。



第19回鳥取県美術家協会作品展(鳥取県美術家協会)

平成26年11月23日(日)～30日(日) 鳥取県立博物館 第1展示室

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業)

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
創造	質の高い文化芸術活動	鳥取県内で高いレベルを有する日本画・洋画の作家による最新の活動の展示を行います。	概ね達成 本会は、本会の規約により、県内の県展等や全国展で受賞歴を有する作家をもって結成されている。したがって、審査や授賞は行わないぶん、自身のテーマを確立し、高め、深めることができる体質を備えている。今展も自身の高いレベルの作品を出品できた。	概ね達成 県内の県展等や全国展で受賞歴を有する作家たちの作品展として一定のレベル以上の作品が集まっており力付前である。自身の作品と他者の作品を比較し合える緊張した空気を感じる展示だった。
		作品展を開催することにより、自己と他者の作品を比較し、会員相互の研鑽を図り、もって質の高い作品の制作、および展示を目指します。	概ね達成 今展は日本画13点、洋画86点、計99点の展示であり、これは会員106名のうちの93%であった。(不出品の7名は、高齢や加療中などの理由による。)今回は、とくに上記の体質を生かした作品が、とくに日本画の出品が増えたり、新入会員の高いレベルの作品が出品され、目標が達成されつつあると感じる。	概ね達成 出品者が93%とは継続している長年の美術家たちの精神的な創作力を感じる。作品展は三地区を回って各三年一回の作品紹介となるが、毎年各地区で開催することができれば会員を含め美術の関心のある方が鑑賞できて県美術展への理解が深まるのではないかと。来場者は多かったようだがアンケート結果からほどのくらの会員が展示会を見に来ているのかが分からず、お互いの刺激となっているのかは判断しづらい。本展で審査や授賞を行わない理由も分かるが、研鑽を図るのなら賞を設けてみるのも一つの手ではないだろうか。
	県民の参画支援	作者名・タイトル・画材をキャプションに記入するなど、県民にとって、鑑賞しやすい展示となるように配慮します。	概ね達成 適切なキャプションを付けることは主催者(本会)の義務であり、マナーであるから当然なことであるが、今回は各項目をカラーで表示するなど、より適切なキャプションになったと考える。また、号数を20～30号に揃えることにより、よりすっきりした展示となり、鑑賞しやすかったと考える。	概ね達成 展示を一望してとでもすっきりしており、一つ一つの作品が大切に展示されている感じがして良かった。作者の作成の思いを感じ取ることができた。
拡大	県民の文化活動支援	キャプションの下部に、作者自身の言葉を「私のひと言」として書き加えることによって、県民の鑑賞活動の際に、関心を高めます。	一部達成 昨年に続いて、ふつうのキャプションに「私のひと言」を付け加えた。鑑賞者のアンケートに「描いた人の思いが伝わってくるのが良い」など好評な面と、「絵に集中する時間がそれだ」「良いのが駄目です。ひと言がよいのです」などの不評も少なくなかった。もともと絵画に言葉は不要とも考えられるので、この「私のひと言」については、本会の検討課題である。	概ね達成 作品名・作者名・画材のみでなく「私のひと言」があることで、鑑賞者へ作者の思いを伝えることができ良かった。モノによっては読みづらいものもあったので表示の仕方を分かりやすくする必要はあると思われる。「私のひと言」が数点記入してないものがあり作成の思いが伝わりやすかった。しかし書きたい人は書き、どうしても書きたくない人は書かないで良いのではないかと。
		ポスターやチラシ、ハガキによる周知のほか、県・報道機関から後援依頼を得ることにより、広く県民への周知を図り、鑑賞の機会の拡大を図ります。	概ね達成 チラシ、ハガキ、案内状等によって、県や市町村のほか、報道機関、画廊、画材店などに配布した。その結果が、入場者数が近年では最高の976人に達した。欲をいえばきりが無いが、この976人のうちの多くは県美協展を理解し、期待している方々の数であったと考える。	概ね達成 案内状やテレビ・ラジオ、情報誌と幅広い広報活動によって多くの人が来場していたようなので現状に満足せず続けて欲しい。新聞雑誌広報による来場者が多かったのはこの作品展が多くの方に知られているからで根強いファンが多いと考える。県民に鑑賞の機会の拡大を図りたいなら運営資金面の事もあろうが、毎年三地区で開催することはできないか。他地区での開催時来場するのは大変ではないか。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	高いレベルの作家 に対して、入会要 請を行います。	達成 県内の美術展のみならず、本年度は中央の画 壇に出品し、高い画歴や実績をもつ作家の入 会が多かった。このことは、本会に刺激を与 え、より会員相互の制作意欲が喚起され、本会 のレベルも向上するし、何よりも指導者や後継 者の人材育成につながるだろう。	概ね達成 高いレベルの作家の入会は美術展に注目が集まり若 い人達の刺激となり、人材育成に成果が出てくるの ではないか。 また高レベルな作家のみでなく今までになく作風の 作家の入会要請も行ってみたいと思う。
		制作する機会の少 ない裸婦のデッサ ンを裸婦研修会と して、県内の東・ 中・西部の三地区 で実施し、会員の 技術向上を図ると ともに、一般の方 にも参加を募りま す。	概ね達成 東、中、西の3ヶ所で開催。裸婦研修会で人体 デッサン力を養うことは、絵画のレベルを向上 させる。今後も本会の事業として継続し、また、 一般の参加者が少なくなかったことは、より県 美協への認識を深め、継承者の育成につなが ると考える。	概ね達成 県内の東・中・西部の3地区でデッサン力上げる取 組みを行い、また一般の参加者もいたということで人 材育成として成果があったのでは。人物画のみでなく 風景画などのデッサンの研修会も行えばさらに一 般の参加者も増えるのではないだろうか。 裸婦の作品が複数あったが、基本であろう裸婦の制 作研修を通して、今回の県美展に影響を与えたのか、 また一般の人が制作研修に参加した結果などが会場 で紹介してあげたいと思う。
		総括	66.7%	66.7%

【成果】

- ・100名近い会員の力作揃いで今後の継続を望む。
- ・歳を問わず、若い方、ご年配の方まで出品されていた。今後も幅広い作品を出品されたい。
- ・地区別に作品がまとめて展示してあり鑑賞しやすかった。(展示の工夫あり)
- ・入場者が多かったのが良かった、沢山の入場者がまた来年のリターン者になっていくことを考えて、次の目標を上
に持って行って欲しい。
- ・一度の展覧会で鑑賞者が多くの作品に触れあえると共に、県内の作家の良い作品発表の場となった。
- ・「私の一言」として制作者のコメントを付けることでより作品への理解を深めることが出来るようになっていた。
- ・幅広い広報活動、デッサンの研修会を行うなど一般の人へのアプローチを積極的に行えた。

【課題】

- ・アンケートの回収率の上昇を行ってほしい。会員の人向けの欄を作ってみるなどしてアンケートに答えやすくして
みるのはいかがでしょうか。
- ・東部・中部・西部の三年に一回の持ち回りだそうだが、毎年三地区で開催できないか。
- ・「私の一言」は鑑賞者に色々な思いを巡らせるには良いアイデアだが、記入無しの作品が数点あり制作過程や
制作動機が不明だったので残念である。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・誰が新入会員なのか、どの人がどのような受賞をしたのかが知りたいと思ったのでパンフレットに多少なりと載せる
のは無理なのか。
- ・県内の美術愛好家が作品を制作し鑑賞者へ鑑賞の機会を与えて頂いて大変ありがたい。このような地道な取り組
みを毎年続けて頂き、絵を描くということがより身近に感じるこのことができるよう、さらなる広がりを期待したい。



第19回鳥取県俳句大会(鳥取県俳句協会)

平成26年11月30日(日) さざんか会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(文芸系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	鳥取県の風土を通して地域の文化アイデンティティの確立と豊かな自然の再発見に努める。	達成 俳句協会賞 10 作品の中に「大山の風のゆたかに青田波」「藻の花や今も水車と暮らす村」「海見えてきて飛びたがる夏帽子」「刈られたる稲田は夜を匂ひけり」「夕立のあがり砂丘の砂匂ふ」「螢狩闇の底より水の音」などが見受けられ、それぞれの俳句に風土が大きく関わっていた。また、これらの作品には自然へ向けられた新しい発見があった。	概ね達成 入選句には郷土の自然や暮らしを詠んだものが多く、読者はその作者の眼差しを通して、地域の自然を再発見したり、ときには共感する。しかし、それが即地域の文化アイデンティティの確立と言えるかどうかは、疑問が残る。何を以て地域の文化アイデンティティというのか？そこが明らかではない。
		毎月、各地域で行われている句会の成果を「鳥取県俳句大会」という、年に一度の大会に作品を応募することにより確認出来、各自の能力を向上することができる。	達成 鳥取県下で活躍されている流派の異なる 17 名による審査において、賞を獲得した人、選に入らなかった人、個性的な作品で選者特選になった人など、悲喜交々であった。各自の実力を確認する上においても大変有意義な大会であった。	達成 所属する流派あるいは結社を超えて、自分の作品が評価されるというのは刺激的であり、反省や意識向上の機会にもなる。参加者にとっては有意義な場となっている。
		大会において優秀作品を表彰する。別途、各選者特選を設けて選者染筆の短冊を贈り、今後の作句の励みにしてもらう。	達成 鳥取県知事賞、鳥取市長賞、鳥取県俳句協会賞などをはじめ、各賞の受賞者は俳句への意欲がさらに高まった様子であった。また、選者特選に贈られる選者染筆の短冊は値打ちがあり、賞とは違う意味で喜ばれ、今後の作句の励みになったようだ。	達成 大人ももちろんだが、応募した子どもたちにとって受賞は大きな励みになる。表彰台に上がった子供たちの緊張や高揚感が伝わってきた。大人の受賞者に欠席が目立ったのは残念である。
創造	質の高い文化芸術活動	作品集を作成して審査結果を公開する。一般の部では作品集を応募者全員に配布する。子ども部では表彰者と応募学校へ配布する。	達成 作品集を作成し、審査結果を公開することにより、各自がそれぞれの作品を鑑賞でき、俳句の領域の広さを確認することができた。	達成 審査結果の公開は当然のことであり、わざわざ目標に掲げることでない。ただし、受賞理由がはっきり多くの人に伝わることには意義がある。作品集は応募者と応募学校だけでなく、図書館や公民館など公の場所にもっと配布してはどうか。

創 造	県民の参画支援	俳句を募集することにより、大会に参加できない高齢者の方や児童生徒が参加しやすいようにする。 当日は席題句を設けて、初心者をはじめ多くの方に参加してもらい、俳句の楽しさ、競う楽しさを体感してもらう。	達成 俳句を事前に募集したことにより、大会に参加できない一般の方や多くの児童生徒からの投句があった。 また、当日は席題句が設けてあったことから、大会のみに参加された方もあり、俳句の楽しさを体感してもらえた。	達成 事前募集は、県民の誰もが参加できる機会を提供したことになり、さらなる拡大を期待したい。また、当日句(席題句)にも、たくさんの方が参加して俳句を楽しんでいた。
		当日は俳句指導コーナーを設けて、初心者の方や俳句がうまくまとめられない方への指導を行う。	達成 当日は俳句指導コーナーを設けて、初心者の方や俳句がうまくまとめられない方への指導を行った。アンケートの中で、そのことが良かった点に採り上げてあった。	概ね達成 確かにアンケートの中で評価されているが、初心者の参加数はそれほど多くはなかったようだ。本来は、このコーナーが充実してこそ、底辺の拡張に有意義である。
		新しく俳句を始められたい方へは、それぞれの句会などを紹介するコーナーを設ける。	未達成 新しく俳句を始められたい方へ、各句会などを紹介するコーナーを設けて対応したが、ほとんどの方がすでに句会に所属されていたこともあり、活用されない結果となった。	一部達成 結果的には余り効果がなかったということだが、常に何か試みを行うという積極的姿勢は、評価したい。
拡 大	県民の文化活動支援	俳句大会に参加することにより、多種多様な作品を目にすることが出来、互いの研鑽の場として個々の実力が発揮できる。 また、初心者の方へも興味を持ってもらえるよう努める。	概ね達成 俳句大会に参加することにより、また作品集を通して多種多様な作品を目にすることが出来、互いの研鑽の場として刺激となった。 ただ、残念なことに初心者の参加が少なかったように思う。 初心者の方が俳句を始められる場合、ネットで俳句に親しまれるか、あるいは友人などに誘われて句会へ出向かれるので、今後、興味を持って参加してもらえるような企画の必要性を感じた。	概ね達成 大会参加者の方達の多くが、積極的に言葉を交わしたり、活発に意見交換をしたりする光景が見られた。互いの研鑽の場になっている。 初心者の参加が少ないというのは、俳句に限らず短歌でも同じで、思い切った発想転換や取り組みが必要なのだと思う。難しいとは思いますが、新しい企画を期待したい。
	県民への鑑賞機会の拡大	広く県民へ周知を図るために、世話役などを通して各句会へ呼びかけて、広報に努める。 俳句大会の開催を鳥取県文化団体連合会を通して広報する。	概ね達成 広報活動として、県の文化団体連合会をはじめ県下にある 60 の句会へ世話役を通して全員に配布し広報に努めた。 また、地元の新日本海新聞社など数社に俳句大会への取材を依頼する文章を持参し、県民の目に留まるための積極的な PR 活動に努めた。 その結果、朝日新聞社が 12 月 2 日付けの紙面で俳句大会の様相を採り上げてあったので、一応の成果を見た。	概ね達成 昨年から比べると、積極的な広報活動が行われた。しかし、何を PR したいのかが伝わっていない。方法と内容の再検討が必要。 次回は、事後報告の新聞記事だけでなく、事前予告の記事も依頼したらどうか。

育 成	人材育成 (指導者、 後継者 等)	地域の公民館活動や各句会を通して、日頃から新人の発掘や指導者などの育成に努めているので、大会においての清記や披講がその実践の場となるように努める。	達成 今大会は過去の経験者をチーフに据え、大会の運営は初めてという方々へ参加要請し、大会という生の現場の緊張感やその場の対応の仕方など、実践の場として体験してもらった。	達成 未経験者に大会運営に加わってもらうことにより、運営のノウハウを実践的に学ぶ、後継者育成のまたとない機会となった。長く大会運営を続けるためには、有意義な方法である。
		今年では会長と理事3名が小学校(4校)へ出向き、俳句作りと選句などを通して俳句指導を行った。	達成 今回、俳句指導を行った小学校からの応募があり、各賞や選者特選にその学校の名が載っていたことで、ある程度の成果があったと思う。	概ね達成 作品集の巻末に、学校別応募者数一覧が掲載されている。小学校 17校、中学校7校。応募者は小学校513名、中学校380名であった。合わせて893句もの応募があったということは、大いに評価できる。とはいえ、応募校の分布が東部と西部に集中しており、中部はわずか2校と少ないのが気になる。
		また会長は年間を通して常時、八頭郡内の小学校(5校)の俳句指導を行っている。	達成 会長が年間を通して俳句指導を行った学校は、知事賞や教育長賞をはじめ、各賞において多くの生徒が受賞し、独走を許す結果となった。これは俳句指導の成果によるものと確信している。	概ね達成 指導を行った学校の児童生徒に受賞者が多いというのは、俳句指導の成果といえるが、一方で、指導を受けられなかった児童生徒たちとの間の不公平感の是正が今後の課題。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供	各学校を通して県下の小・中・高の児童生徒に呼びかけ、俳句作品を大会に応募してもらおう。 審査により優秀作品を俳句大会に於いて表彰する。 優秀作品集を作成し、本人と応募のあった全学校に送付して、児童生徒に鑑賞してもらおう。	達成 小、中学校合わせて893句の応募があり、表彰式において子どもたちが生き生きしていた(アンケートより)ことが何よりの成果であった。また、子どもたちに行ったアンケートで、俳句を作ることは「楽しかった」の回答が52%。「いろいろ学んだ」が26%。「今後も俳句を続けますか」が74%という結果であったことに、俳句大会開催の意義を改めて感じている。	達成 893句もの応募があったということは、日頃のアウトリーチ活動の成果と言える。 作品集に載っている小・中学生の俳句は、どれも瑞々しい感性と、俳句を作る楽しさが伝わってくる。俳句人口の裾野拡大のためにも鑑賞機会を増やしてほしい。
	総括	87. 2%	79. 5%	

【成果】

- ・昨年強く指摘された表彰式での段取りの悪さは、今年はかなりの改善が見られた。段取りだけでなく、評価報告書で指摘された事項に関してはどれも工夫や改善の跡が見られ、主催者の努力に感謝したい。
- ・大会の進行と内容、及び撰者の受賞作品の解説は、初心者でも十分に楽しめる充実した大会である。
- ・子供たちに作句と鑑賞の機会を積極的に提供している。その地道な活動は貴重である。
- ・県内にあるたくさんの句会の方達の、刺激的で楽しい交流の場となっている。
- ・アンケートの回収率が高い。満足度や入場者数も目標を上回った。

【課題】

- ・初心者でも十分に楽しめる大会であるのに、一般参加者があまりに少ないのが残念。これは毎年指摘されていることではあるが、俳句に限ったことではなく、文芸全般の問題でもある。どうしたら、もっと多くの世代に共感してもらえるのか、ジャンルを超えて模索する必要があるのでは。
- ・ホームページを開設し、初心者専用の俳句指導を行ってはどうか。そこで実力を付け、徐々に俳句大会参加にまで誘導できると良いのでは。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・会長及び理事の方々の労を惜しまない活動が、そのまま成果として現れている。



第36回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)

平成26年12月10日(水)～14(日)倉吉博物館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	日本人の文化に関する多様性の進化に伴い、伝統的な日本文化への関心が薄まる中、書文化の復興・再発見につながる現代人にとって魅力ある展覧会の開催により、後世へと継承していくべく努める。	一部達成 この項目は、設定目標が高く、加えて多くの鑑賞者に発言していく必要がある。鑑賞者の数は目標を大きく超えており、まずまずの成果であるが、書本来の魅力をどこまで展覧会に込められたかはまだまだという感もある。	概ね達成 初日はたくさんの人で賑わい、書文化に興味を持っていただく工夫がなされていた。しかしアンケートでは来場者の半数以上が出奔者との関わりのある人ということで、新しい層を呼び込む工夫も必要
		出品者のすべてが県民である会員による展覧会とし、作品制作によって切磋琢磨する中で、我が国でもトップレベルの鳥取書道の確立を目指す。	概ね達成 この項目は、設定目標が高く、加えて多くの鑑賞者に発言していく必要がある。鑑賞者の数は目標を大きく超えており、まずまずの成果であるが、書本来の魅力をどこまで展覧会に込められたかはまだまだという感もある。	概ね達成 「我が国トップレベルの」という点は、設定目標としては高すぎるように感じるがどの作品も素晴らしく見ごたえがあり、素人目にも書に対する意気込みが感じられた
	鳥取の文化アイデンティティの確立	役員による特別展示「童謡・唱歌を書く」を併催し、童謡・唱歌のふるさと鳥取との文化コラボレーションを図る。	達成 役員33名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく詠みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選ばれた方々の大きな理由となっている。また、オープニングセレモニーの混成合唱団による童謡・唱歌の合唱も好評を博した。	達成 アンケートの評価も高く意欲的な作品展示、更にオープニングの合唱とのコラボと、書道鑑賞の裾野を広げるという目標達成に努力が感じられる。 「県民への書道鑑賞への拡大」の一つと重なっているため、どちらかの項目は不要。
創造	質の高い文化芸術活動	約700名の会員の中から、150人を選抜し、展覧会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	概ね達成 会員151(顧問1名を含む)による選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議長賞、県教育長賞を各機関からいけがき、出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が課題。 また、役員と一般会員の作品に差がかなりあるとの指摘もあり、一層のレベルアップが急がれる。	概ね達成 知事賞を設け質の高さを競い合うのは大切であるが作者のコメントが作品の樹にあるとさらに良かった。初日には説明がありとても良かったが、ほかの日にそのような説明があること、さらに興味深くなる。自己評価にあるような役員と会員の差は素人の来場者にはわかりにくい。また後一步及ばなかった会員のコーナーなど鑑賞会員のモチベーションアップを図るのも一案ではないか。
		オープニングに、合唱団をゲストとして招き、唱歌を合唱していただくことによって、特別展示「童謡・唱歌を書く」とのコラボレーションを図る。	達成 オープニングセレモニーに、混声合唱団による童謡・唱歌の合唱も取り入れ、音楽とともに開会した。 開会式参加者に大変好評であった。	達成 コンサートは好評で特別展示の内容とリンクしすばらしい企画だと思う。会場内で童謡・唱歌のBGMをながしてみるのは一案。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	「童謡・唱歌を書く」の特別展示により、ややもすれば難しいイメージのある書道について、読みやすく、親しみやすい作品を鑑賞していただくことで、楽しんでいただく。	達成 役員33名による特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく詠みやすいことから鑑賞者の反応は良く、アンケートで満足、大変満足を選ばれた方々の大きな理由となっている。また、オープニングセレモニーの混成合唱団による童謡・唱歌の合唱も好評を博した。	達成 旧い文体のものはその意味を理解できる人も少ないと思われる。親しみやすいという言葉がどの年代どのよう親しみを与えたかをアンケートなどで確認をお願いしたい。童謡、歌唱の展示は多くの方へ理解興味をひくものになったと思われる。
		新聞広告をはじめ、新聞記事掲載の働きかけ及びポスター・チラシ・DM・駅への立て看板によって、広く広報する。	概ね達成 新聞広告をはじめ、市内に立て看板を設置、また作品の写真入りチラシを県内各文化施設に配架。直前の新聞記事掲載とともに、高校の事業にも鑑賞を取り入れていただき、例年集客に苦勞する倉吉地区の鑑賞者の増大を達成した(アンケート回答者の5割近くが初めて鑑賞)。	概ね達成 立て看板はすばらしく、印象的なものだった。しかし他地区ではチラシなど見ることもなく評価担当でなければ気がつかず行くこともなかったかもしれない。様々な手法で取り組まれ初めての方の来場にはつながっているが来場者数そのものはH24年度をしたまわっているのは残念。

拡大	県民への鑑賞機会の拡大	受付に出品者を中心に作品を説明できる会員を常時2名以上配置し、鑑賞者の鑑賞の手助けを行う。	概ね達成 2展示室にそれぞれ受付を設置し、会員(出品者)が中心)2名以上が受け付け業務を担当。	概ね達成 初日には指導者の説明があったが、ほかの日に受付の方が会員かどうか分からず鑑賞の手助けにはならなかった。受付業務以外もう一步踏み込んだ説明があればよかったと思う。鑑賞の手助けがあることを受付で鑑賞者に伝えてほしい。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	約700名の会員の中から、150人を選抜し、展示会の質の確保を図るとともに、知事賞他の賞を設け、競い合う中で、書道技術の向上を目指す。	概ね達成 会員151(顧問1名を含む)による選抜展として、ある程度の質の確保は図ることができた。知事賞、県議会議員賞、県教育長賞を各機関からいけた。出品者のモチベーションアップは図れたものと思われる。賞対象外の無鑑査出品者のモチベーション維持が課題。	概ね達成 指導の先生、出展者の方々の思いが伝わる展示会であったが、普段書とは縁ない方、若い世代に広め育成していくような工夫が必要。
		図録を発行することで、記録していくとともに、出品者の歴史に残るというプレッシャーから作品制作への高いモチベーションにつなげ、一方で、会員及び書愛好者の書上達への縁(よすが)とする。	概ね達成 図録を発行。どこまで、モチベーションアップに繋がったのかは、少々図りづらいところ。会員諸氏が今後の作品作りに当図録を参考にされることを期待。	概ね達成 大変立派なもので今後の会員の参考になり、育成もつなげるであろう。それがどのように出品者に影響するかが今後の課題。しかし一般の来場者にはどこにあったのかもわからなかったことが残念である。
総括			73.3%	76.7%

【成果】

- ・質の高い展示はこれからの作品制作に参考になるものであった。
- ・H24年度はアンケートの回収率の低さを指摘されたが、声かけやアンケート記入コーナーなどわかりやすく回収率もアップ。成果を挙げられている。
- ・事業者の思いが強く感じられ、季節、会場ともに疲れた精神を癒す書文化の祭展であった。

【課題】

- ・書は敷居の高いものという一般人の思いを払拭する童謡歌の特別展の評価が高いが、思い違いでなければ昨年西部地区で拝見した時もそれは同じように特別展として展示されていたような記憶がある。それだけ旧字体のものにはわかりにくさが伴うと思われるので、簡単でも常に鑑賞の手助けをしてくださる方を置くなど工夫が必要。
- ・また出展者の身内だけでなく来場者があることを意識し受付にも配慮が必要。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・関係者の雑音がいかがなものか。
- ・最近では書道ガールズなど若い世代が書に感心を持ち新しい分野を切り開いているが、まだまだ年齢層の高い分野に感じられる。
- ・特別展示をいつものもので繰り返さず若年層をよびこめる企画に期待したい。
- ・初日関係者が多かったためか駐車場に困った。初日だけでも駐車場整備の必要性を感じた。おかげでコンサートは聴けずじまい、長い開幕式が余計に長く感じた。
- ・プログラムも開幕式を前にしてコンサートでオープンにしても良かったのでは。



吉月をどり(鳥取県日本舞踊連合会)

平成26年11月30日(日) 鳥取市民会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	小中高生に古典舞踊の発表の場を設けるとともに、育成機会の提供を図ります。	達成 小中高生が古典舞踊を研鑽し充分勉強でき発表できた。(育成事業)	達成 習い始めたと思われる子どもから、かなり練習を積んでいると思われる人までの出演があり、伝統芸能継承の努力がうかがわれる。
		従来 of 古典舞踊に加え、新曲(黛まどか作詞)による創作舞踊と、古典曲を新しい感覚での振付等で親しみやすい日本舞踊を目指します。	達成 現代語による音曲、古典曲を難局な歌詞を考えず見て楽しめる振付、好評を得る。(振付は外部、内部の指導者)に依頼。指導者による(新内、長唄、民謡、義太夫)と各々ジャンルの違う曲で高度な作品を提供できた。	概ね達成 童謡、古典とバラエティーに富んだ曲により、舞踊を発表して楽しめるものだった。
創造	質の高い文化芸術活動	日本舞踊入門のためのワークショップを行い、県民が文化芸術に触れる機会を提供します。	達成 振りの解釈を具体的に踊りながら示し大変好評を得た。実施者の認識と鑑賞者に大差があり、時間を取り解説するが双方の距離を縮める必要性を改めて認識。今後に生かしたい。	概ね達成 ワークショップの実施や、一部演技で、司会者の解説や見所アナウンスなど、努力は認められるが、全体として不十分な感じを受けた。
		障がい者の方の為の席を設けたり、高齢者の方の為に状況に応じて開場時間を早くするなど、鑑賞者に対する配慮を行います。また、そのための席の表示等、鑑賞者の方が居心地良い鑑賞機会となるよう、分かり易い掲示に努めます。	達成 開場を待たれる高齢者の為開場時間を早める。私語慎む為のブラカード表示、公演中の出入をストップしてもらう席を設ける、係を置く等工夫する。長時間講演の為にも茶道連合の方による茶席を設け、大好評を得た。	概ね達成 障がい者席の設置など、鑑賞者への配慮がなされていたのは評価できる。場内の私語やざわつきなどへの対策には引き続き取り組んでほしい。
拡大	県民への鑑賞機会の拡大	公演時間が長い為、くつろぎのための茶席を設け、他分野の方への鑑賞機会の拡大に努めます。(協力:鳥取茶道連合会)		
		人材の育成に努めます。	達成 育成事業で充分育ちつつあると思っている。	達成 出演者の顔ぶれなどをみても後継者が育っているのは見受けられたが、日常的な活動の取り組みなども見る必要がある。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	鳥取市文化団体協議会主催の出前講座に講師として参加している小学校2校(湖山小・面影小)に参加、鑑賞を促します。	概ね達成 出前講座の成果として小学校、高校の教師が鑑賞者として参加、又高校生の参加も有った。	達成 小学生を連れた親子など、家族で鑑賞している人もかなりいた。鑑賞の機会が増えることはいいことだ。
	子どもたちへの鑑賞機会の提供			
総括			94.4%	83.3%

【成果】

・普段の生活の中で、和服や日本舞踊に接する機会はめっきり減っている。その意味で、関係者や団体の努力で毎年発表の場を設けておられるのは大切であり、敬意を表したい。出演者も幼児から年配者、学童保育教室生からベテランまで幅広く、曲も踊りも親しみやすいもの、古典・演技力を要するものなど変化があつて楽しめた。多分、出演者の家族と思われる家族連れが客席から一生懸命拍手を送っている姿はほほえましかった。長時間の運営など、運営側は大変だと思われるがぜひ継続開催をお願いしたい。茶席設置も良かった。

【課題】

・幼児・園児の遊戯風の演技から順に、中学・高校生、大人の熟練者とプログラムが進んでわかりやすかったが、淡々と進行が行われ、客席と舞台の交流など、盛り上がる場面などが入るともっと場内の一体感が出ると思う。
・全体に、演出不足でほとんど同じような舞台配置で進行されており、日舞のすばらしさをつたえるには物足りないと思われた。1部、2部に分け1部は子どもたちに司会をさせるとか、師範クラスの人々の演技は解説をつけるなど、見せる工夫があればいいと思う。

【その他事業に関する意見、感想など】

・まず、主催者挨拶がなかったのはまずかった。不測の事態だったのだろうが、代理でもだれかがあいさつをすべきで、アナウンスのみのしまらない開幕となったのは残念。踊りで使われる曲が、録音状態が悪く雑音の入ったものが複数あり、客席で聞いていてとても耳障りだった。少なくとも発表に使うのであれば、きちんとしたものを用意すべきだろう。



第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014メイン事業

創作ミュージカル公演「アオイ」(とりアートミュージカル公演実行委員会)

平成27年2月21日(土)・22日(日) 米子市公会堂

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	時代を超えて共感できる、普遍的なテーマを設定することで、誰でも親しめる事業を目指します。	達成 「宝物」をテーマに全国から原案を募集し、優秀賞を受賞した作品を基に大人から子供まで楽しんでいただけるタイムスリップミュージカル作品が完成した。	達成 ふるさと、親子の絆というテーマは分かりやすく目標は達成。ストーリーは分かりやすい反面、ありがちな展開になっていて、独自性が感じられなかったのが残念。
		多様なジャンルのアートを盛り込んだ内容とすることで、幅広い層の来場を目指します。	概ね達成 ミュージカルなので、芝居、歌、ダンスと3つの要素を盛り込んだ総合芸術作品ができ、幅広い年齢層のお客様にお越しいただいたが、集客の面では苦戦した。	一部達成 ミュージカルであるため、多様なジャンルのアートを融合していたが、アンケートによると、来場者は中高年層が多く、若年層は少ないため、幅広い年齢層の来場に結び付いたとは言いきれない。鑑賞機会拡大のため2日間公演は良かったが、集客数はメイン事業としては寂しい結果となった。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	障がい者や高齢者、乳幼児のいらっしゃる方でも気軽に鑑賞できる環境づくりに努めます。	一部達成 車いす席は指定席とし、確保したが、入場年齢制限は行わなかったため、託児所は設けなかった。	一部達成 子どもの時から舞台を鑑賞することは大切で年齢制限を行わなかったことも理解できるのだが、上演中の子どもの泣き声が気になった。幼児連れの観客にゆっくり鑑賞してもらうためにも託児室を用意したほうが親切だったのではないかな。
		各種メディアやウェブを活用した情報発信に努めます。	達成 新聞、テレビ、ラジオやHP、ブログで最大限広報に努めた。併せて、演出家、主演と共にメディア回りをを行い、パブリシティや取材も10本近くあった。	達成 情報発信に努めるという目標は達成である。しかし広報の最大の目的は集客。アンケートの鑑賞者の声にもPR不足を指摘するものがあった。来場者数をみると情報発信が奏功したとは言いがたい。チラシは「アオイ」の文字だけが目立ち、よく見ないと「メイン事業のミュージカル」であるのが分かりにくいという声もあった。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	県内の文化団体と積極的に連携(出演者の相互交流など)します。	概ね達成 吹奏楽連盟、ミュージカル連盟の協力の基、バンドのマネジメントや運営を共に行った。	達成 会場係なども県ミュージカル連盟加盟団体のメンバーなどが行っており、目標は達成といえる。
		出演者に対してオーディションを行う等質の高い事業となるよう工夫を行います。	達成 メインの大人キャストと子役はオーディションで選抜した。	達成 オーディションによる出演者の選抜という目標は達成している。子役のダンスもかわいく印象的であった。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	出演者等にワークショップ等を行い、質の高い事業となるよう工夫を行います。	達成 オーディションを開催する前に、歌、ダンス、芝居のワークショップを行い、ミュージカルにトライしやすい環境を提供した。	達成 ワークショップがオーディション前に開催され、オーディションがレベルの高いものになっていた。オーディション参加者が少ないのは残念と感じた。
	県民ニーズの把握	アンケートを取る等、ニーズの把握に努めます。	達成 入場者にアンケートを行い、65%の回収率だった。	達成 回収率の高さは大いに評価し達成としたが、入場者アンケートは作品に対する感想や意見を求めるもので、県民のニーズを把握するものではない。
	良質な作品の提供	専門家の協力を得るなどし、高質の事業を実施することに挑みます。	達成 演出の西川信廣氏を筆頭に脚本、作曲、歌唱指導、舞台監督は一流のプロの協力を得、地元スタッフとコラボレートすることにより、クオリティの高い作品を作ることができた。なお、演出、舞台監督には、約1か月米子に滞在していただき。週六日ペースで稽古を行った。	概ね達成 プロの演出により、質の担保が図られていた。また、専門ダンサーによるダンスは作品を引き締めていた。皆さんが一生懸命やっていることは伝わったが、新しさがなかった。出演者アンケートをみると、演出家ら県外のプロのおかげでまとまったように感じた。週6日の稽古の努力は評価したい。
人材育成	活動者（指導者、後継者、担い手）の育成	活動者等を育成するための支援制度（ワークショップ）を設けます。	一部達成 演出の西川氏を講師に迎え、指導者向けのワークショップを開催した。	概ね達成 指導者向けワークショップが活動者育成に直結したかといえば効果に疑問は残るが、ワークショップを開催されたことは事実で、ひとつの成果であり、概ね達成。
		広報に精通し、効率的にPRすることができる人材を育てます。	達成 専任の広報担当のプロデューサーを配置し、広告とパブリシティのパートナー交渉などを行い、高い費用対効果を見込むことができた。	一部達成 来場者数は目標の37.5%にとどまっており、2回公演の合計で600人台というのはメイン事業として少ない。残念ながら広報の効果が来場者数に現れていない。メイン事業なのでもう少し早く広報を開始しても良かったのではないかと。
	鑑賞者の育成	幼児期における鑑賞機会の提供など、若年層の鑑賞者を増やします。	概ね達成 マナーの面での一抹の不安はあったが、作品の内容からあえて未就学児童の入場制限は行わず、誰でも入場できるようにした。	一部達成 アンケートによると、幼児を含む19歳以下の入場者率は、7%以下。20代を含めても約16%であり、目標である「若年層の鑑賞者を増やした」とはいえない。
	アートマネージャーの育成	事業の企画・運営・推進が出来る人材の発掘・育成に努めます。	未達成 各所との調整によるストレスと疲労感だけが残った感はある。	未達成 メイン事業はアートマネージャーが力を発揮する場であり、事業が大きすぎて育成にはなじまない。ゆえにストレスと疲労につながり育成できなかったのではないかと。

人材育成	技術者の育成	専門家との交流を通し、技術力の向上に努めます。	概ね達成 専任のテクニカルプロデューサーを配置し、舞台、照明、音響と綿密な打ち合わせを行い、クオリティアップに努めた。	概ね達成 舞台監督も演出家に連なるプロであり、転換などのきっかけは完ぺき。演出家や舞台監督など素晴らしい専門家を招聘し交流出来たのは大きな成果。勉強のために多くの若者がそれらの助手として関わることができたなら今後の育成につながると思う。
総括			73.8%	66.7%

【成果】

- ・一般県民が出演するミュージカルとしては、質の高いものに仕上がっていた。演出家など東京のプロによる力が大きいですが、一般県民もよく頑張っていた。おそらく直前での役者のやむを得ない交代(新聞販売店主役の金田氏が出演しておらず、別の出演者がその役も兼ねていた)があったようだが、それもこなして舞台を成功させた。
- ・開演前の2階観客に対する上演途中退場出口の案内や、本番中に暗くなるそれら出入口階段へのソーラー充電式ミニランタンの設置(足元明かりの確保)など、随所に観客に対する配慮が行き届いていた。
- ・音楽の生演奏の曲は、今後とリアート地区事業などで演奏できるようにしたい考えのようだ。今公演で得たものを何らかの形で県内に残すという考えは良い。
- ・メイン事業についての広報を、前年度より目にする機会が多かった。前年度事業者よりも広報に努められたのは顕著である。
- ・アンケート回収率、観客満足度とも目標数値を上回っている。特にアンケート回収率の高さは運営者の努力の賜物であろう。
- ・中央の第一線で活躍するプロを招き、その仕事を肌で感じる事ができたのは、地元関係者にとって大きな財産となったのでは。

【課題】

- ・約2500万円の県費を投じる事業で、2回公演合わせて675人の集客は少ない。
- ・チラシに記載の「鳥取県発の」はいいが「鳥取県『初』の」ミュージカルというのはいただけない。発ではあるが初ではない。ミュージカル劇団ゆめをはじめとして、鹿野、湯梨浜、日野、日南などの町民ミュージカルはすでに何年にもわたって活動している。(これに気付かれたのか、後半の広報では「発」を前面に打ち出されていたが)。チラシの制作にあたっては読む人に誤解を与えないよう、十分注意を払うべき。
- ・当初提出のアンケートの回収枚数は444枚だったが、「複数回答ではない設問」(性別など)の回答数を数えると、無回答を足しても444にならないものが多いなど不備があり再提出を求めた。鑑賞者の声のまとめの提出にも1カ月以上かかっていた。公演後の事務作業は大変だが、それらの質の向上にも取り組んでほしい。
- ・これだけのお金を使ってプロを招聘して作れば、今公演のような舞台作品は創ることは可能。これを地元の人たちの手によってできるようにするにはどうすればいいのか。規模を縮小して来年、再来年(有料・自主催事でも)と実施するくらいの取り組みでないと今回の財産は消滅してしまう。今後の継続した活動にどう活かされるかが課題。
- ・多様な広報努力の割りに集客が伸びなかったのは、広報や情報発信のあり方を再考する必要がある。幅広い年代への来場を目指した反面、露出度はあってもターゲットを絞った広報とはなっていなかったのではないかと。

【その他事業に関する意見、感想など】

- ・歌を増やして、ストーリーの展開、登場人物の「喜・悲しみ・迷い等」を、もっとメロディーで美しく表現し、伝えて欲しいと思う。
- ・ダンスはJAMのダンサーのクオリティに助けられた面もあった。ストーリーは期待が大きかったためか、大きな感動もなく正直、少し残念であった。(脚本の問題)
- ・メイン事業については、昨年度から、いわゆる実行委員会的な主催団体が事業を行っているが、主催者は年度ごとに異なる団体、ジャンルであり、事業評価を行っても、直接次年度に成果を反映させることが困難である。2500万円もの予算の事業として、これで本当にいいのか。今のシステムは単年度の打ち上げ花火となりやすい。そうならないためにも、とりアート全体としてメイン事業のあり方を再度検討してはどうか。(すでに動き出している 2015 年度、準備を進めている 2016 年度は仕方ないが)
- ・閉幕の後、直ちに、客席の「避難誘導灯」を点灯すべきでは？
- ・分かりやすいストーリーで年齢を問わず楽しめる作品ではあったが、もう少し鑑賞者に多様な受け止め方が出来る余地があると良かったと思う。(脚本の問題)



IV 専門家評価

第12回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2014メイン事業

創作ミュージカル『アオイ』

平成27年2月21日、22日（日） 米子市公会堂

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師 筒井 宏樹

1. はじめに

「創作ミュージカル『アオイ』（以下、『アオイ』）は、地元の活動者を中心とした出演者構成による新作の創作ミュージカルで、「とりアートミュージカル公演実行委員会」によって実施された事業である。本事業の位置付けである「とりアートメイン事業」は、文字通り「とりアート」全体のメインイベントであるが、「とりアート」開始から10年が経過したことを契機に、1000名を超える鳥取県民からのアンケートに基づき、これまでの成果と課題を検証し、県民のニーズがより反映されるよう再スタートとなった。本事業はその2回目となる。

2. 基本方針に基づく評価

(1) 企画意図

本事業は、既存の作品ではなく、一般公募によって選ばれた原案「トレジャー☆ピクチャー」をもとにゼロから創り上げた「創作ミュージカル」という点に特に独自性を持つ。また、メイン事業企画提案書によれば、「ミュージカル」という選定理由は、県民からの調査結果のうち鑑賞希望の高いジャンルである「音楽」「演劇」「舞踊」を組み合わせた総合芸術であるからというもので、県民のニーズを反映しようという意図が感じられる。

「とりアートのメイン事業として創作ミュージカルの制作・上演を行うのはこの『アオイ』が初の試み」とあるが¹、確かにとりアートのメイン事業として創作ミュージカルの制作・上演が行われるのはこの『アオイ』が初めてであり、県民のニーズを踏まえ、新しいものに挑戦しようとする姿勢は評価されるべきである。他方で、住民主導・参加のミュージカルは全国的に活発化しているという背景があり、鳥取県内においても鹿野町のふるさとミュージカルをはじめ、湯梨浜町、日南町、日野町の町民ミュージカルなど、すでに鳥取県は、住民主導のミュージカルという点においては一定の蓄積のある土壌ともいえる。ただ、『アオイ』は、確かに出演者が全て鳥取県内在住の一般県民であることが特徴のひとつであるが、一方で制作スタッフに文学座の演出家・西川信廣、同じく文学座の脚本家・瀬戸口郁（かおる）をはじめ、本格的なスタッフを交えることで、高い作品完成度を目標とされており、その点において、「裾野の拡大」だけでなく、「頂点の伸長」をもたらすものであり、通常の住民主導のミュージカルとは異なった方向性を目指した企画であると言える。こうしたメイン事業としてふさわしい企画選定における配慮は、評価されるべきであると考えられる。

評価の分かれるところは、今回の作品のテーマそのものが鳥取県と直接関係あるわけではないという点だろう。従来のメイン事業では、作品のテーマそのものが、鳥取県と関係付けられたものが多かった。例えば、昨年度のメイン事業「とりアートスペシャルコンサート『鳥たちの音楽祭～FLY HIGH!～』」では、第二部のジャズピアノ・コンチェルト『ふるさと～Home in My Soul』は鳥取県出身の作曲家・岡野貞一の曲『故郷』をモチーフとしていた。それに対して、『アオイ』は、確かに都市から故郷に帰った女性に焦点をあてた内容で、多くの鳥取県民にとって身近な出来事として感じられるものであったが、あくまでも抽象的な故郷であり、必ずしも鳥取と関係のあるテーマというわけではなかった。しかしこの点は、これまでのメイン事業の題材が古典に偏っていたという課題を踏まえ、若い客層にも届くように工夫したとも捉えられる。再スタートとなったとりアートの方針を考慮すれば、鳥取らしさを重視するよりも、新鮮さを重視したことは、メイン事業に新たな展開をもたらしたと評価されるべきかもしれない。しかし、個人的な意見としては、鳥取県でないと思われる作品というのは、それだけで価値があるはずで、現代性を重視した作品であっても、テーマにおける鳥取県との関連性はあったほうが良いのではないかと考える²。

¹ 「創作ミュージカル アオイ」パンフレット、7頁。

² 「とりアート」報告会（2015年4月15日、倉吉体育文化会館）における事業実施者との意見交換によると、作中の地蔵のモチーフは、地域との縁があるという意見を頂いた。つまり、間接的には鳥取県との関連のあるテーマであった。

(2) 実施手法

「とりアートミュージカル公演実行委員会」によって実施された鳥取県発の創作ミュージカル『アオイ』は、「宝物」をテーマに原案を全国から公募し、優秀賞を受賞した「トレジャー☆ピクチャー」を基に制作された。出演者は全て鳥取県内在住の一般県民である。指導力の必要な演出家には文学座の西川信廣、また脚本・作詞には同じく文学座の瀬戸口郁が制作スタッフとして加わっている。また、山陰で活動する目次裕子と金森恵子が振付を担当し、さらに鳥取県吹奏楽連盟と鳥取県ミュージカル連盟が協力を名を連ねており、地元の優れた人材や文化団体と連携をとることで『アオイ』が制作されたことがわかる。

原案の公募、県内在住のキャスト・オーディション、専門家や地元の人材、文化団体に協力を依頼することで『アオイ』が制作されており、出演者および制作スタッフを集めるところからはじめられたことを考えると、鳥取県発の創作ミュージカルをゼロから制作した実施団体のたいへんな苦勞が窺われる。ゼロからはじめるには2年という長くない準備期間にもかかわらず、無事に公演を実施したことは評価されるべきだろう。

文字通りミュージカルをゼロから制作し、無事に公演を終えたことによって、今回『アオイ』に関わった多くの方々に対しての人材育成としての効果は大いにあるのではないかと推測される。

(3) 来場者の属性

「とりアートミュージカル公演実行委員会」によって提出された事業評価シートによると、本事業の来場者数は、675名である。また、アンケート結果(総数445枚)によると、性別は、男性131名(30.0%)、女性299名(70.0%)であった。これらは昨年度(男性38.72%)と比べると、男性がやや少なかったが、ほぼ例年並の比率である。来場者の年齢構成は、10歳代以下7.2%、20歳代10.24%、30歳代16.43%、40歳代21.9%、50歳代19.76%、60歳代19.28%、70歳以上5.23%で、10歳代から70歳代まではほぼ万遍なく分布しており、幅広い年齢層の来場者を集めたといえる。また、今年は40歳代が一番多く、同じく年齢構成が万遍なく分布した昨年度に比べると、全体的に年齢層がやや下がったことが特徴として挙げられる³。居住地は、米子市が6割(56.6%)を占めた。鳥取県の東部、中部からの集客が少なく、より幅広い地区からの集客が今後の課題といえる。

(4) 観客の反応

アンケート結果によれば、本公演の「全体として」の評価は、「とても満足」と「満足」を合わせて、目標85%に対して、実際には94.38%であった。これは、過去の「とりアート」メイン事業の満足度と比較しても極めて高い数値といえるだろう⁴。鑑賞者アンケート自由回答欄には、「素晴らしかった」「感動した」とのコメントが多数あり、これらは「県民」のニーズに沿った「メイン事業」としてふさわしい内容であったことを伝えるものである。参考意見として、少数の否定的ともとれるコメントを補足すれば、「子どもの泣き声」「宣伝不足」など公演内容自体の完成度ではないところの意見が多かった。

本公演の個別の評価項目として、「演技・歌唱・演奏等」「脚本」「演出」は、いずれも「特に満足された点」に挙げた人数が非常に多いものとなった。また、昨年度のメイン事業では課題として挙げられた「公演の長さ」も、今回の『アオイ』では、21日、22日ともおおよそ90分で、「特に工夫した方がよいと思われた点」として挙げられる人数も、非常に少ないものにとどまった。つまり、「公演の長さ」が適切であったことは大いに評価できる。

以上のように、観客の反応は総じて高評価であったといえる。また、今回のメイン事業の大きな特徴としては、アンケートの回収率の高さが挙げられる。目標30%に対して、実際は65.93%の回収率であった。もちろん事業実施者の努力による部分が大いと思われるが、本公演に対する観客の満足度の高さと、アンケートの回収率の高さは決して無縁ではないだろう。

3. 公演に対する総評

『アオイ』は、作品のタイプとして、歌や踊りといったミュージカルとしての要素よりも、演劇としての物語性の強い作風であると言えるだろう。そのため、相対的に見れば、歌や踊り以上にセリフや丁寧な演技が重視され、完成度の高い脚本によって支えられた作品であったと感じた。

現在と過去を行き来するファンタジックな物語は、しかしながら非常にリアリティのある心情表現を丁寧に描くことで大変わかりやすく出来ており、幅広い年齢層に届く内容であった。また、上京と帰郷

³ 昨年度の来場者の年齢構成は、10歳代以下8.94%、20代7.66%、30代8.51%、40代12.77%、50代20.85%、60代22.98%、70歳以上9.36%であった。

⁴ 昨年度は、85.1%であった。

という都市と地方をめぐる主人公の心の葛藤は、鳥取県民にとって親近感を覚えやすい設定であったと言えるだろう。さらに、キャリアウーマン、結婚、認知症など、現代社会が抱える問題を要素多く盛り込んだにもかかわらず、すべての伏線を丁寧に回収した点において、今回の脚本は、非常に完成度の高い素晴らしい内容であった。最終的に主人公アオイと同郷の元彼サトルを安易に恋愛成就させないことで、恋愛要素を強調しすぎず、全体のテーマをぼかさなかった点も良かった。あえて言えば、間延びさせないためにも、コミカルな小ネタをもう少し盛り込むことができればさらに満足度の高いものとなっていたように思う。

二段の会場のセットは、高低差をうまく使えて効果的であった。ただバンドが終始セットの下に隠れて、最後までスポットが当たらなかったのは残念に感じた。演劇重視のミュージカルとはいえ、もう少しバンドの活躍が見たかった。また、現代の都市を表すための看板によるネオンサインのセットは、むしろ現代の都市というよりも昭和の田舎を表しているように見えてしまい、少しもったいなかった。

観客として会場の1階席で鑑賞する分には問題なかったが、2階席からでは、セリフがところどころ聞き取りにくかった。会場の広さに対して音量に対する配慮がもっとあると良かったのではないだろうか。

ミュージカルとして見たとき、歌がより効果的になるような演出が可能ではないかと感じた。歌によって登場人物たちの心情表現を強調するなどの効果は見られたが、われわれがもっと歌や音楽に魅了され、没入できるような場面があっても良いように思った。それに対して、ダンスの使い方は、嵐を表したりすることで場面の切り替えに有効に機能しており、とても効果的に感じた。

4、課題と今後の展開へ向けて

以上のように、本事業は、ゼロから創り上げた創作ミュージカルという意欲的な取り組みで、観客の満足度のたいへん高いものに仕上がった点において、企画・運営ともに高く評価できる。また、鳥取県内からオーディションによって選ばれた出演者、原案の公募、プロの演出家による指導、地元の優れた人材や文化団体との協力、本公演を見た観客など、本事業に携わるさまざまなプロセスで人材育成の効果が期待されるだろう。その上で、今後の展開に向けて指摘できる課題は、集客の問題である。

入場者数は、目標 1800 に対して、実際には 675 であった。事業実施者からの報告によれば、専任の広報担当のプロデューサーを配置するなどの努力をされており、工夫がないわけではない。それでは、なぜ目標と数値的に大きな開きが生じたのだろうか。チケットの価格設定、住民参加でありながら高い芸術性を目指すことへの世間へのアピールの困難さなど、いくつか想定される問題点は考えられるが、より客観的に原因が究明されることが望ましい。入場者数の問題は、事業実施者のみの問題ではなく、むしろ「とりアート」全体で協力し、解決すべき課題であると考えている。

鳥取県文化芸術事業評価委員会

■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
おのうえ あきら 尾上 明	(株)新日本海新聞社新聞記者	会長
なかむら ゆりこ 中村 由利子	アトリエ yuri (フラワー&アート工房)、ワークショップデザイナー	副会長
いわさき るり子 岩崎 るり子	米子市文化協議会 (米子マンドリンオーケストラ)	
おかむら ようじ 岡村 洋次	元(株)新日本海新聞社記者	
おぐら ひろし 小椋 博志	倉吉室内合奏団 (コントラバス)、元河北中学校長	
おさき しょうへい 尾崎 正平	打吹音楽倶楽部ブレイメン顧問	
かじかわ さおり 梶川 紗緒里	大学生 (鳥取大学)	
かわい はるみ 河合 晴美	元サンケイリビング新聞社編集部	
くるま なおき 来間 直樹	建築士 (クルマナオキ建築設計事務所主宰)	
こんどう えいこ 近藤 映子	鳥取女声合唱団団長、鳥取市文化団体協議会理事	
たなか のぶひろ 田中 信宏	cocorostore 代表	
なんけ ひさみつ 南家 久光	行政書士 (南家行政書士事務所)	
まえだ なつき 前田 夏樹	鳥取短期大学生生活学科准教授	
むらた まゆみ 村田 真弓	鳥取県合唱連盟理事	
はまだ しげよし 浜田 重喜	一音会顧問、鳥取市文化団体協議会理事	

■事業別評価報告書執筆担当一覧

【平成25年度事業】(平成26年1月～3月に実施されたもの)

番号	事業名	期日	会場	実地検証 委員数	執筆委員 (●:主担当)
1	第35回鳥取県書道連合会展	2月21日(金)～25日(火)	米子市美術館	3	●吉野委員 松本会長

【平成26年度事業】(平成26年4月～平成27年2月に実施されたもの)

番号	事業名	期日	会場	実地検証 委員数	執筆委員 (●:主担当)
1	第5回 とっとり伝統芸能まつり	6月15日(日)	鳥取市民会館大ホール	1	●尾上会長
2	第53回鳥取県合唱フェスティバル (全日本合唱コンクール鳥取県大会)	8月17日(日)	米子市文化ホール	4	●岩崎委員 小椋委員
3	第58回鳥取県美術展覧会	9月20日(土) ～11月24日(月祝)	鳥取県立博物館ほか (鳥取・米子・日南・倉吉)会場での巡回 展示	11	●来間委員 岡村委員
4	第5回能楽鑑賞のタベ	9月23日(火・祝)	とりぎん文化会館梨花ホール	2	●浜田委員 来間委員
5	音楽日和ライブフェスティバル鳥取 2014 vol. 16	9月28日(日)	とりぎん文化会館小ホール	3	●尾崎委員 前田委員
6	鳥取県和太鼓連盟コンサート 「和太鼓ふるさとの響2014」	9月28日(日)	伯耆町民岸本体育館	3	●田中委員 岩崎委員
7	民謡のつどい～つどい 咲かそう お どりの輪～	10月11日(土)	鳥取産業体育館	2	●梶川委員 近藤委員
8	第38回鳥取県川柳大会	10月26日(日)	米子コンベンションセンター小ホール	2	●南家委員 尾崎委員
9	第12回鳥取県総合芸術文化際・とり アート2014西部地区事業	10月25日(土)・26日(日)	とっとり花回廊	3	●前田委員 村田委員
10	第12回鳥取県総合芸術文化際・とり アート2014中部地区事業	11月1日(土)・2日(日)・3日 (月・祝)	倉吉未来中心	5	●中村副会長 田中委員
11	第12回鳥取県総合芸術文化際・とり アート2014東部地区事業	11月8日(土)・9日(日)	とりぎん文化会館	4	●村田委員 中村副会長
12	県民による“第九”倉吉公演	11月3日(月・祝)	倉吉未来中心 大ホール	4	●近藤委員 尾上委員
13	第43回鳥取県民短歌大会	11月16日(日)	倉吉未来中心 セミナールーム	2	●南家委員 中村副会長
14	第41回鳥取県演劇連盟合同公演	11月16日(日)	倉吉未来中心 大ホール	7	●小椋委員 梶川委員
15	ヤングピアニストコンサート2014	11月22日(土)	米子市文化ホール	5	●村田委員 河合委員
16	第19回鳥取県美術家協会作品展	11月23日(日)～30日(日)	鳥取県立博物館 第1展示室	4	●梶川委員 小椋委員
17	第19回鳥取県俳句大会	11月30日(日)	さざんか会館	3	●河合委員 浜田委員
18	第36回鳥取県書道連合会展	12月10日(水)～14日(日)	倉吉博物館	6	●中村副会長 南家委員
19	吉月をどり	11月30日(日)	鳥取市民会館	1	●岡村委員
20	第12回鳥取県総合芸術文化際・とり アート2014メイン事業 創作ミュー ジカル「アオイ」	H27/2月21日(土)・22日(日)	米子市公会堂	7	●尾上会長 岡村委員

■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成26年 6月13日(金)	(1) 平成26年度文化芸術事業評価委員について (2) 平成25年度文化芸術事業評価報告書について (3) 平成26年度評価委員会の会長、副会長の選任について (4) 平成26年度評価方針・評価方法等について (5) 平成26年度評価対象事業の選定について (6) 平成26年度評価対象事業の現地検証及び執筆担当について (7) 平成25年度評価対象事業要改善計画の承認について (8) 平成26年度評価委員会の今後のスケジュールについて
第2回	平成26年 7月16日(水)	(1) 平成26年度文化芸術事業評価委員会副会長の就任について (2) 平成26年度専門家評価について (3) 平成26年度評価方針・評価方法・評価対象事業について (4) 平成26年度評価対象事業の現地検証、執筆担当について (5) 平成26年度評価項目(評価シート)等について (6) 平成26年度評価委員会の今後のスケジュールについて
第3回	平成27年 3月24日(火)	(1) 自己評価や現地検証レポート等による意見交換 (2) 事業別評価報告書(案)の検討 (3) 平成27年度評価対象事業の検討
第4回	平成27年 4月24日(金)	(1) 事業別評価の決定について (2) 総合評価の掲載内容について (3) 平成27年度評価対象事業の検討

※評価報告会(平成27年4月10日)において、評価結果(案)について事業実施者と意見交換

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあっては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県文化観光局文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

平成26年度

鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成27年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会事務局（鳥取県文化観光スポーツ局文化政策課内）

電話 0857-26-7134

ファクシム 0857-26-8108